

墨田の今昔 —写真カタログ—



墨田区立緑図書館



「豊田の今昔—写真カタログ—」正誤及追加表

ページ	番号	誤等	正・追加等
目次	69	—惨状	—惨状(総武線)
+	93~96	—附近	—附近(大水)
+	290	—幼稚園	—幼稚園
+	316	—避難	—避難(大水)
2	6	「東京名勝—」	「東都名勝—」
		(以下同様写真番号148・160・172・318)	
10	30	その建物の目安	建物の年代推定の目安
34	100	明治27年	明治27年7月
53	157	都内初の	昭和27年都内初の
76	227	言問団子	言問団子(流火燈台)
94	282	(解説文末に)	(戦後)
97	290	写真裏がズレて焼付	
102	305	—あろうか。	—あろうか。
+	+	隈田川口	—隈田川口

はじめに

写真資料は「百聞は一見にしかず」といわれるように、事柄をある一面で如実に物語ってくれる。この写真集は、緑図書館で所蔵する写真の目録（カタログ）を果すもので、紙数の関係で掲載できなかったものも幾分あるが、錦絵類の写真を除いて、幕末・明治以後から昭和30年代のものを収録した。しかし、終戦前後の写真が少なく、そのことが残念といえる。今後のご協力をお願いしたい。写真収集に、ご協力ねがった方々に改めてお礼申しあげたい。緑図書館所蔵写真の利用の手引に、また墨田のよってきたった様子をみていただければ幸いである。



目

次

1 両国橋(明8).....	1	41 両国橋停車場(現両国駅)(明40).....	14
2 両国橋(明35).....	1	42 両国停車場附近の大水(明43).....	14
3 両国橋(明40).....	1	43 両国駅前(昭32).....	15
4 両国橋(明45).....	2	44 両国百本杭(明中).....	15
5 両国橋(大7).....	2	45 両国百本杭(明40).....	15
6 浜町河岸から両国(墨田区側)を望む(大7)...	2	46 両国百本杭(明40).....	16
7 両国橋(大10).....	3	47 両国百本杭(明40).....	16
8 両国橋(大10).....	3	48 水練場(明40).....	16
9 震災の被害を蒙った両国橋(大12).....	3	49 水練場(明40).....	17
10 両国橋(昭初).....	4	50 一ツ目弁天の岩窟(江島杉山神社)(昭6).....	17
11 両国橋(昭5).....	4	51 千才河岸 石材置場(明40).....	17
12 両国橋(昭7).....	4	52 本所区役所相生町時代(現緑1-11)(明30)...	18
13 両国橋(昭10).....	5	53 両国日活(昭38).....	18
14 両国の花火(明40).....	5	54 亀沢町通り(明40).....	18
15 両国の川開きの準備(大8).....	5	55 亀沢町交差点(現緑1丁目交差点)(昭4).....	19
16 両国・回向院門前(明30).....	6	56 終戦直後の都電(昭20).....	19
17 両国・回向院(明30).....	6	57 都電風景(昭40).....	19
18 両国・回向院(大13).....	6	58 東武鉄道株式会社(本所横網町)(明41).....	20
19 建設中の両国旧国技館(明41).....	7	59 陸軍被服本廠(本所被服廠)(明41).....	20
20 両国・国技館(明42).....	7	60 本所被服廠跡に避難した人達(関東大震災)	
21 大相撲のマス席風景(明43).....	7	(大12).....	20
22 両国・国技館(明45).....	8	61 本所被服廠跡における惨状(関東大震災)(大12)	
23 両国・国技館(明45).....	8	21
24 両国・国技館(明45).....	8	62 本所被服廠跡の惨状(大12).....	21
25 両国・国技館(明末).....	9	63 大震災の災害を受けた安田邸の庭(現安田庭	
26 両国・国技館(大初).....	9	園)(大12).....	21
27 両国・国技館(大5).....	9	64 陀火にふされた被服廠跡の被災者の遺骨の山	
28 両国・国技館(大5).....	10	(大12).....	22
29 被災した国技館(大12).....	10	65 遺骨の山を拝む人々(大12).....	22
30 両国・国技館(昭7).....	10	66 本所被服廠跡につくられた納骨堂(大12).....	22
31 両国・国技館(昭5).....	11	67 被服廠跡につくられた納骨堂におまいりする	
32 両国・国技館(昭7).....	11	人々(大12).....	23
33 両国・国技館(昭19).....	11	68 建設中の震災記念堂(現都慰霊堂)(昭4).....	23
34 両国・国技館(昭15).....	12	69 関東大震災の惨状(大12).....	23
35 戦災で焼野原となった両国界限(昭20).....	12	70 江東青果市場(昭4).....	24
36 戦災にあった国技館(昭20).....	12	71 本所高等小学校(現両国中学校)(昭4).....	24
37 メモリアル・ホールとされた国技館(昭23)...	13	72 新しく架橋された蔵前橋(昭7).....	24
38 国際スタジアム(旧国技館)(昭30).....	13	73 進駐軍に接收されていた同愛病院(昭26).....	25
39 両国橋界限(航空写真)(大11).....	13	74 麩橋(明40).....	25
40 両国橋停車場(現両国駅)(明40).....	14	75 両国の花火(昭36).....	25

76	厩河岸(明40).....	26
77	厩橋附近の惨状(関東大震災)(大12).....	26
78	厩橋(昭4).....	26
79	厩橋(昭10).....	27
80	厩橋(昭26).....	27
81	第2回アジア競技大会の聖火(昭33).....	27
82	石原を通る花電車(昭33).....	28
83	本所尋常小学校(現豎川中学校)(昭4).....	28
84	南割下水(明41).....	28
85	南割下水(明41).....	29
86	南割下水の冠水(明43).....	29
87	江東病院(明40).....	29
88	寿座(歌舞伎)(明41).....	31
89	強制疎開(緑町)(昭19).....	30
90	東京市本所区役所(明45).....	30
91	野見宿祢神社(明41).....	31
92	亀沢総武線ガード下の立退き(昭37).....	31
93	本所三ッ目通り総武線ガード附近(明43).....	31
94	亀沢町附近(明43).....	32
95	本所割下水附近(明43).....	32
96	亀沢町附近(明43).....	32
97	日進尋常小学校(昭4).....	33
98	本所花町界限(不明).....	33
99	戦後の学校住宅(昭28).....	33
100	本所停車場(現錦糸町駅)(明41).....	34
101	東京府立第三中学校(現両国高校)(不明).....	34
102	府立三中(現両国高)より総武線を望む(昭7).....	34
103	府立三中より錦糸町駅を望む(昭7).....	35
104	錦糸町の花電車(昭1).....	35
105	錦糸町駅前(昭27).....	35
106	錦糸町映画街(昭32).....	36
107	錦糸町駅前(昭32).....	36
108	長崎橋より中之橋を望む(昭32).....	36
109	陸軍の糧秣本廠(錦糸堀)(明41).....	37
110	錦糸堀(昭6).....	37
111	錦糸公園(昭7).....	37
112	精工舎正門(明30).....	38
113	精工舎(明36).....	38
114	戦後に建てられた都営バラック(昭28).....	38
115	本所病院(現墨東病院).....	39
116	旅所橋(明41).....	39
117	四ッ目の牡丹園(植文)(明45).....	39
118	江東橋1丁目附近の材木店(昭15).....	40
119	菊川2丁目附近の材木店(昭15).....	40
120	本所柳原河岸の製材所(昭15).....	40
121	宮田製銃所(宮田自転車)(明30).....	41
122	中和小学校(明7).....	41
123	厩橋花火問屋の爆発(昭30).....	41
124	東駒形通り(昭4).....	42
125	明德尋常小学校(昭4).....	42
126	三ッ目通り(昭32).....	42
127	墨田公共職業安定所(昭32).....	43
128	吾妻橋(明初).....	43
129	吾妻橋(明初).....	43
130	吾妻橋(明初).....	44
131	吾妻橋(明40).....	44
132	吾妻橋(明40).....	45
133	吾妻橋(明40).....	45
134	吾妻橋(明45).....	45
135	関東大震災の被害にあった吾妻橋(大12).....	45
136	関東大震災の被害にあった吾妻橋(大12).....	46
137	吾妻橋(大14).....	46
138	浩養園(現アサヒビール吾妻橋工場)(明30).....	46
139	サッポロビール本所吾妻橋工場(明40).....	47
140	吾妻橋サッポロビール工場附近(明43).....	47
141	浅草上空から墨田方面を望む(昭7).....	47
142	大横川河岸(明41).....	48
143	法恩寺橋通り(明40).....	48
144	靈山寺(大10).....	48
145	帝国大学セツルメント(昭10).....	49
146	本所天神橋通り(明43).....	49
147	柳島妙見門前(明40).....	49
148	柳島妙見社前(大8).....	50
149	震災後の柳島妙見(昭6).....	50
150	料亭・橋本(明40).....	50
151	北十間川(明40).....	51
152	押上・業平附近の航空写真(大11).....	51
153	京成電車本社(昭18).....	51
154	京成押上駅(昭32).....	52
155	京成押上駅ホーム(昭32).....	52
156	京成押上駅(昭32).....	52
157	押上を通るトロリーバス(昭27).....	53
158	業平橋附近の都電とトロリーバス(昭32).....	53
159	小梅瓦町瓦焼場(明40).....	53
160	曳舟川(大8).....	54
161	曳舟川(昭25).....	54
162	埋立てられた曳舟川(昭30).....	54
163	常泉寺山門(明40).....	55
164	常泉寺十返の松(明40).....	55
165	都電向島線最後の日(向島2丁目附近)(昭44).....	55

166	曳舟川(明初).....	56	210	一銭蒸気船内(昭10).....	70
167	曳舟通り向島3丁目附近(昭32).....	56	211	隅田川船着場(昭10).....	71
168	牛島小学校(大初).....	56	212	隅田公園の桜(昭15).....	71
169	高木神社(明40).....	57	213	雪景色の隅田公園(昭26).....	71
170	秋葉神社(明40).....	57	214	戦後の隅田公園(昭27).....	72
171	秋葉神社の松(明40).....	57	215	向島牛島神社附近(明43).....	72
172	曳舟川通り(秋葉神社裏)(大8).....	58	216	牛島神社(明40).....	72
173	向島市場(昭6).....	58	217	牛島神社(大初).....	73
174	東武線曳舟駅(昭32).....	58	218	旧防空壕(昭40).....	73
175	曳舟川埋立工事(昭29).....	59	219	三囲神社(明40).....	73
176	曳舟川鶴土手橋(昭32).....	59	220	三囲神社(昭6).....	74
177	曳舟川(昭28).....	59	221	弘福寺(明40).....	74
178	鳥井陶器製造所(鳥居白レンガ)(明末).....	60	222	長命寺芭蕉堂(明40).....	74
179	鳥井工場(鳥居白レンガ)(昭初).....	60	223	長命寺(昭6).....	75
180	枕橋の渡し(山之宿の渡し)(明30).....	60	224	長命寺(昭33).....	75
181	枕橋から料亭八百松と浅草を望む(明30).....	61	225	言問団子(明初).....	75
182	枕橋より料亭八百松と浅草方面を望む(明40).....	61	226	言問団子(明30).....	76
183	枕橋から八百松・浅草を望む(明40).....	61	227	言問団子(明40).....	76
184	東武線隅田公園駅(臨時)より枕橋・松屋を望む(昭7).....	62	228	隅田川レガッター(明42).....	76
185	浅草松屋より隅田公園方向を望む(昭28).....	62	229	言問団子(昭5).....	77
186	枕橋水戸邸入口(明40).....	62	230	言問団子(昭15).....	77
187	水戸邸(明40).....	63	231	商科大艇庫(現一橋大)(昭40).....	77
188	水戸邸玄関に勢ぞろいした町内神輿(大).....	63	232	小梅町附近の大水(明43).....	78
189	隅田川舟遊び(明初).....	63	233	向島新小梅町附近(明43).....	78
190	墨田堤(明10).....	64	234	向島須崎町附近(明43).....	78
191	墨田堤の桜花(明30).....	64	235	向島和田邸海棠園(明30).....	79
192	墨田堤の茶店(明30).....	64	236	向島須崎町附近(明43).....	79
193	隅田川舟遊び(明30).....	65	237	堤通り(旧墨堤)(昭32).....	79
194	墨田堤竹屋の渡し(明30).....	65	238	堤通り(旧墨堤)(昭32).....	80
195	墨田堤竹屋の渡し(明40).....	65	239	旧大倉別邸入口(昭32).....	80
196	墨田堤の桜と竹屋の渡し(明40).....	66	240	幸田露伴旧居(蝸牛庵)(昭32).....	80
197	墨田堤竹屋の渡し(明40).....	66	241	鳩の街(昭27).....	81
198	墨田堤竹屋の渡し(明40).....	66	242	向島授産場(昭32).....	81
199	待乳山の渡し(竹屋の渡し)(明40).....	67	243	寺島小学校運動会(現第一寺島小学校)(明43).....	81
200	墨田堤(明40).....	67	244	第一寺島小学校附近(昭10).....	82
201	墨田堤花見のにぎわい(明40).....	67	245	墨田川高校(昭32).....	82
202	墨田堤花の賑い(明40).....	68	246	寺島・大師橋(明30).....	82
203	墨田堤の桜(明45).....	68	247	寺島広小路附近(東向島広小路)(昭32).....	83
204	隅田川絵ハガキ(大末).....	68	248	百花園(明40).....	83
205	新しくなった墨田堤(隅田公園)(昭6).....	69	249	百花園(明40).....	83
206	新しく架橋された言問橋と隅田公園(昭6).....	69	250	百花園(明40).....	84
207	隅田公園(昭7).....	69	251	百花園(明42).....	84
208	隅田公園の花見(昭10).....	70	252	百花園(明末).....	84
209	隅田川蒸気船(昭10).....	70	253	百花園御成座敷(昭10).....	85
			254	百花園御成座敷(昭10).....	85

255	百花園(昭12).....	85	300	堤通りにあった都営住宅(昭40).....	100
256	百花園(昭12).....	86	301	水神八百松(明40).....	101
257	百花園(昭12).....	86	302	梅若塚木母寺(明初).....	101
258	百花園桑御殿(昭12).....	86	303	梅若塚木母寺(明初).....	101
259	百花園料亭「ちとせ」(昭12).....	87	304	梅若塚木母寺(明30).....	102
260	百花園横通り(葬儀風景)(昭初).....	87	305	木母寺附近(大8).....	102
261	寺島の渡し(昭初).....	87	306	梅若塚木母寺(昭6).....	102
262	墨田堤(墨堤)(昭12).....	88	307	梅若塚木母寺(昭32).....	103
263	白鬚附近の大水(明43).....	88	308	梅若堀(昭32).....	103
264	白鬚神社(明40).....	88	309	墨堤鐘紡附近(大初).....	104
265	白鬚神社(昭6).....	89	310	鐘ヶ淵紡績会社(明30).....	104
266	白鬚神社(昭6).....	89	311	鐘ヶ淵紡績会社(明末).....	104
267	白鬚神社(昭12).....	89	312	鐘ヶ淵紡績会社(昭26).....	104
268	墨堤の桜(明30).....	90	313	東武線鐘ヶ淵駅(明40).....	105
269	白鬚神社附近での労働者大会(明34).....	90	314	多聞寺(明40).....	105
270	白鬚の渡しへの道(明30).....	90	315	多聞寺山門(不明).....	105
271	白鬚の渡し(橋場の渡し)(大末).....	91	316	隅田村の東武線路上に避難(明43).....	106
272	白鬚橋(大3).....	91	317	荒川放水路開削のため移転する鈴木家(大初)	
273	木造時代の白鬚橋(大10).....	91		106
274	木造時代の白鬚橋(大末).....	92	318	綾瀬川綾瀬橋(大8).....	106
275	白鬚橋を望む(昭6).....	92	319	綾瀬川(昭5).....	107
276	白鬚橋から久保田鉄工所を望む(昭32).....	92	320	中居堀(昭15).....	107
277	京成白鬚駅(昭11).....	93	321	吾嬬神社(明30).....	107
278	寺島・小倉別邸(大7).....	93	322	吾嬬神社(大8).....	108
279	寺島・小倉別邸(大7).....	93	323	吾嬬神社(昭初).....	108
280	寺島・小倉別邸の庭(大7).....	94	324	吾嬬神社(昭5).....	108
281	東武玉ノ井駅(昭32).....	94	325	吾嬬神社(昭8).....	109
282	玉ノ井附近での紙芝居(戦後).....	94	326	慈光院(昭5).....	109
283	旧玉ノ井銘酒屋街(昭10).....	95	327	国道環状線(昭5).....	109
284	旧玉ノ井銘酒屋街(昭15).....	95	328	長瀬商会吾嬬町工場(現花王石けん)(大11)	110
285	京成バス寺島営業所(昭7).....	95	329	吾嬬町役場(昭6).....	110
286	いろは通り(栄通り)(昭32).....	96	330	小村井梅園(江東梅園)(明30).....	110
287	隅田町役場(昭5).....	96	331	十間橋通り(昭5).....	111
288	寄席・隅田館(昭5).....	96	332	東武鉄道天神駅(昭5).....	111
289	隅田の町並み(昭10).....	97	333	吾嬬製鋼所(昭20).....	111
290	スミダ幼稚園(不明).....	97	334	吾嬬製鋼所(昭32).....	112
291	梅若消防署より新四ッ木橋を望む(昭32).....	97	335	三輪里稻荷神社(昭5).....	112
292	隅田の出水(昭35).....	98	336	吾嬬診療所(昭6).....	112
293	隅田下通り(昭42).....	98	337	治郎兵衛梅園(木下川梅園)(明30).....	113
294	隅田風景(明初).....	99	338	常磐の笠松(鹿倉吉兵衛氏庭内)(昭5).....	113
295	隅田の農村風景(明末).....	99	339	旧中川・平井橋附近(昭10).....	113
296	隅田川神社(水神)(明40).....	99	340	新四ッ木橋(昭27).....	114
297	墨堤から水神を望む(大8).....	99	341	新四ッ木橋渡り初め(昭27).....	114
298	真崎稲荷辺より梅若堀を望む(大8).....	100			
299	隅田川神社(昭6).....	100			

1 両国橋

最初の架橋は、明暦の大火後の万治2年（1659）で、その後、火災・水害で数多く架けかえられ、最後の木橋は明治8年12月であった。

明治8年12月



2 両国橋

外輪船永島丸がみえ、小名木川を通り江戸川をつたわって銚子方面まで運航されていた。

明治35年頃



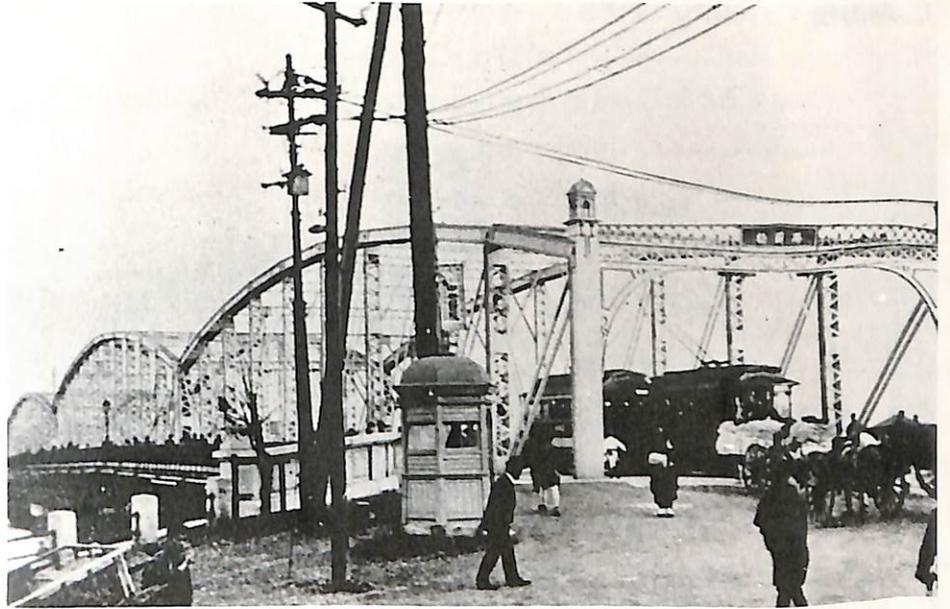
3 両国橋

明治37年木橋にかわって、鉄橋が架けられた。吊橋に属する、いわゆる鉋橋であった。

明治40年頃



4 両国橋



明治45年
「東京名勝図絵」より

5 両国橋



大正7年
「東京名勝図絵」より

6 浜町河岸から両国(墨田区側)、
を望む



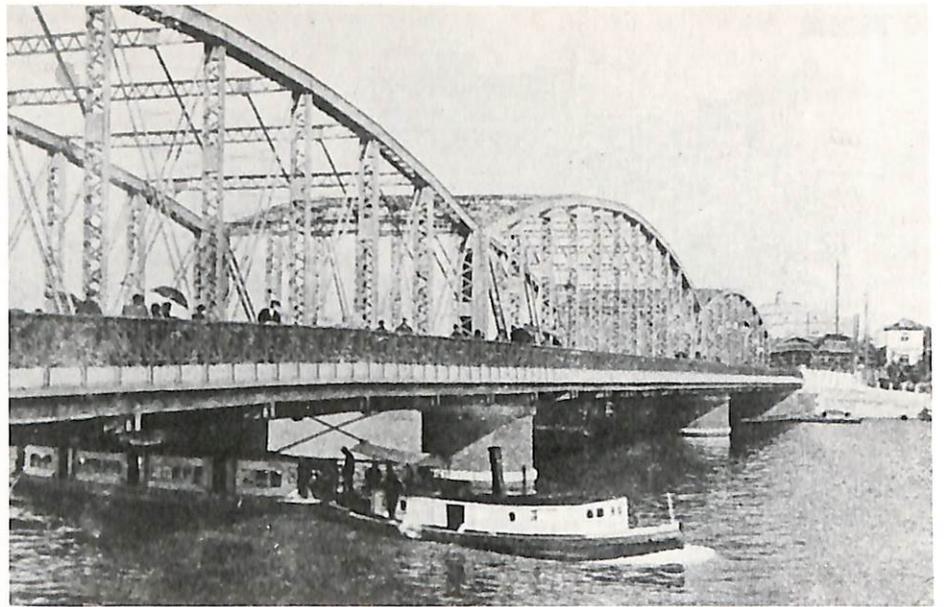
レンガ造りの八角の建物(現存)
もみえる。

大正7年
「東京名勝図絵」より

7 両国橋

蒸気船が千住大橋方面までかよっていた。

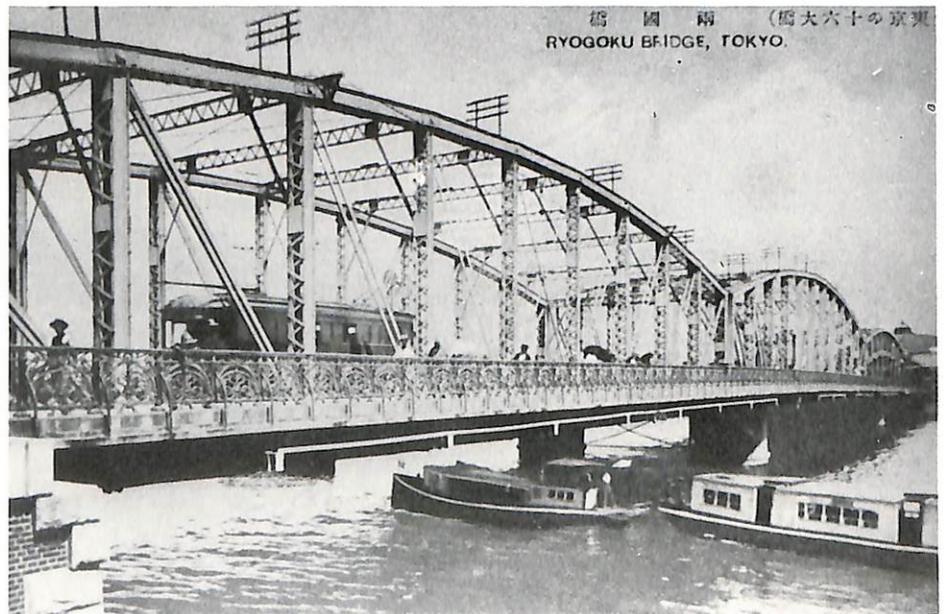
大正10年頃



8 両国橋

一銭蒸気船は、明治18年八丁堀中之橋と千住大橋との間を5区に分け、1区1銭で営業していた。また明治39年隅田川汽船会社が吾妻橋から永代橋までの往復路線を開設してもいた。

大正10年頃



9 震災の被害を蒙った両国橋

橋の上流側の欄かんの被害が大きかった、柳橋を望む。

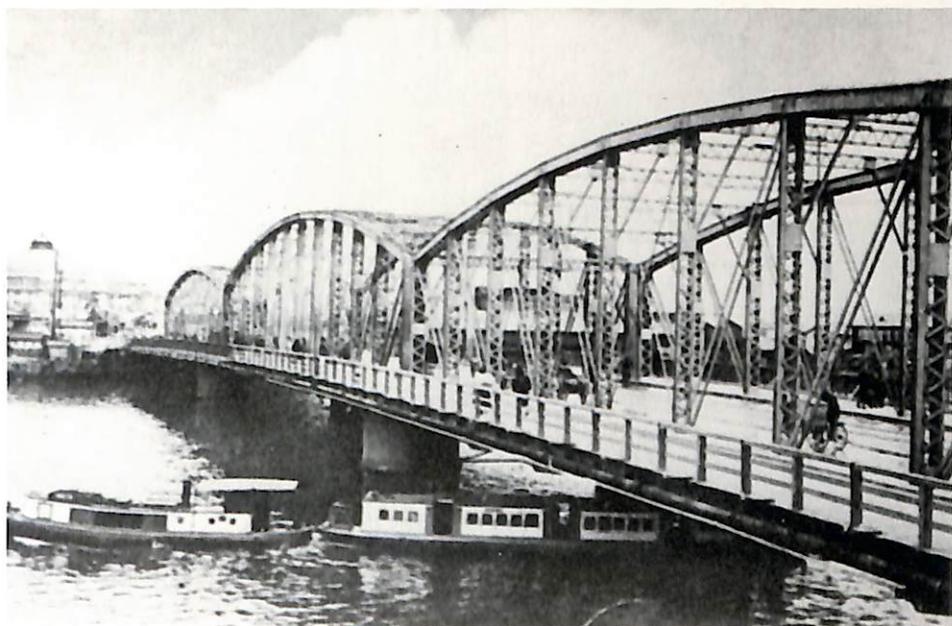
大正12年9月



10 両国橋

震災により、欄かんが仮のもの
になっている。

昭和初期



11 両国橋

震災記念堂（現 東京都慰霊堂）
が建築中である。

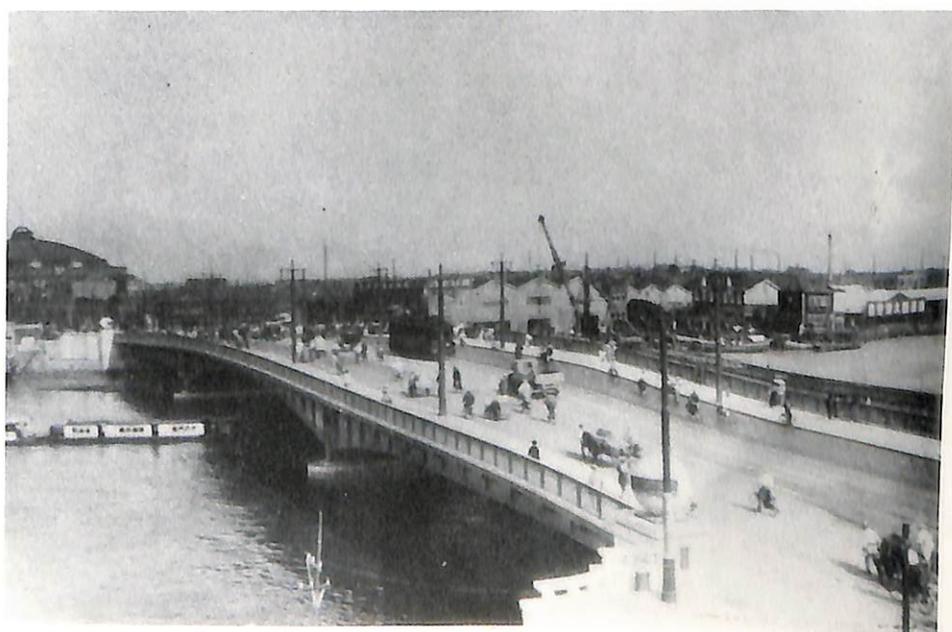
昭和5年



12 両国橋

震災後、昭和7年になって、現
在の橋が完成した。

昭和7年
「大東京写真帖」より



13 両国橋



昭和10年頃

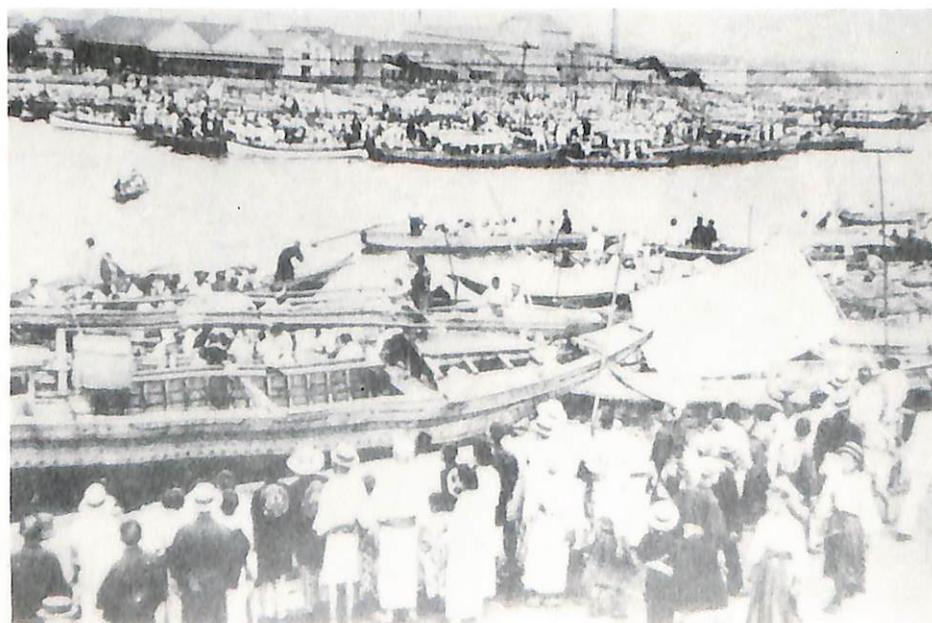
14 両国の花火

享保の水神祭に始まる花火大会も、維新・戦中戦後の中断期を経て、昭和36年まで続いた

明治40年



15 両国川開きの準備

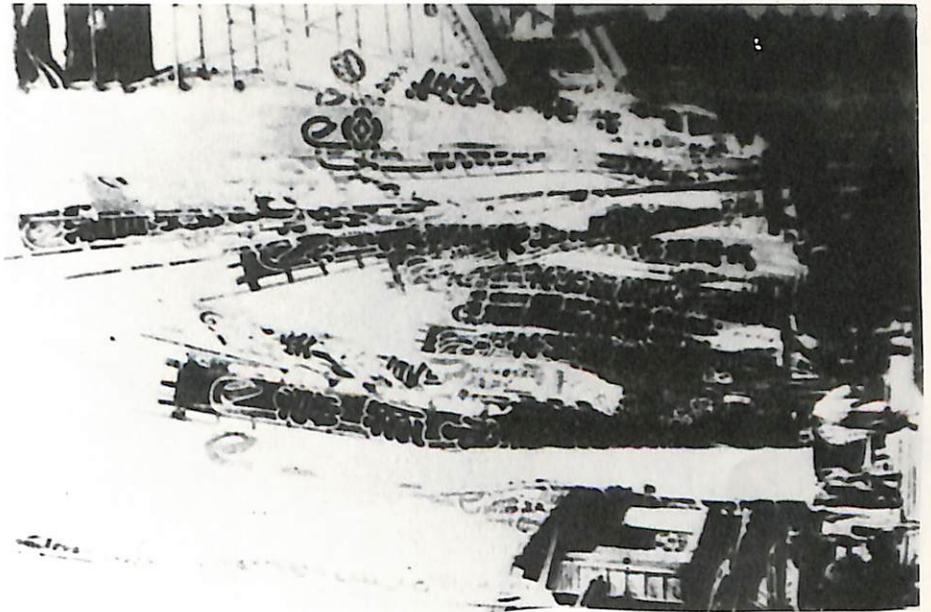


大正8年

16 両国 回向院門前

相撲幟りがみられ寛政3年（1791）より大相撲本場所となり、明治42年には南側から本堂東北の空地に国技館が建設された。

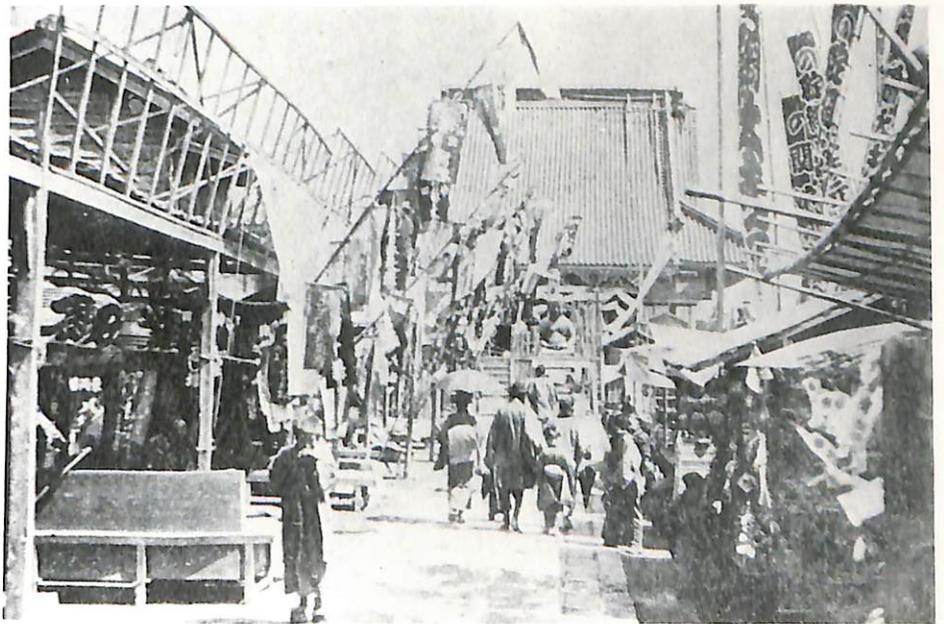
明治30年頃



17 両国 回向院

明暦3年（1657）の大火により、江戸の過半が焼失し、死者は10万人を超えた。この大火の焼死者などを集めて、埋葬し塚を築き回向したのが、回向院の始まりである。相撲幟りがにぎやか。

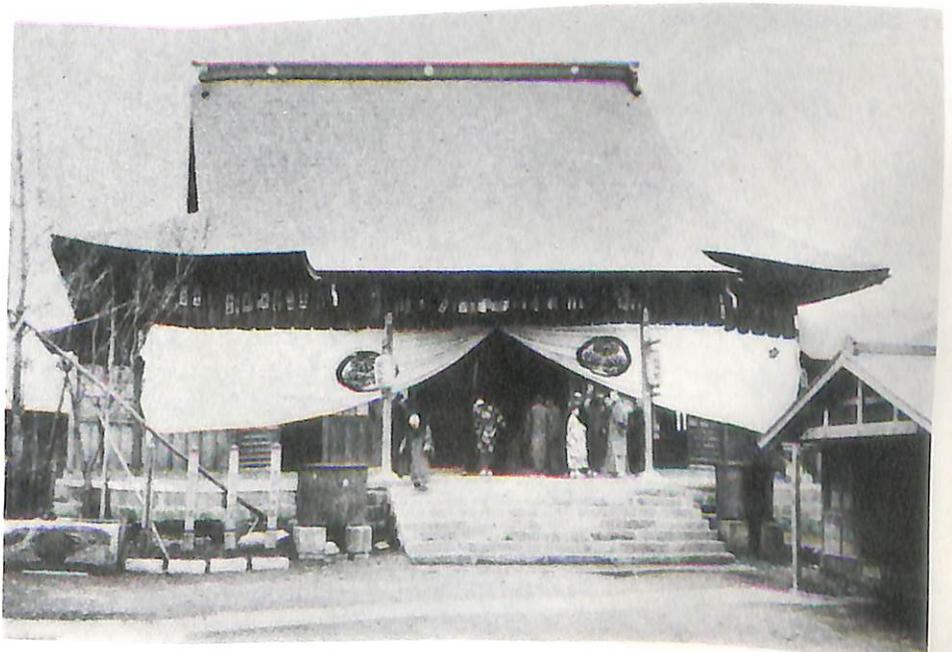
明治30年頃



18 両国 回向院

関東大震災後の本堂

大正13年



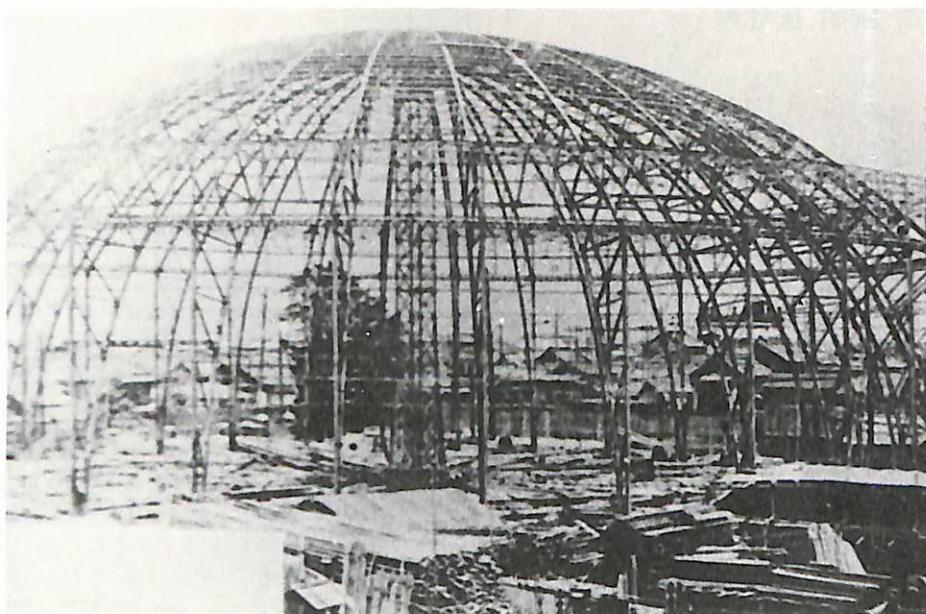
19 建設中の両国旧国技館

明治41年10月起工、42年5月竣工した。

設計 辰野金吾氏

直径 200尺、高さ 80尺。

明治41年



20 両国 国技館

まだ建設工事のようにみえる

明治42年



21 大相撲のマス席風景

開館後2回目の明治43年1月14日からマス席が開設された。

明治43年

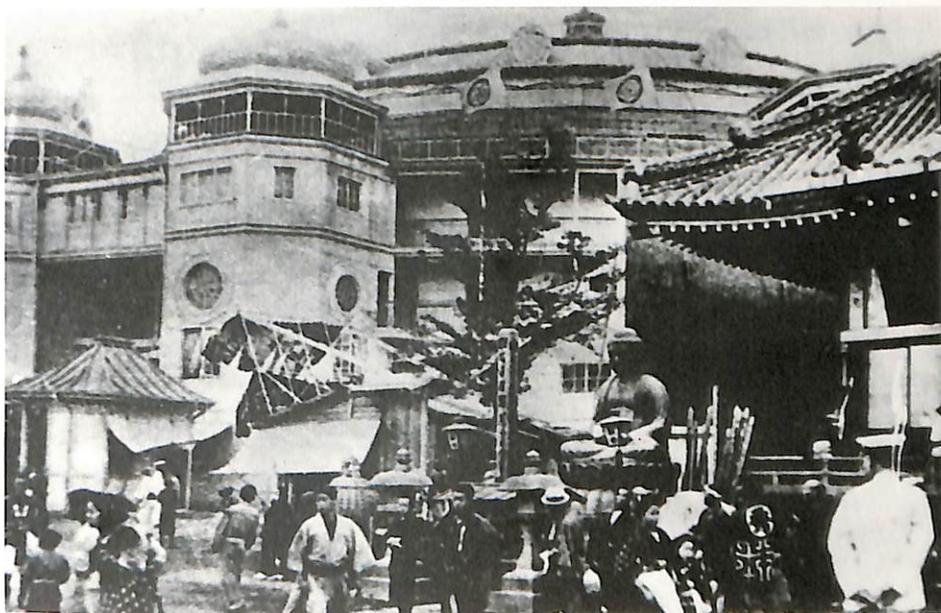


22 両国 国技館



明治45年
「東京名勝図絵」より

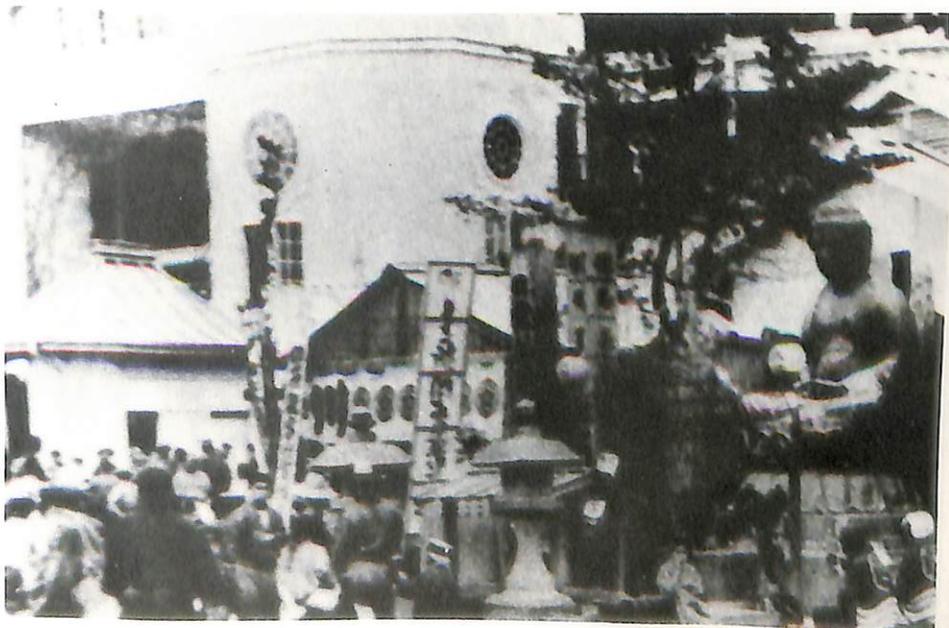
23 両国 国技館



回向院境内からみる

明治45年頃

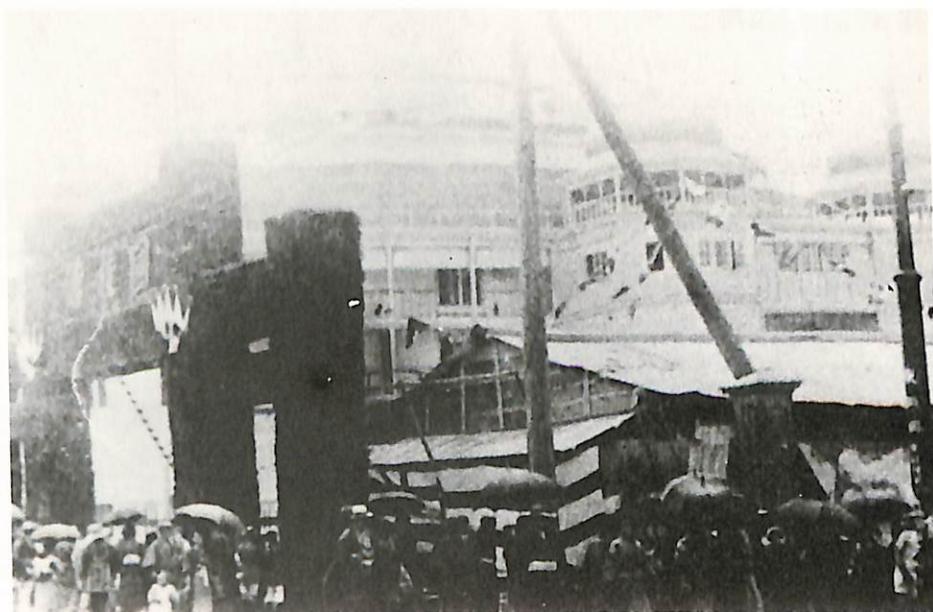
24 両国 国技館



回向院境内からみる

明治45年頃

25 両国 国技館



明治末年

26 両国 国技館



手前になまこ壁の建物が造くられた。

大正初年

27 両国 国技館

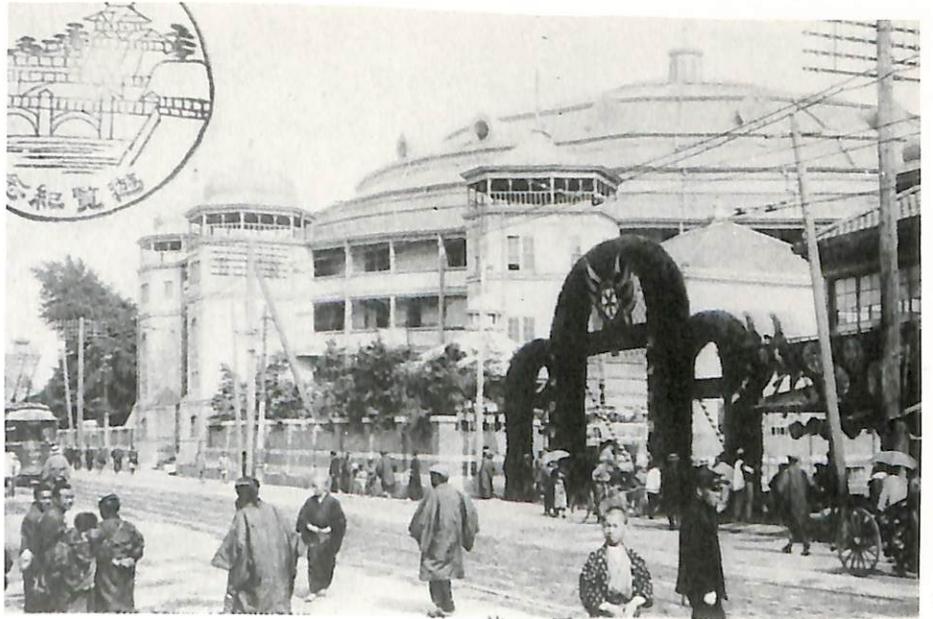


大正5年頃

28 両国 国技館

明治42年竣工するが、大正6年11月29日焼失し、8年11月に再完成される。そして、震災。

大正5年頃



29 被災した国技館

関東大震災直後で、両国橋際から望む。

大正12年9月



30 両国 国技館

再建では、屋上の塔・屋根の換気窓・階段部分の塔などが改たまり、建物の目安となっている。

昭和7年
「大東京写真帖」より



31 両国 国技館



昭和5年頃

32 両国 国技館



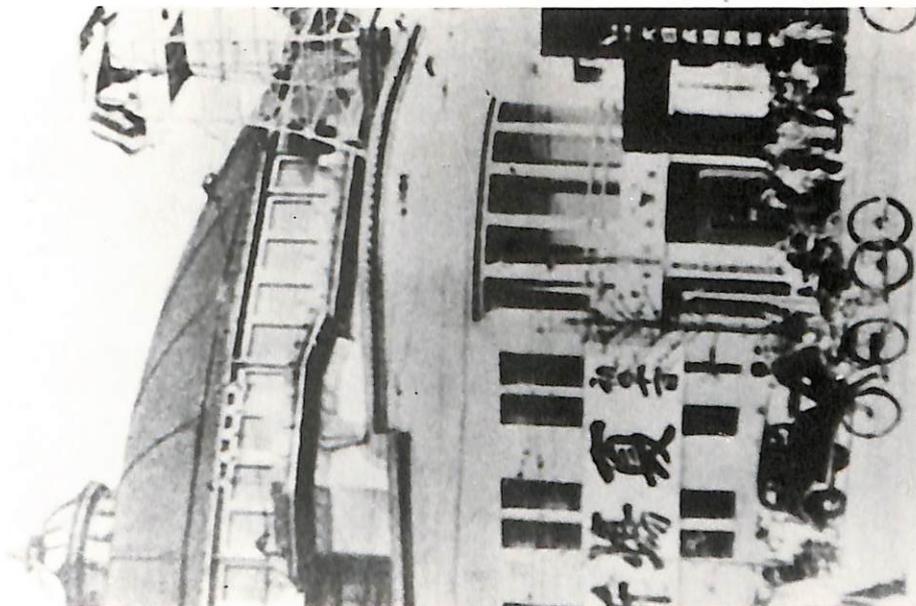
昭和7年
「大東京都市写真帖」より

33 両国 国技館



昭和10年頃

34 両国 国技館



昭和15年頃

35 戦災で焼野原となった 両国
界隈



両国駅の南側に少しだけ焼け残った家々がみえ、国技館・両国小学校が目立っている。

昭和20年

36 戦災にあった国技館



昭和20年

37 メモリアル・ホールとされた
国技館

本所公会堂・同愛病院など区内
主要建物のいくつかが進駐軍に
接收された。国技館は娯楽場と
して接收された。

昭和23年頃



38 国際スタジアム(旧国技館)

旧国技館が、進駐軍に接收され、
解除後(27.3)は、東洋一のロ
ーラースケート場としてお目見
えした。

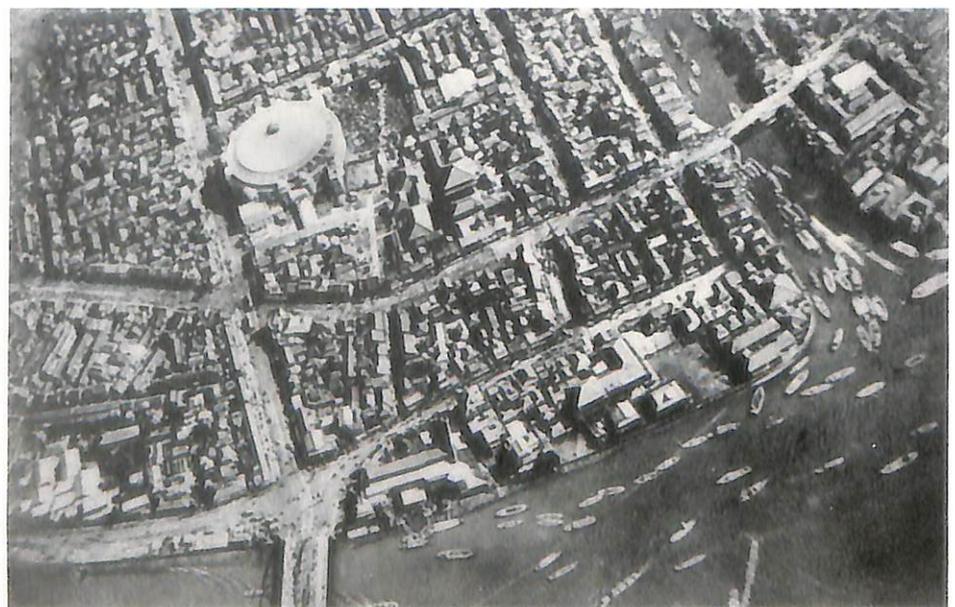
昭和30年



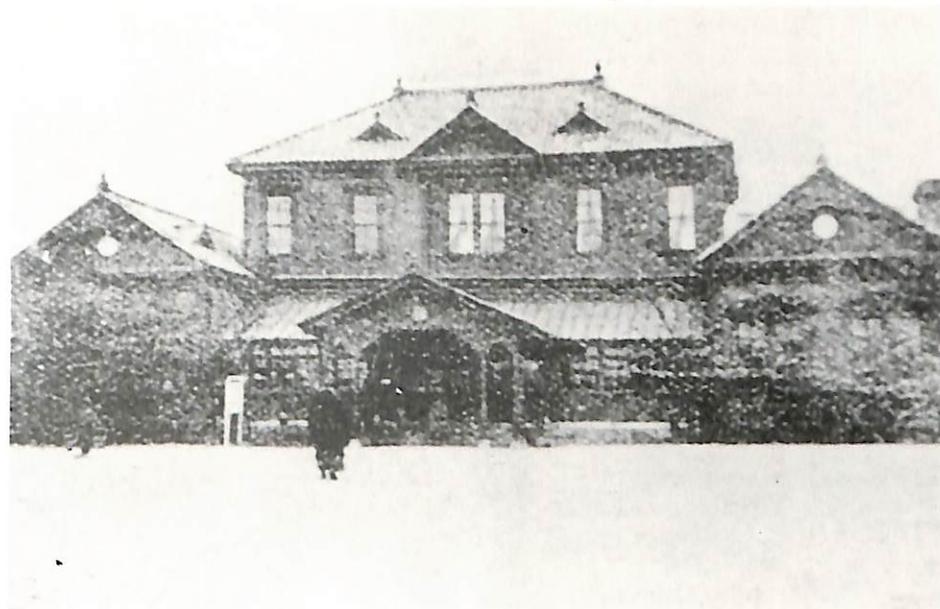
39 両国橋界限(航空写真)

隅田川をゆきかう船の多いこと
におどろく。

大正11年



40 両国橋停車場（現 両国駅）



明治37年4月本所停車場(現 錦糸町) から、両国橋まで延長された。

明治40年頃

41 両国橋停車場（現 両国駅）



明治40年に総武鉄道株式会社から国有鉄道となり、昭和6年に両国駅と改名され、翌7年お茶の水まで延長される。

明治40年

42 両国停車場附近の大水



明治43年8月の大洪水

明治43年8月

43 両国駅前

両国駅の北側車庫から新宿駅までの都電が走っていた。

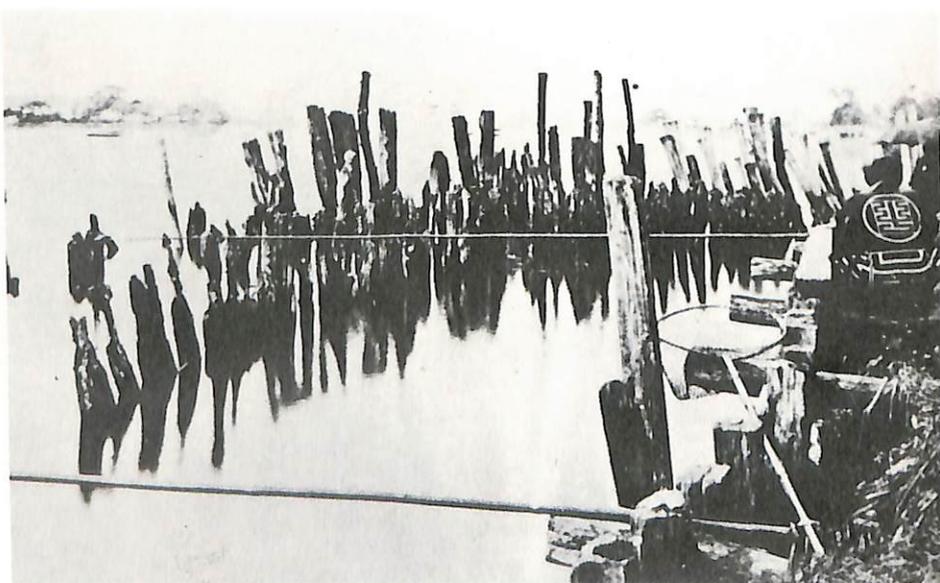
昭和32年



44 両国百本杭

釣りの名所で、とくに紫鯉は有名であった。

明治中頃
「釣具曼陀羅」より



45 両国百本杭

明治40年



46 両国百本杭

隅田川が大きくカーブするところに、その流水を弱めるため杭を沢山打ちこんだものであろう。

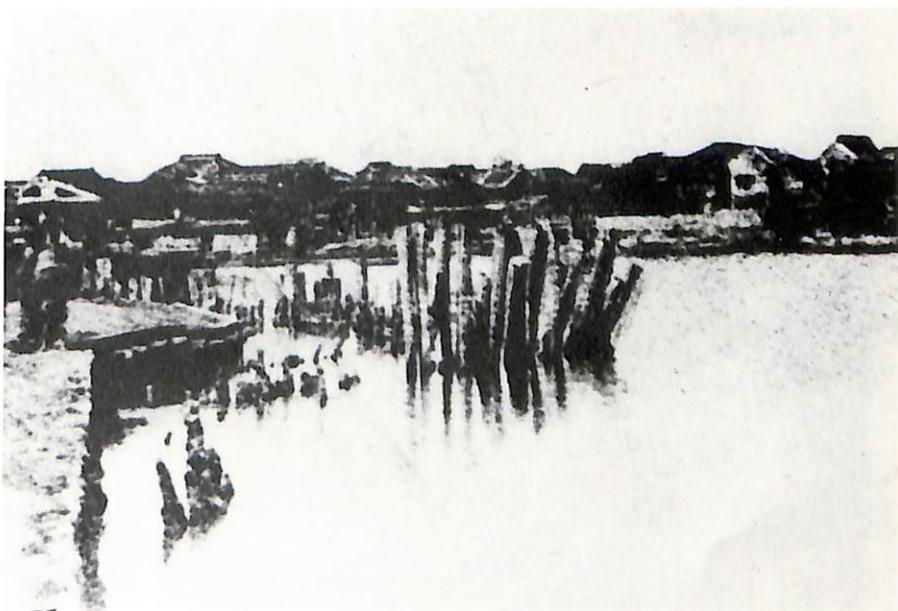
明治40年代



47 両国百本杭

現在の総武線のガード付近と思われる。

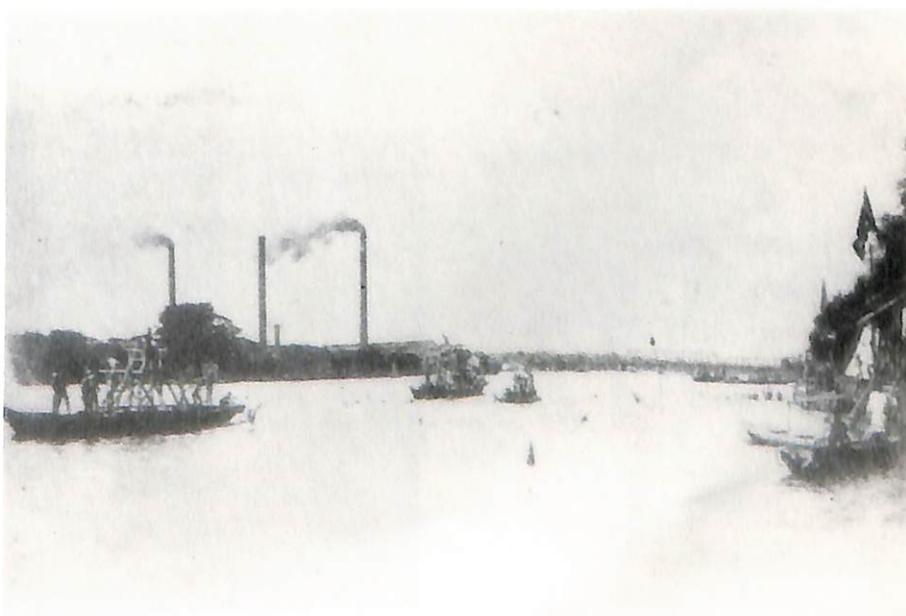
明治40年頃



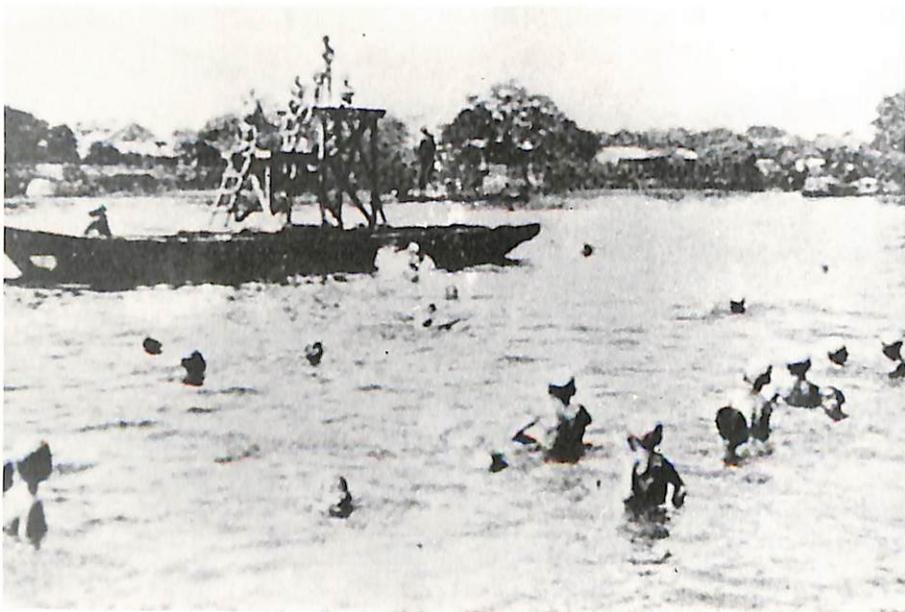
48 水練場

両国橋を中心として、下流は右岸、上流は左岸に多く水泳場が夏場開かれた。麩橋がみえる

明治40年



49 水練場



対岸は浜町河岸であろうか。

明治40年頃

50 一ッ目弁天の岩窟（江島 杉山神社）



関東大震災後の風景で、元禄時代杉山検校が江の島の弁才天をまつたものである。

昭和6年

51 千才河岸 石材置場



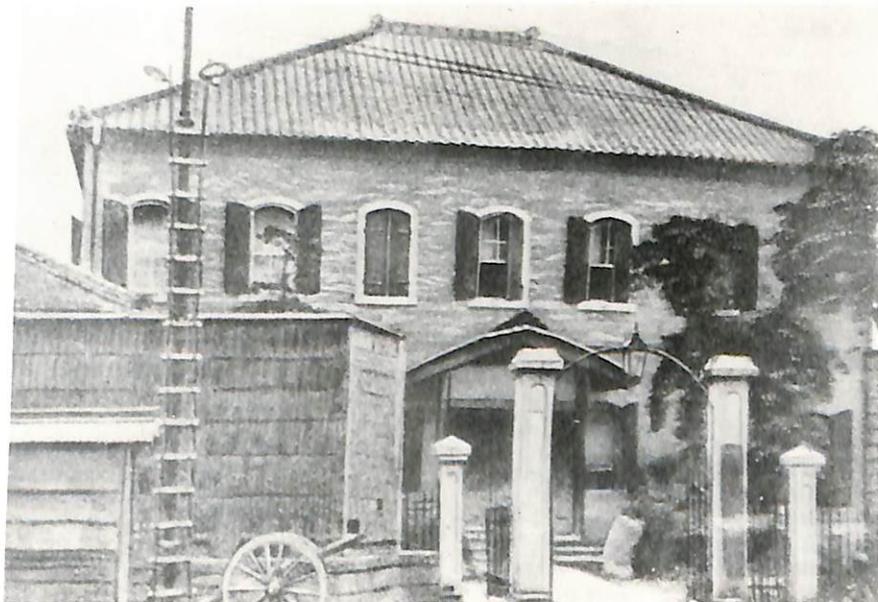
隅田川に面して石材置場になっていた。

明治40年頃

52 本所区役所相生町時代(現緑
1-11)

本所区役所は明治11年11月本所元町に開庁し、20年5月、相生町5丁目34番に移転する。そして、明治44年12月、また、南割下水(現緑公園)に移転し震災を受ける。

明治30年頃



53 両国日活

両国日活とよばれる前は相生館とよんでいた。
相生町時代の本所区役所があった場所である。

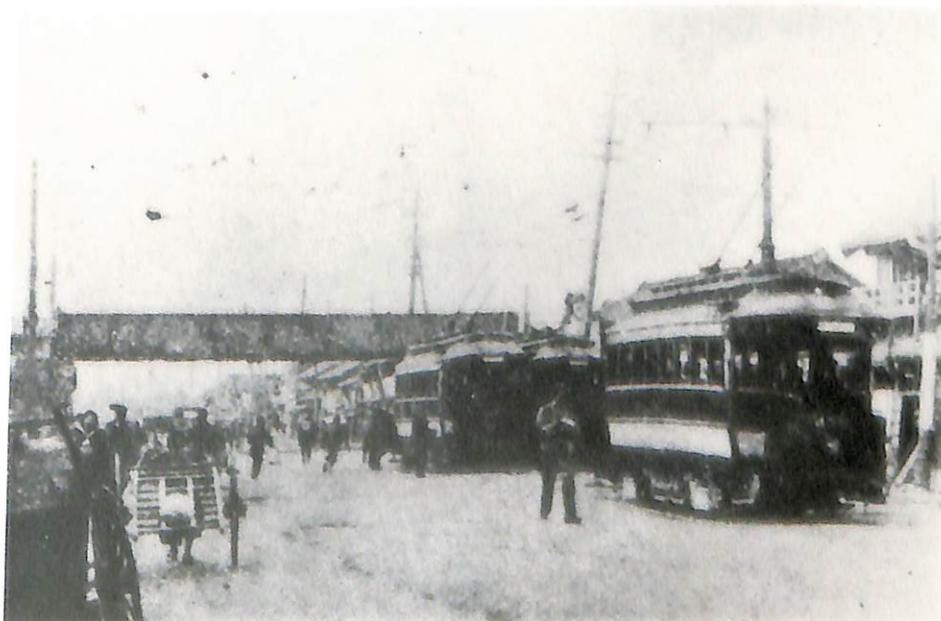
昭和38年頃



54 亀沢町通り

現在の緑一丁目の交差点あたりから総武線のガードを望む。左側に亀沢町の車庫があった。

明治40年頃



55 亀沢町交差点（現 緑1丁目
交差点）

右角に安田銀行（現富士銀行）
がみえる。国技館（現日大講堂）
も遠くにみえる。

昭和4年



56 終戦直後の都電

23番線（柳島～月島）のよう
にみえ、終戦後では深川の平野町
あたり、3月10日前では本所と
思われる。

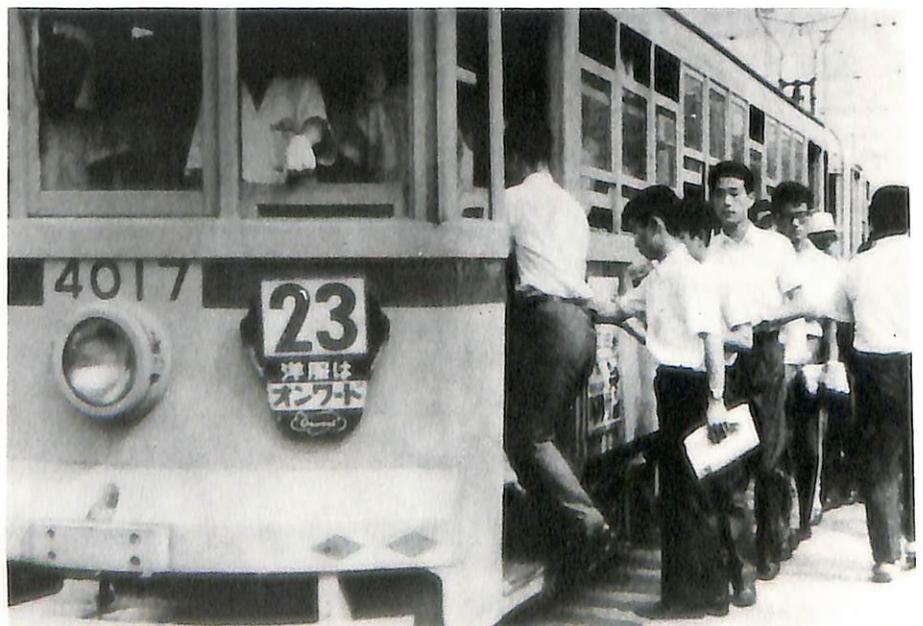
（昭和20年前後）



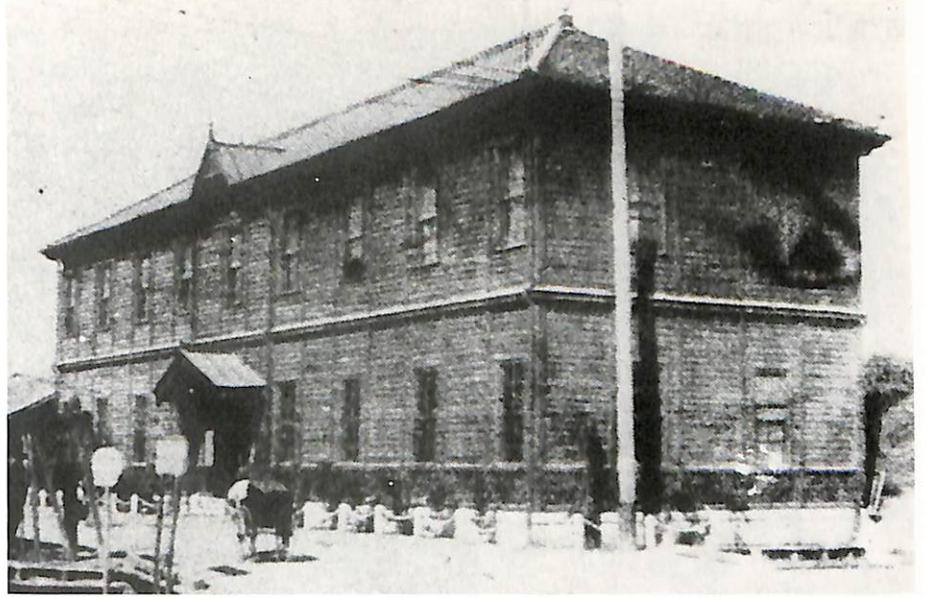
57 都電風景

緑町1丁目停留場にて

昭和40年頃

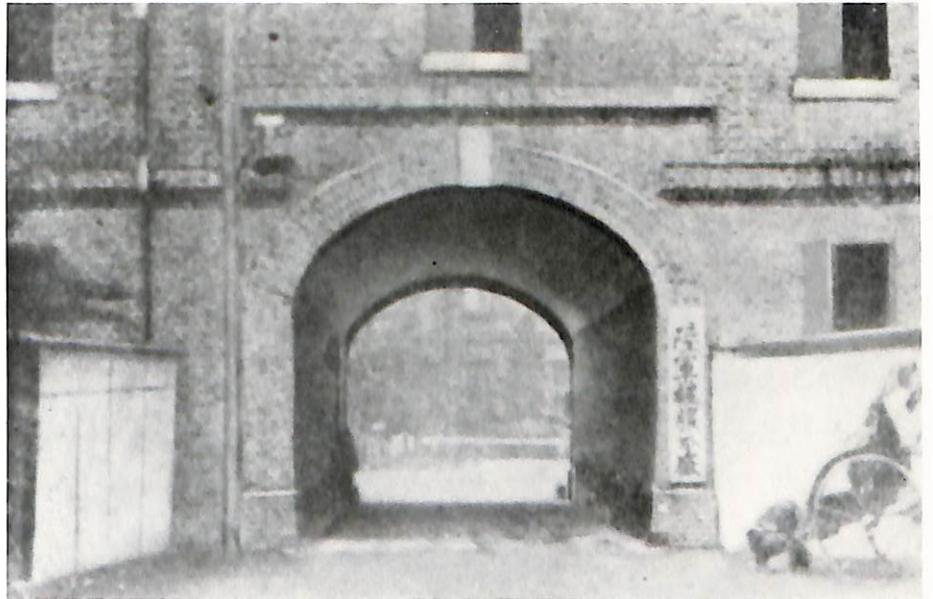


58 東武鉄道株式会社（本所 横網町）



明治41年
「東京名所図絵」より

59 陸軍被服本廠（本所被服廠）



明治41年
「東京名所図絵」より

60 本所被服廠跡に避難した人達
（関東大震災）



大正12.9.1

61 本所被服廠跡における惨状
(関東大震災)



大正12年9月

62 本所被服廠跡の惨状



ここだけで3万8000人の人が焼
死した。

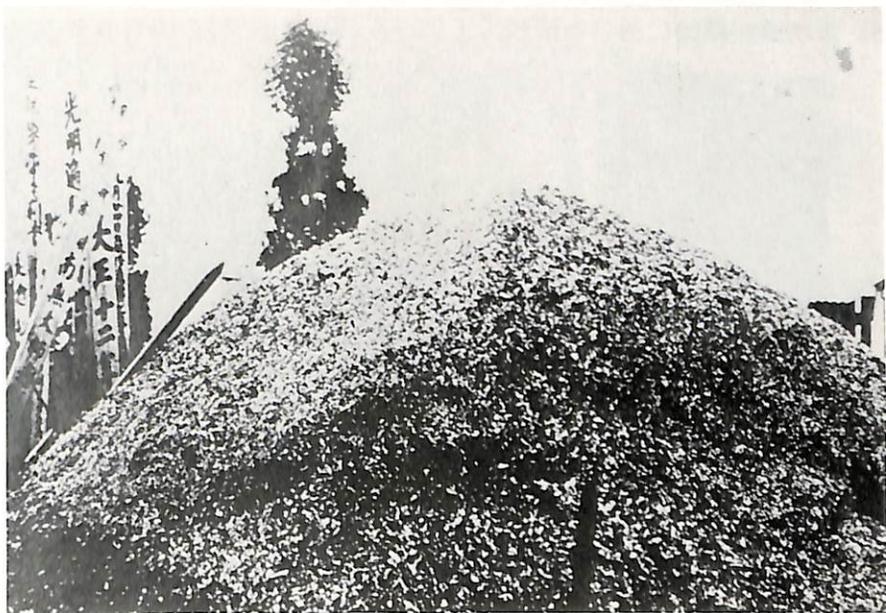
大正12年9月

63 大震災の災害を受けた 安田
邸の庭 (現 安田庭園)



大正12年9月

64 陀火にふされた被服廠跡の被災者の遺骨の山



大正12年9月

65 遺骨の山を拜む人々



大正12年9月

66 本所被服廠跡につくられた納骨堂



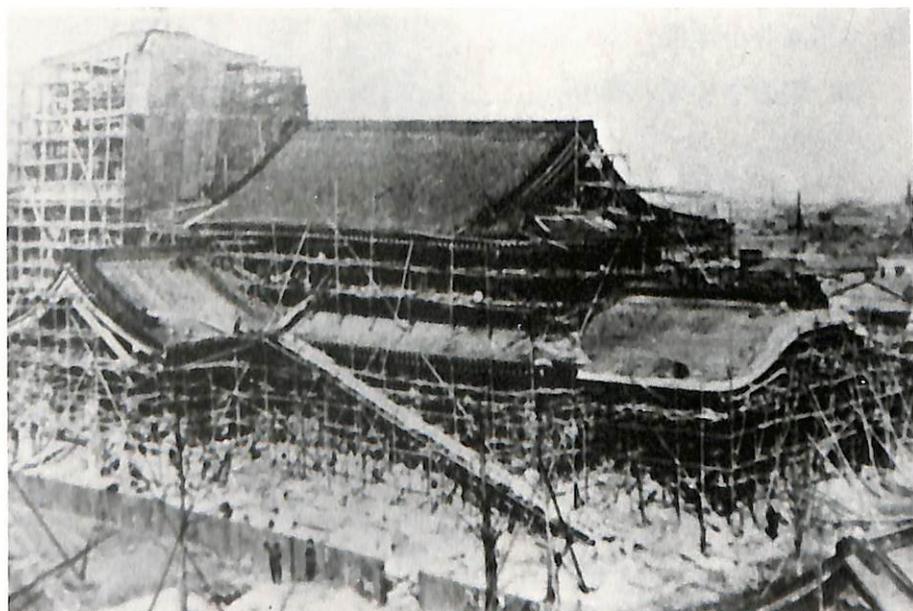
大正12年

67 被服廠跡につくられた納骨堂におまいりする人々



大正12年

68 建設中の震災記念堂（現 都慰霊堂）



昭和2年11月に起工し、5年9月1日に完成した。

昭和4年

69 関東大震災の惨状



現錦糸町駅方面から兩國方向を望む・総武線。

大正12年9月

70 江東青果市場

震災後、中之郷竹町・一之橋・
四之橋・浜町の青物市場を集め
て、開設された。

昭和4年



71 本所高等小学校

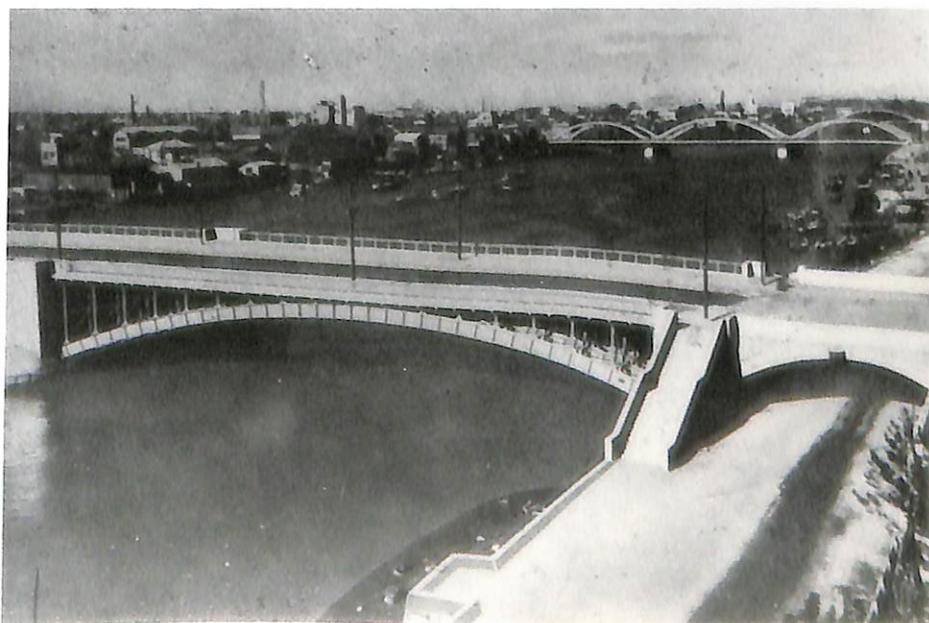
(現 両国中学校の場所)

昭和4年



72 新しく架橋された蔵前橋

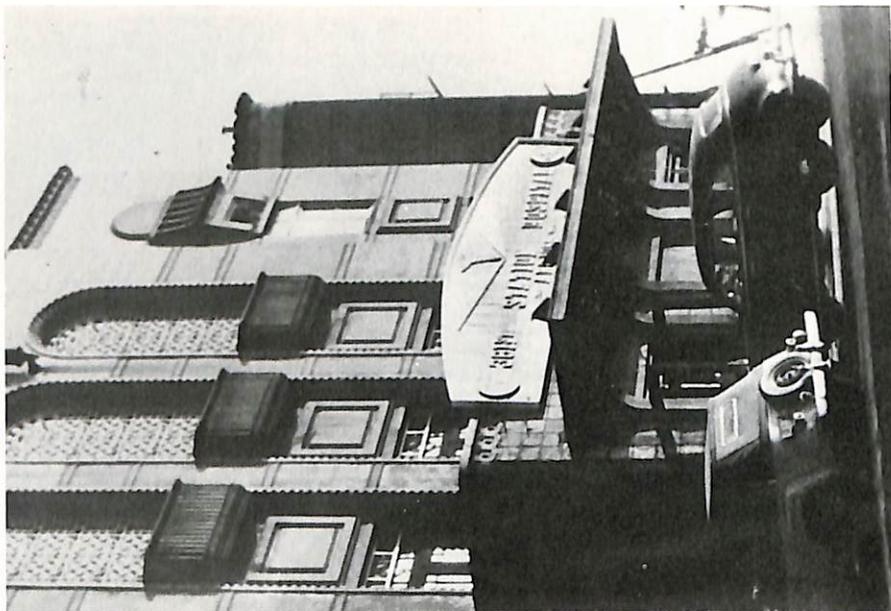
昭和7年
「大東京写真帖」より



73 進駐軍に 接收されていた 同愛病院

昭和30年10月に解除された。

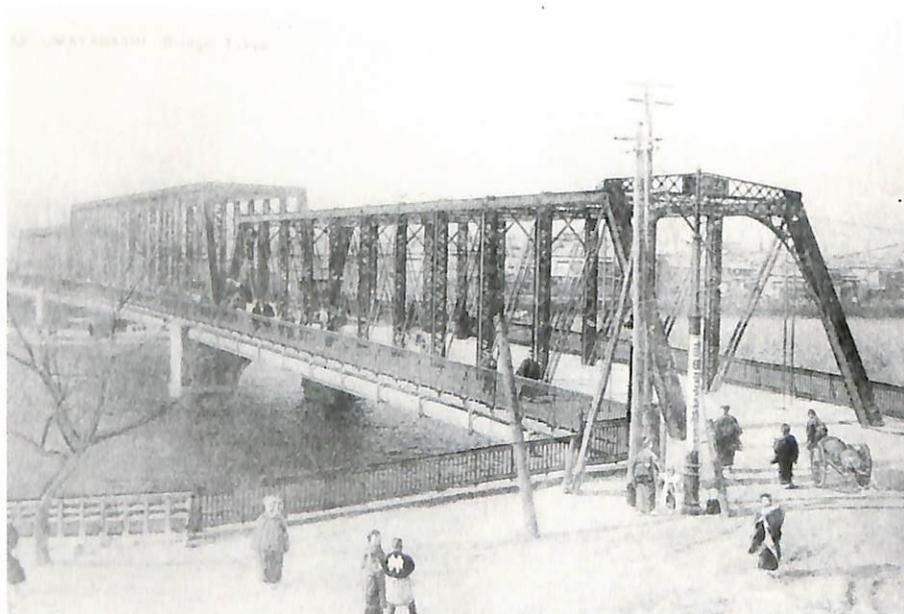
昭和26年



74 鹿橋

橋のプレートが「うまやはし」とみえるので、本所側である。明治34年鉄橋となった。

明治40年頃



75 両国の花火

戦後復活した花火も交通・火災対策上、昭和36年でその幕を閉じた。しかし、規模を縮小し上流で、昭和53年再開。

昭和36年



76 厩河岸



明治40年頃

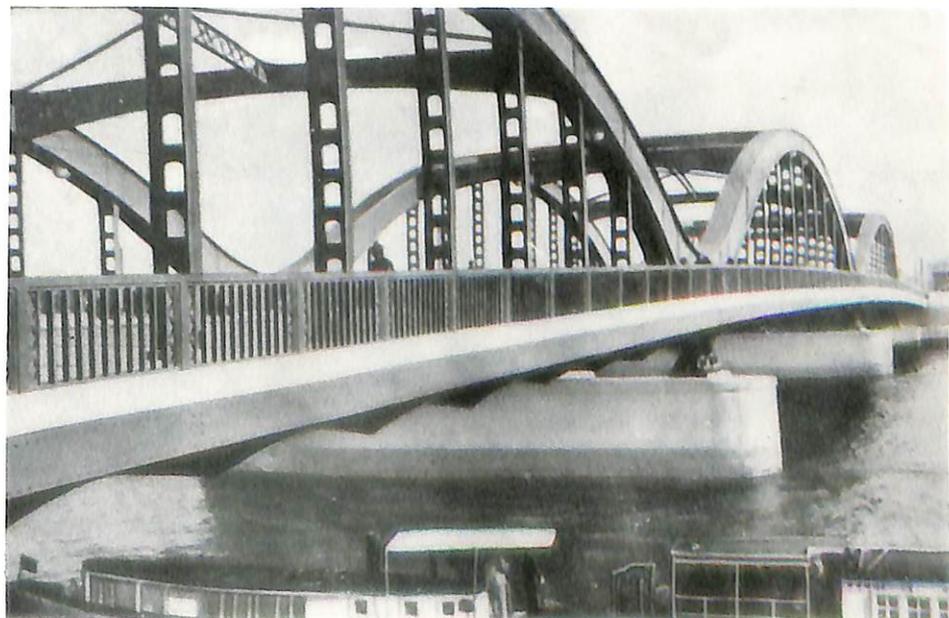
77 厩橋附近の惨状(関東大震災)



浅草側からみる。

大正12年9月

78 厩橋



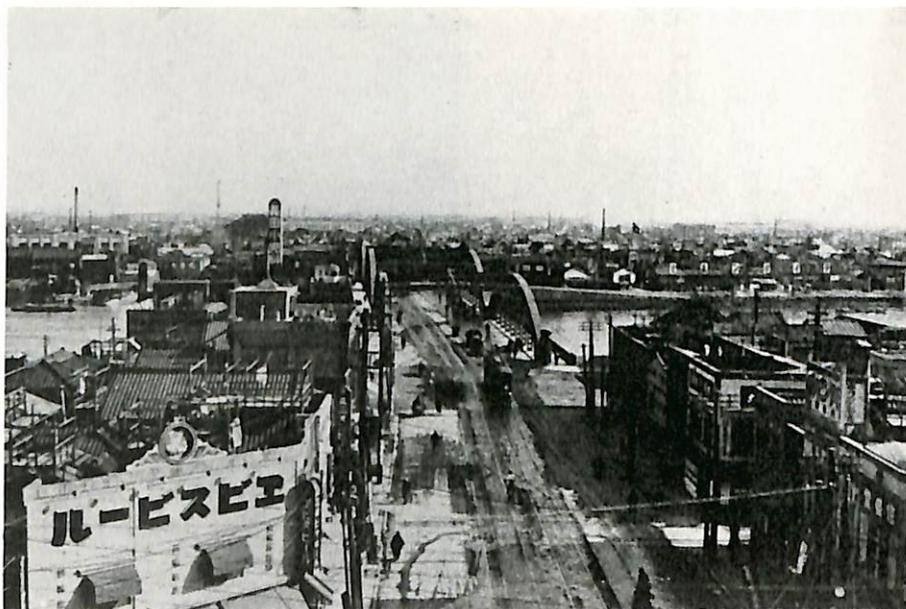
震災後新しく架けられたもの、
昭和4年2月完成

昭和4年

79 鹿橋

浅草側から、本所方面を望む。

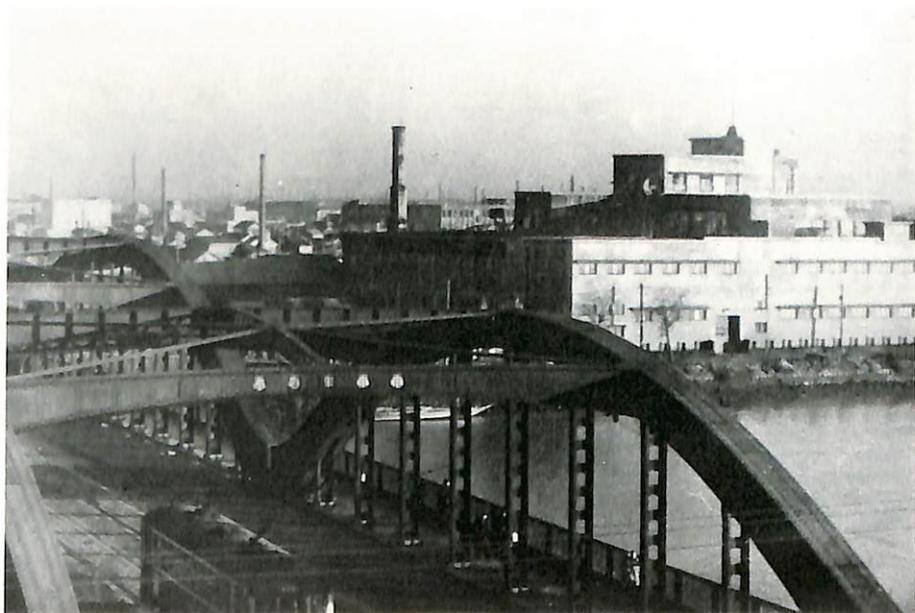
昭和10年頃



80 鹿橋

ライオン歯みがきの建物をみる。

昭和26年12月



81 第2回アジア競技大会の聖火

区内通過にあたり、区役所前で
受渡しがおこなわれた。

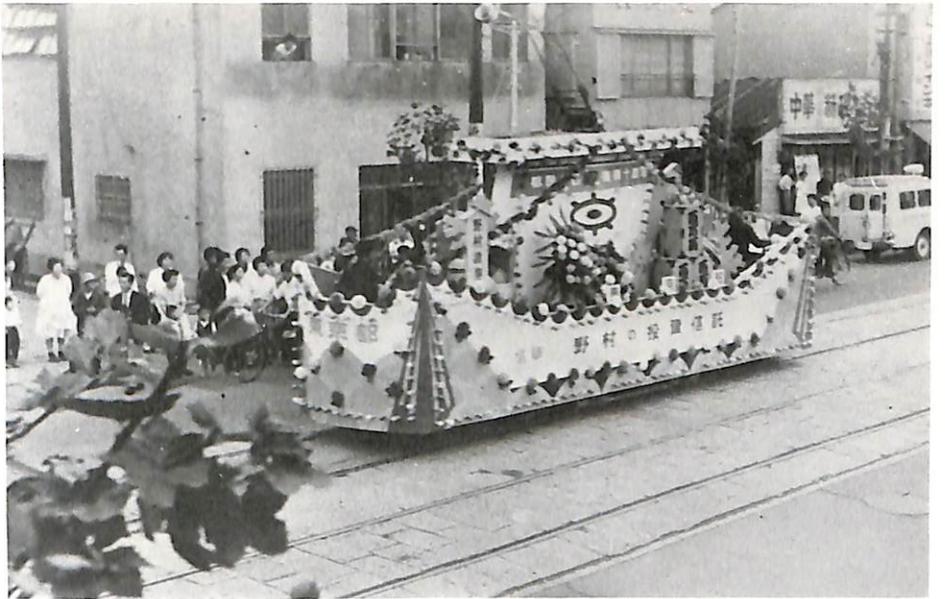
昭和33年5月



82 石原を通る花電車

都民の日10周年記念して催された花電車の一台

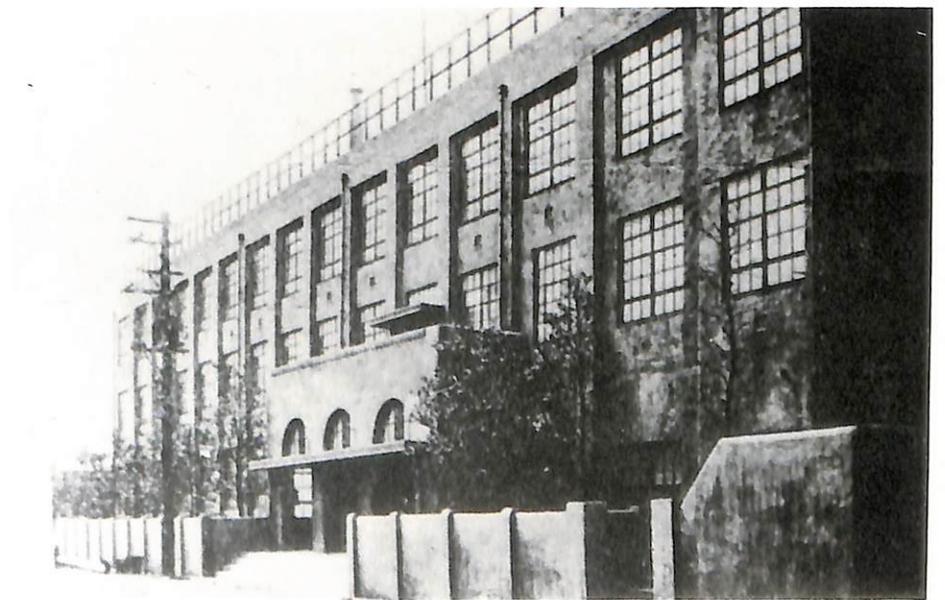
昭和33年10月



83 本所尋常小学校(現 豎川中学校)

戦後廃校となり、豎川中学校となった。跡地に新校舎が建っている。

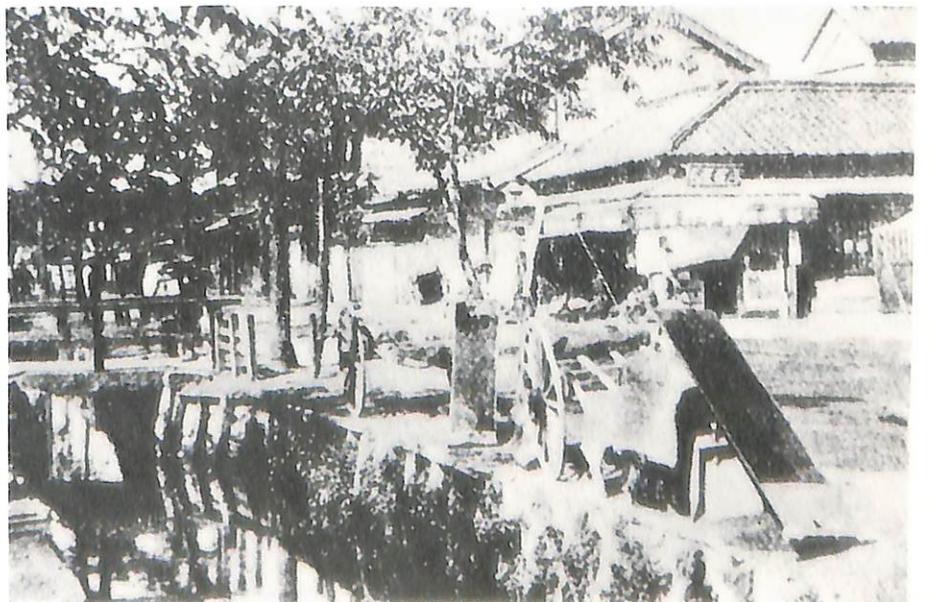
昭和4年



84 南割下水

明暦の大火後の本所開拓に際して開削された堀の一つで、北割下水もある。

明治41年
「東京名所図絵」より



85 南割下水

震災後の昭和2年に埋立てられ、
暗渠となる。江東市場前の広い
通りである。

明治41年頃



86 南割下水の冠水

明治43年の大洪水で、割下水も
水の下となってしまった。

明治43年8月



87 江東病院

旧南二葉町35番地の南割下水に
面していた。

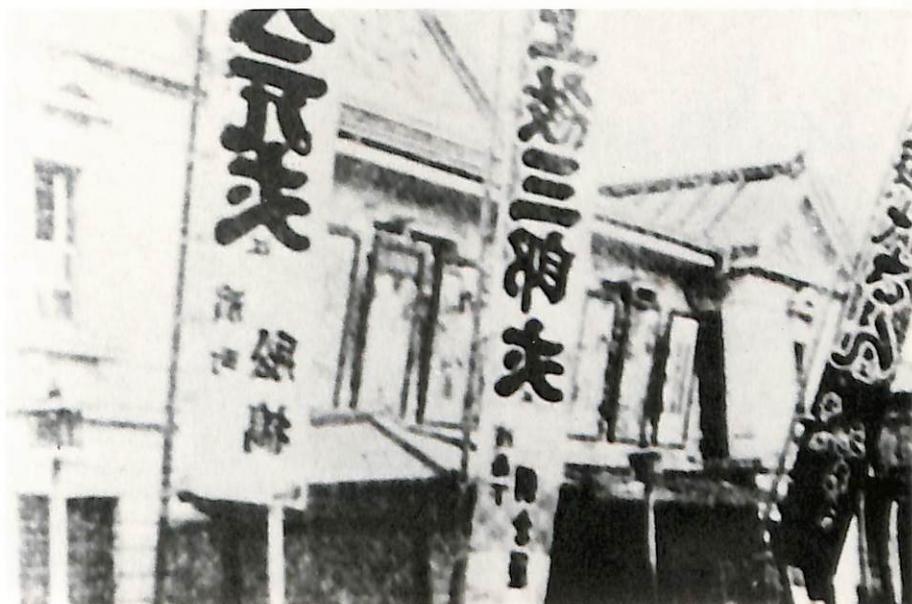
明治40年頃



88 寿座 (歌舞伎)

明治6年、深川八幡門前に辰巳座として開場予定が変り、9年に緑町5丁目に常盤座として開かれ、10年寿座となる。14年相生町5丁目に移り、31年緑2丁目になり、戦災まで続いた。戦災頃は寿劇場とよんでいた。

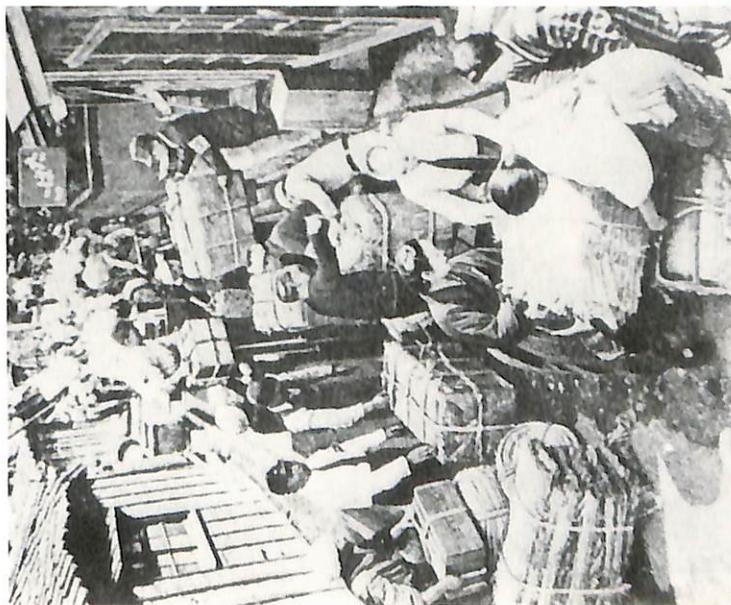
明治41年



89 強制疎開

火除地等を作るために強制立退きを命ぜられるところも多かった。緑町か寺島町といわれている一枚である。

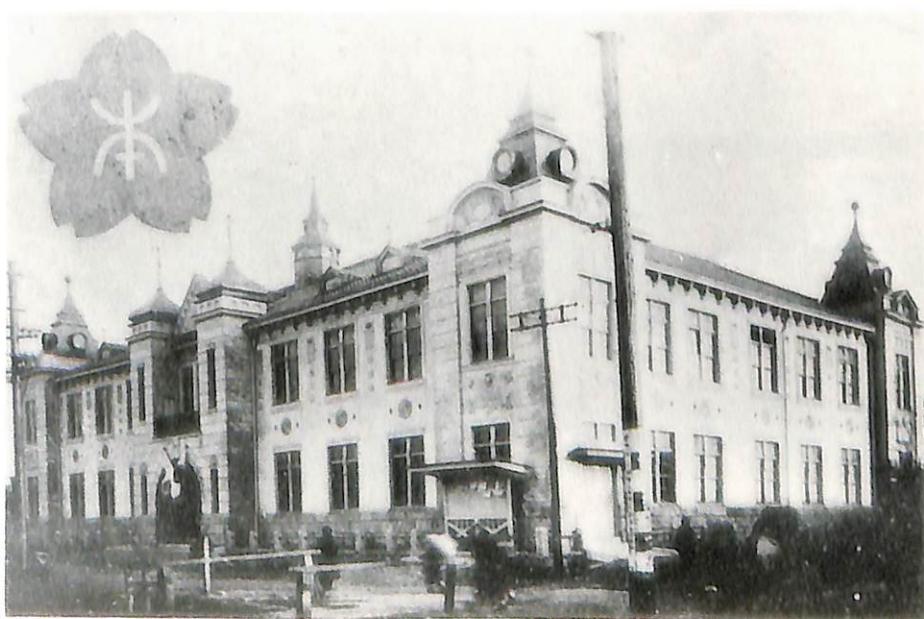
昭和19年頃



90 東京市本所区役所

明治44年12月、相生町5丁目(現・緑1)から移転した。現在の緑公園の地で、南割下水に面していた。震災により横綱に再度移転する。

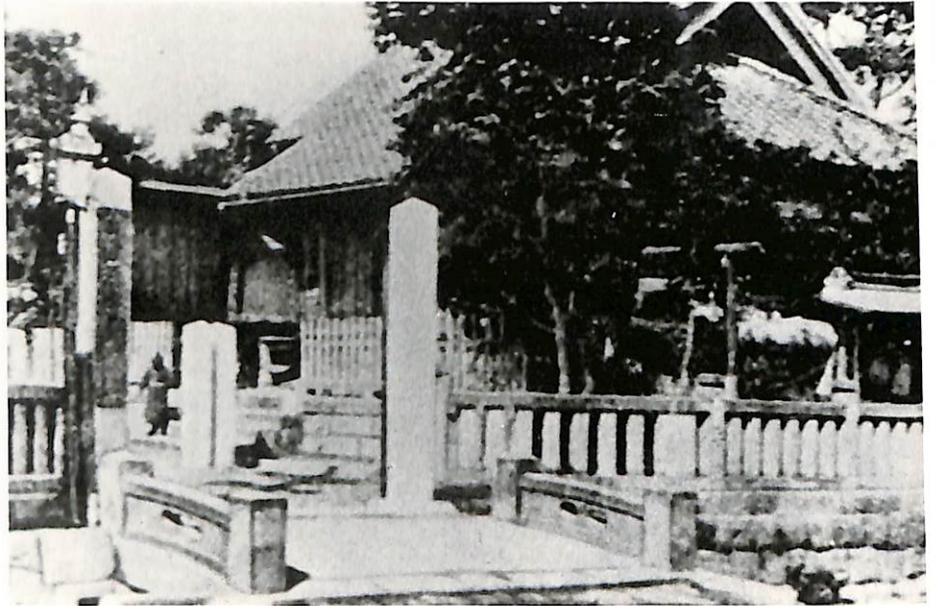
明治45年2月



91 野見宿祢神社

維新後、津軽家上屋敷が上地されその跡の一部に明治18年、相撲の本場所に近いので、相撲の神様といわれる野見宿祢をまつたものである。

明治41年



92 亀沢総武線ガード下の立退き

昭和37年



93 本所三ッ目通り 総武線ガード附近

明治43年8月の大洪水

明治43年8月



94 亀沢町附近



明治43年 8月

95 本所割下水附近

絵ハガキのタイトルでは上記のようになっているが、三ッ目通りあたりではあるまいか、酒店「中村」とみえる。



明治43年 8月

96 亀沢町附近

総武線のガード上から写したもののと思われ、向島方面に較べて冠水の量は少ない。

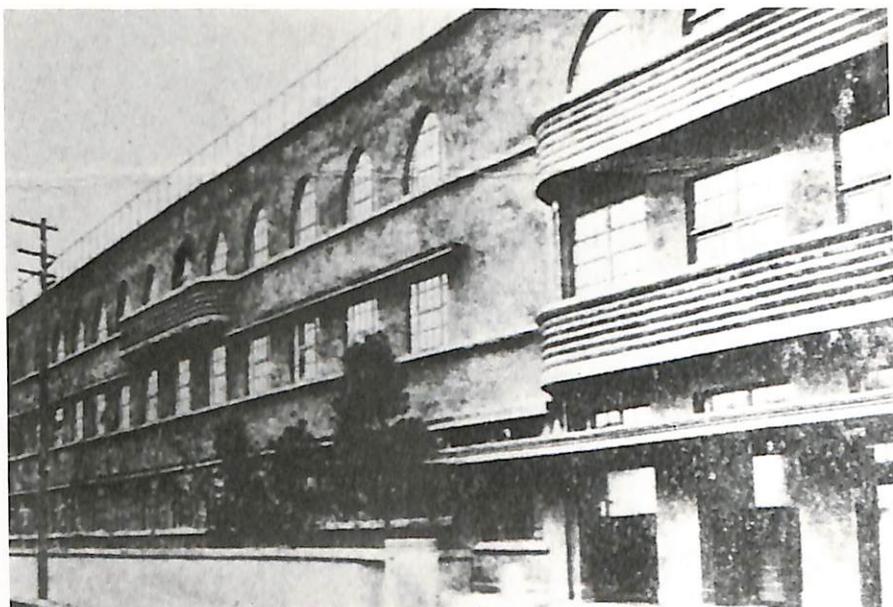


明治43年 8月

97 日進尋常小学校

現在の家庭センターの場所にあ
った。戦後廃校となった。

昭和4年



98 本所 花町界限

木賃宿や長屋が集まっていた。



99 戦後の学校住宅

戦災を受けた学校が、集団住宅
として使用されていた。だいぶ
引払った跡に見える。

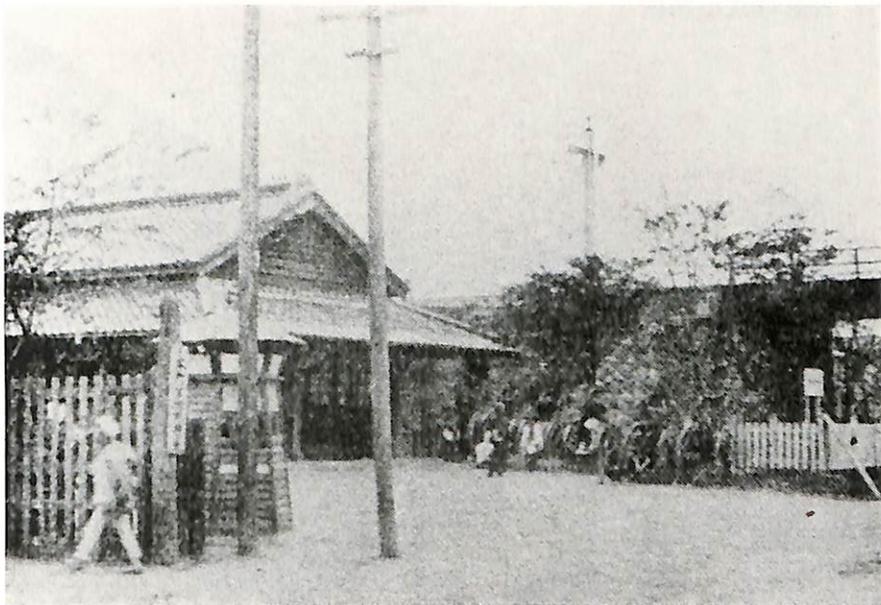
昭和28年頃



100 本所停車場(現 錦糸町駅)

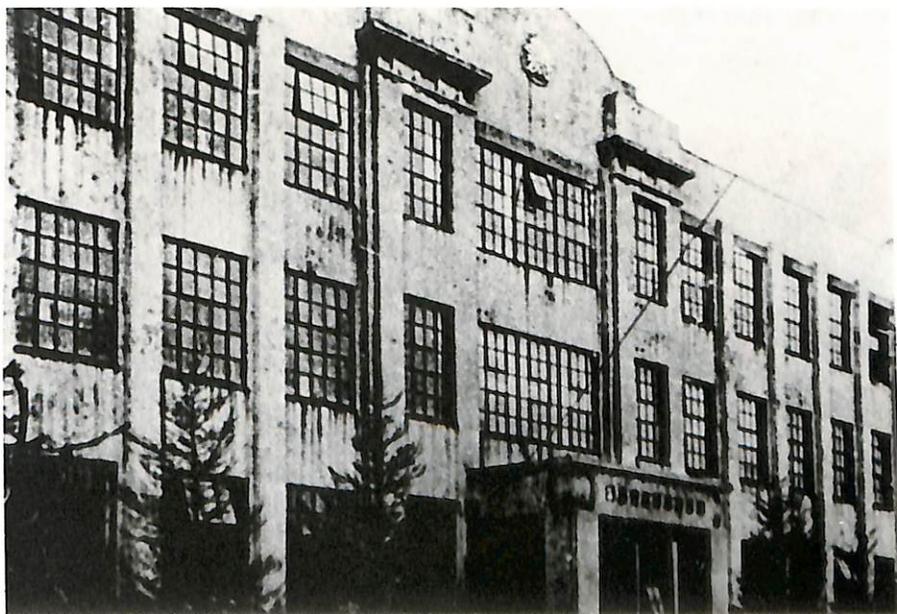
明治27年、市川・佐倉間が開通し、同年12月に市川・本所間が開通した。駅は大横川寄りにあった。

明治41年
「東京名所図絵」より



101 東京府立第三中学校(現 両国高校)

明治34年、築地の府立一中分校を三中と改称し、35年2月本所柳原1丁目(現在地)に移転した。震災により、昭和2年再建。25年両国高等学校と改称。



102 府立三中(現 両国高)より
総武線を望む

現在の京葉道路をみおろし、総武線を望む。

昭和7年
「大東京写真帖」より

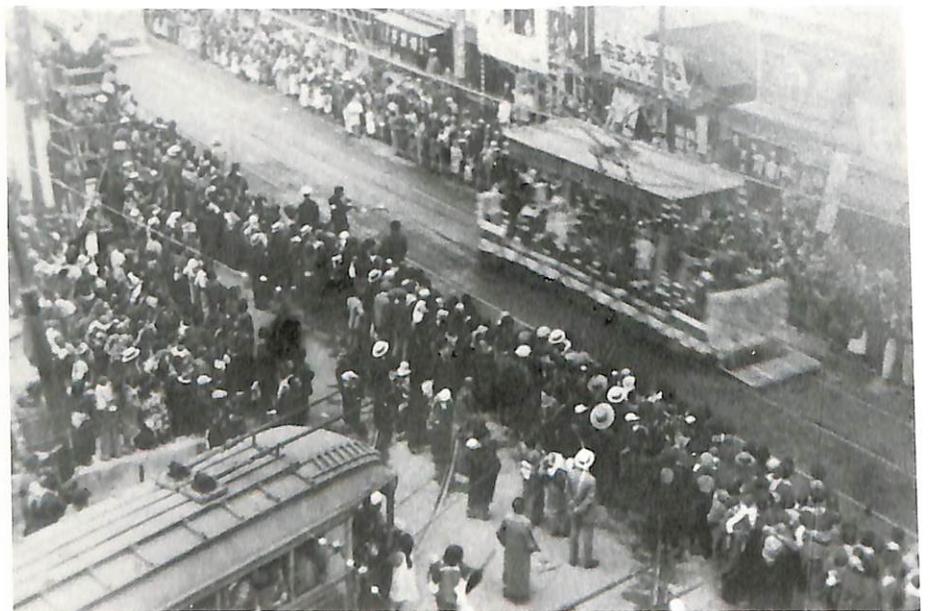


103 府立三中より錦糸町駅を望む



昭和7年
「大東京写真帖」より

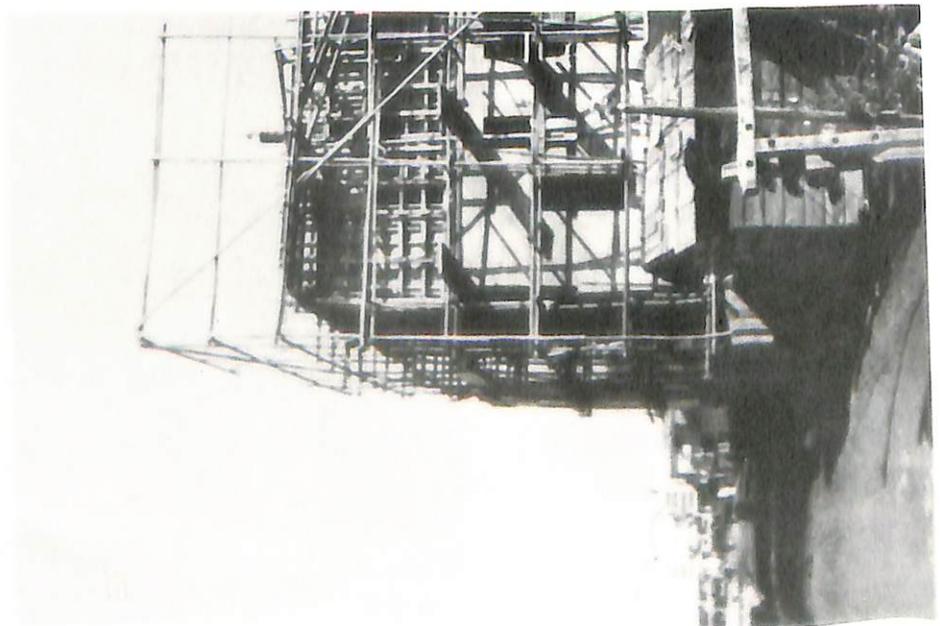
104 錦糸町の花電車



現在の京葉道路都電車庫跡前あたりと思われ、震災後の建物のように見えるので、天皇(昭和)即位の花電車であろうか。

昭和1年

105 錦糸町駅前



駅前を少し横に入ったところは、コンクリ建ての建物が並びだした。江東楽天地の映画館がみえる。

昭和27年2月

106 錦糸町映画街

ジョン・フォード監督の「駅馬車」が封切られてる。入場料80円であった。

昭和32年頃



107 錦糸町駅前

駅前の最後のバラック建ても立退き、バス・ターミナルになった。

昭和32年



108 長崎橋より中之橋を望む

江東市場前の亀沢の広い道（かつての南割下水）が、大横川に架かる長崎橋から錦糸町に架かる中之橋を望む。

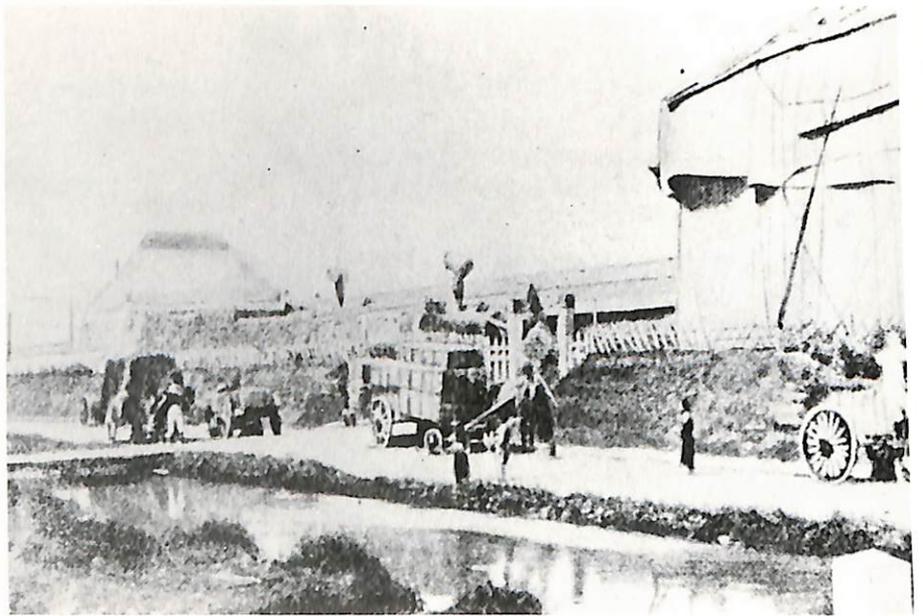
昭和32年



109 陸軍の糧秣本廠(錦糸堀)

現在の錦糸町駅の北側と四ッ目通りの先右側にあり、陸軍の食糧倉庫となっていた。

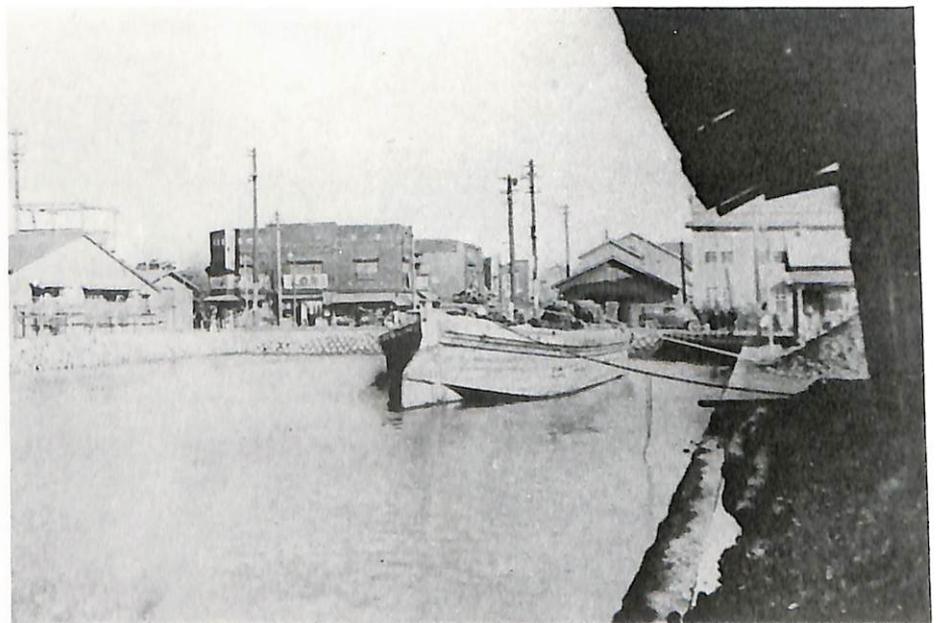
明治41年
「東京名所図絵」より



110 錦糸堀

錦糸町駅の北側に東西につながっていた堀で、岸堀がなまったりとか、琴糸を作っていたからとも、朝日・夕日がキラキラ輝く堀からともいう。本所七不思議の「おいてけ堀」ともいわれる。

昭和6年



111 錦糸公園

震災後の都市計画で、モダンな公園として開設された。

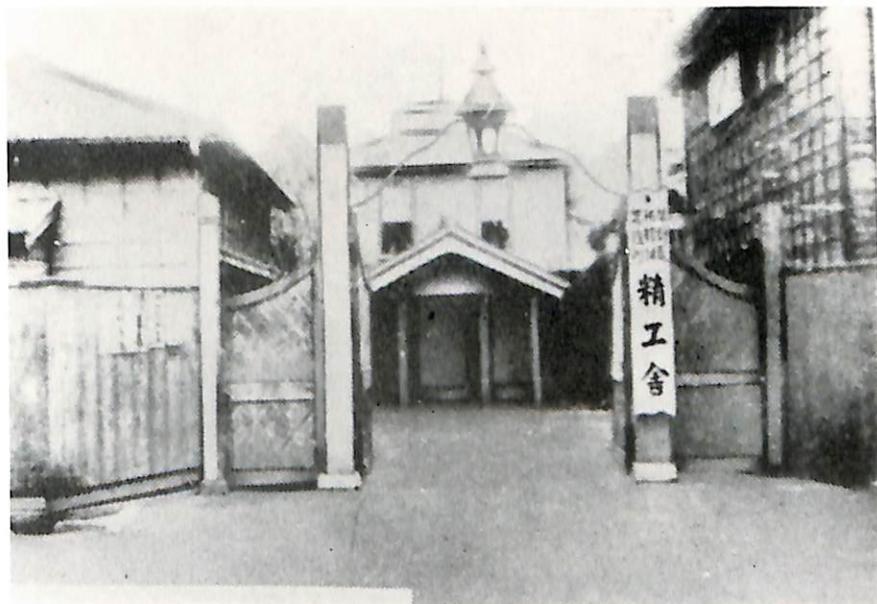
昭和7年
「大東京都市写真帖」より



112 精工舎正門

明治25年、本所石原町に時計工場を設けたが、動力許可の問題で、26年太平町（現在地）に移転した。

明治30年頃



113 精工舎

懐中時計の組立作業で、明治28年わが国最初のを製作した。

明治36年
「精工舎史話」より



114 戦後に建てられた都営バラック

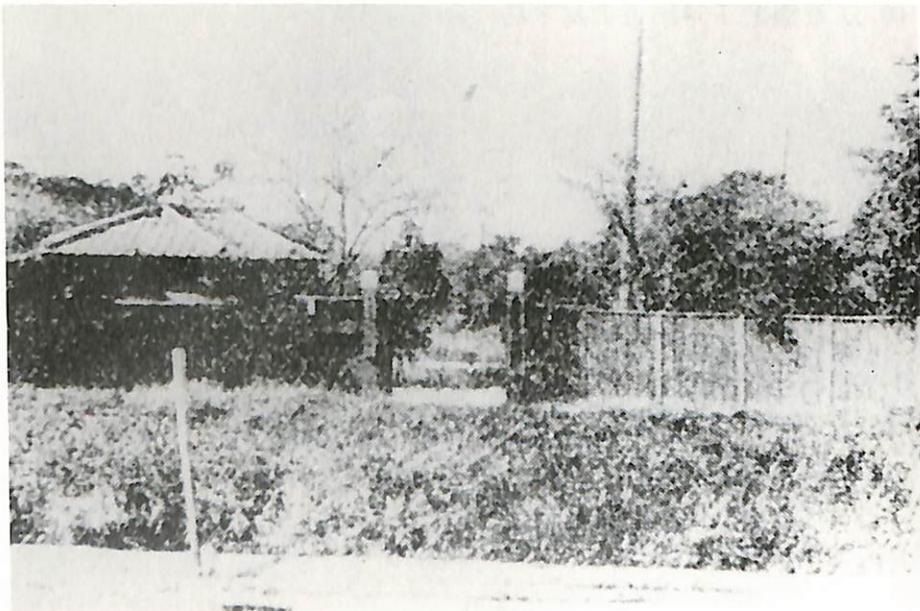
太平4丁目附近か

昭和28年頃



115 本所病院 (現 墨東病院)

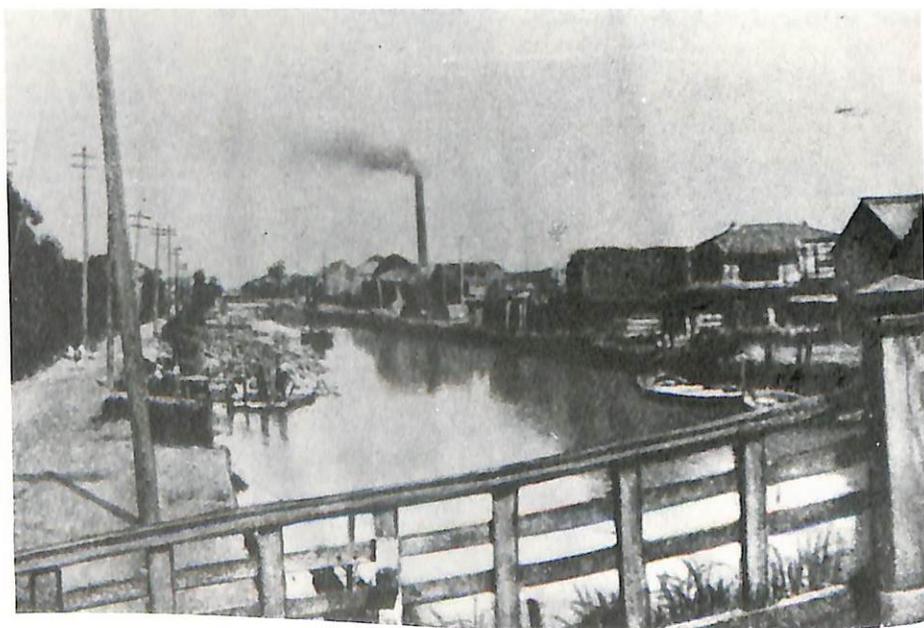
明治12年、コレラ流行の際開院した避病院で、その後閉鎖・開院をくりかえし、昭和6年震災復興事業として整備され、戦後墨東病院として現在に及んでいる。



116 旅所橋

墨田区最東南の横十間川に架る橋で、本所開拓の万治2年(1663)の創架であるが、寛文3年(1663)亀戸天神のお旅所が近くに出来たので称された。

明治41年頃



117 四ッ目の牡丹園 (植文)

江戸時代から本所四ッ目の「植文」としてしゃくやくで売っていたが、明治になって牡丹を主とするようになった。豎川沿といえるが、かつては深川本村で、今も江東区に属している。

明治45年
「東京名勝図絵」より



118 江東橋1丁目附近の材木店

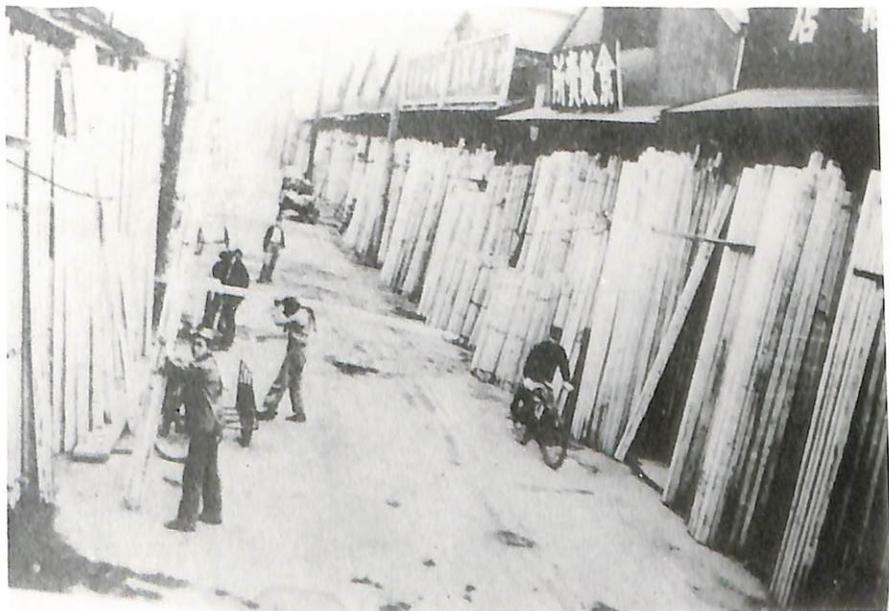
豎川・大横川筋は木場として、
材木店が軒を並べていた。

昭和15年
「木場」より



119 菊川2丁目附近の材木店

昭和15年
「木場」より



120 本所柳原河岸の製材所

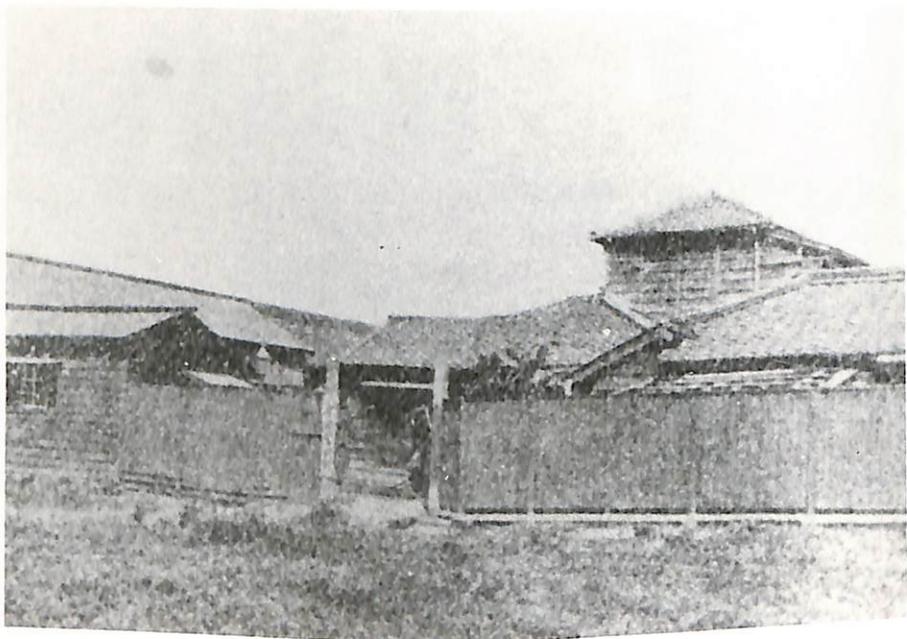
昭和15年
「木場」より



121 宮田製銃所（宮田自転車）

木挽町より明治23年4月、菊川町2丁目52番に移転し外国人の自転車を修理したことから、自転車製作を始めた。

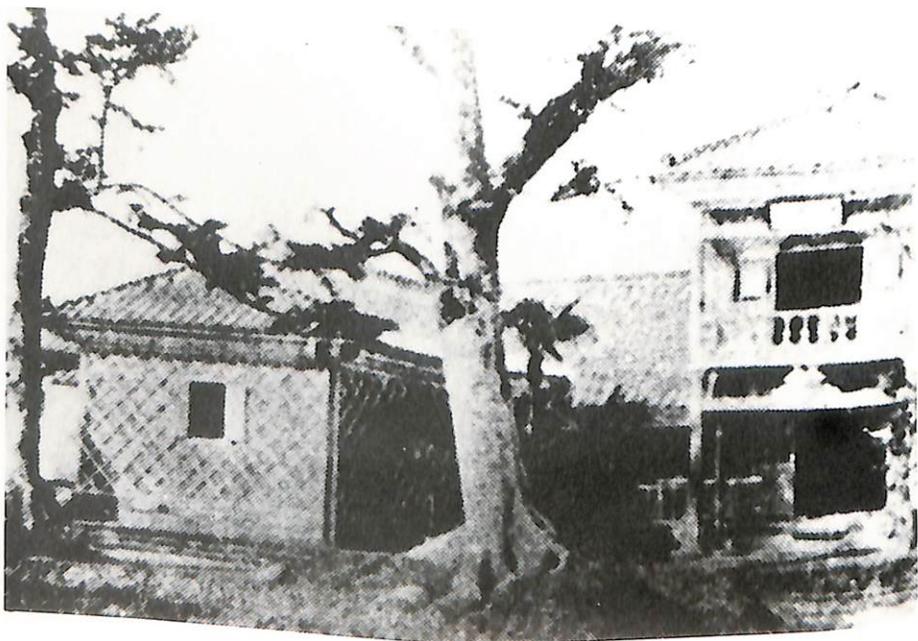
明治30年
「宮田製作所七十年史」より



122 中和小学校

墨田区の公立小学校は、明治6年、須崎村に牛島小学校が、次いで7年2月に中和小学校が創設され、牛島小学校なき今、最古となっている。

明治7年頃



123 鹿橋花火問屋の爆発

385坪焼失、死者18、傷者82という惨事であった。

昭和30年8月1日



124 東駒形通り

現在の清澄通り、本所保健所の
方向を望むものであろうか。

昭和4年



125 明德尋常小学校

戦後廃校となり、本所中学校と
なった。

昭和4年



126 三ッ目通り

本所消防署から三ッ目通り本所
吾妻橋の交差点を望む。

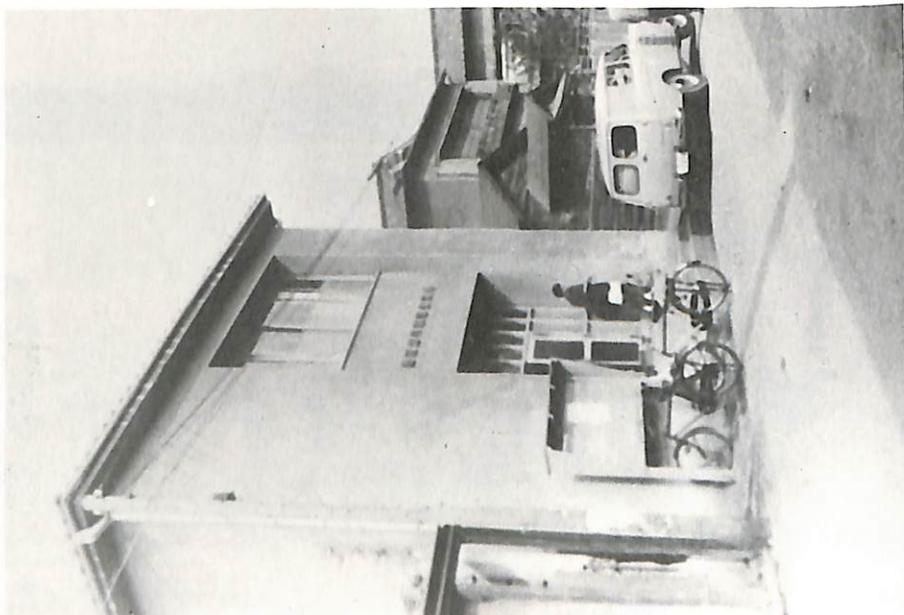
昭和32年



127 墨田公共職業安定所

昭和26年、東駒形4丁目に、本田公共職業安定所東駒形分室として開設され、昭和29年4月に隣りに庁舎を新築し墨田公共職業安定所と改称した。

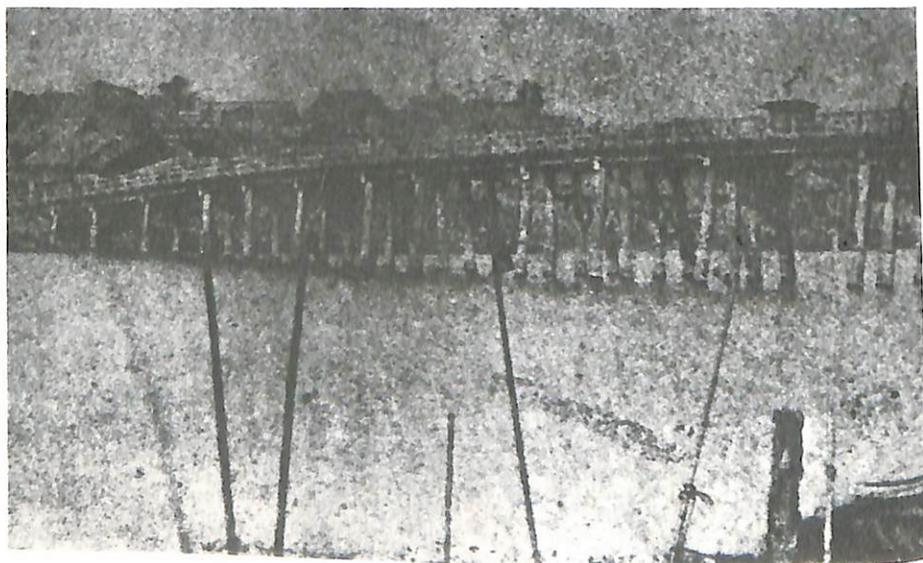
昭和32年



128 吾妻橋

安永3年(1773)浅草花川戸の民間人を中心に架設され、橋銭をとっていた。大川橋と呼ぶが俗称の東橋(あづまばし)が使われ、明治28年から正式名となった。

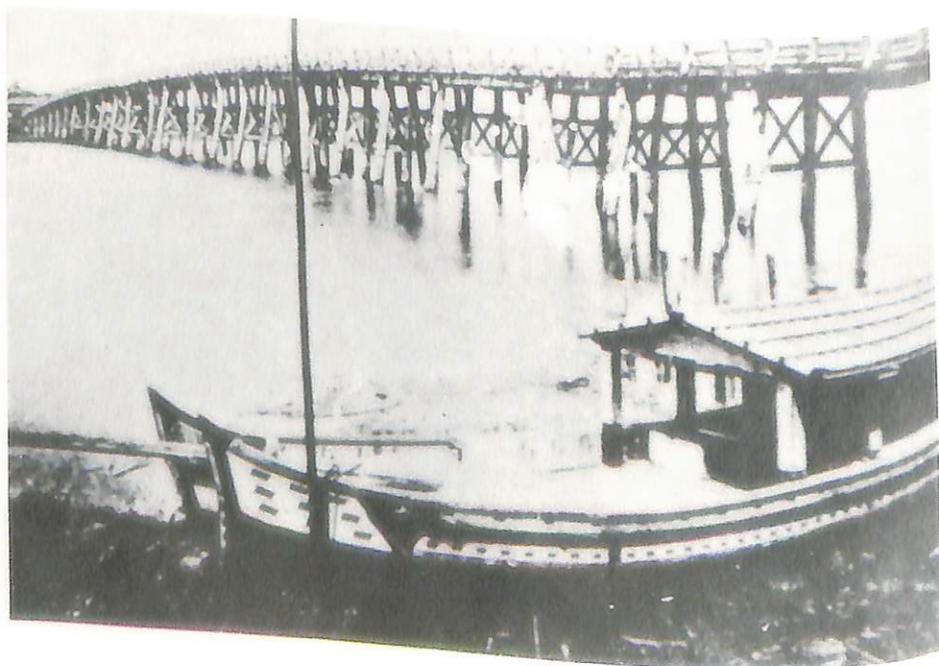
明治初年



129 吾妻橋

このところには、竹町の渡しがあり、本所中之郷竹町と浅草六地藏河岸を結び、架橋後も続けられていた。安永の創架から、破損修理も多いが、改架だけでも木橋で5回にも及んだ。

明治初年



130 吾妻橋

明治8年に、西洋型の木橋に改架したと思われるが、18年の洪水で千住大橋が流失しその流木で吾妻橋も流失した。竹町の青物河岸から浅草をみる。

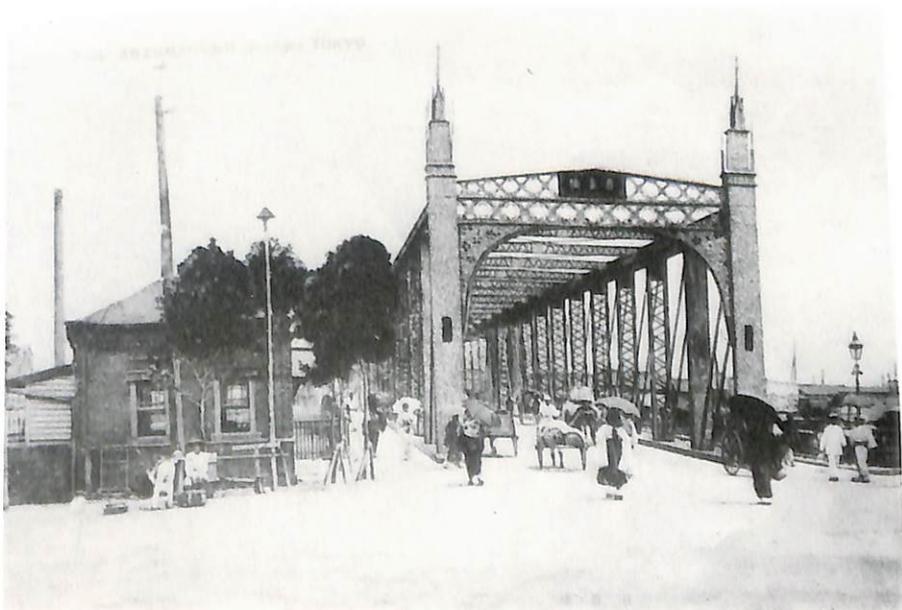
明治初年



131 吾妻橋

明治18年（1885）7月の洪水により流失したのを機会に、ピン結合のプラット・トラスト型式の鎧橋として、明治21年架け換えられた。

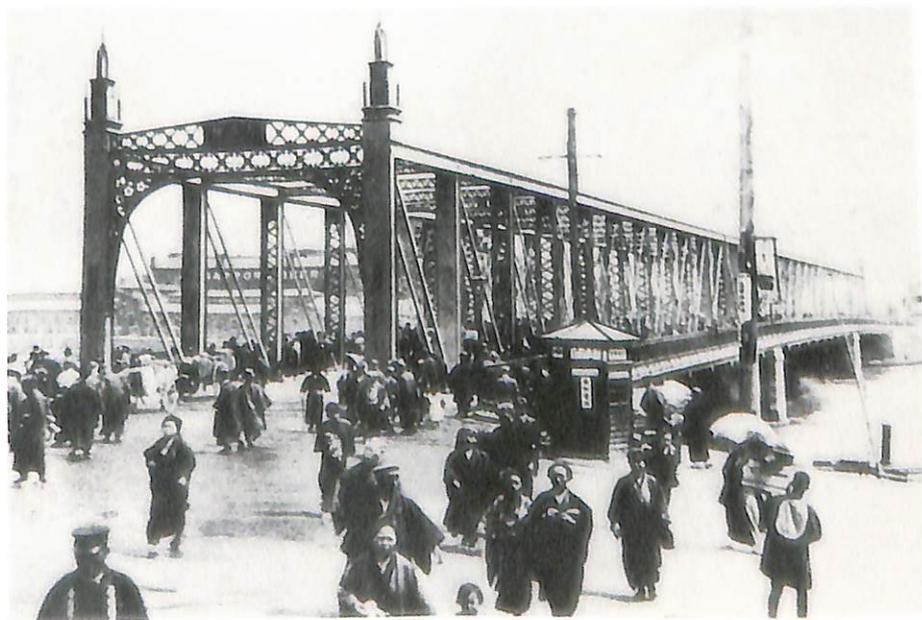
明治40年頃



132 吾妻橋

浅草側からみたもので、サッポロビール工場が見えるので、明治33年以後のものといえる。本所側の右端に顔の看板が見えるが。

明治40年頃



133 吾妻橋

この鎧橋である鉄橋は明治21年に架橋され、大正13年の関東大震災による被害を蒙って、大正14年現在の橋の工事に着手する。

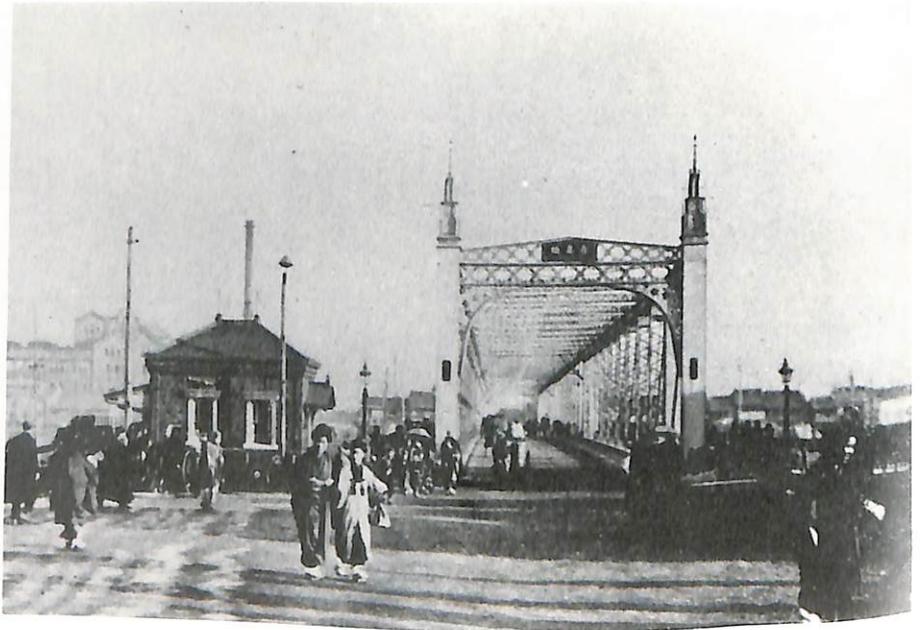
明治40年頃



134 吾妻橋

橋の右手に電話ボックスがあり、左手に交番があった。

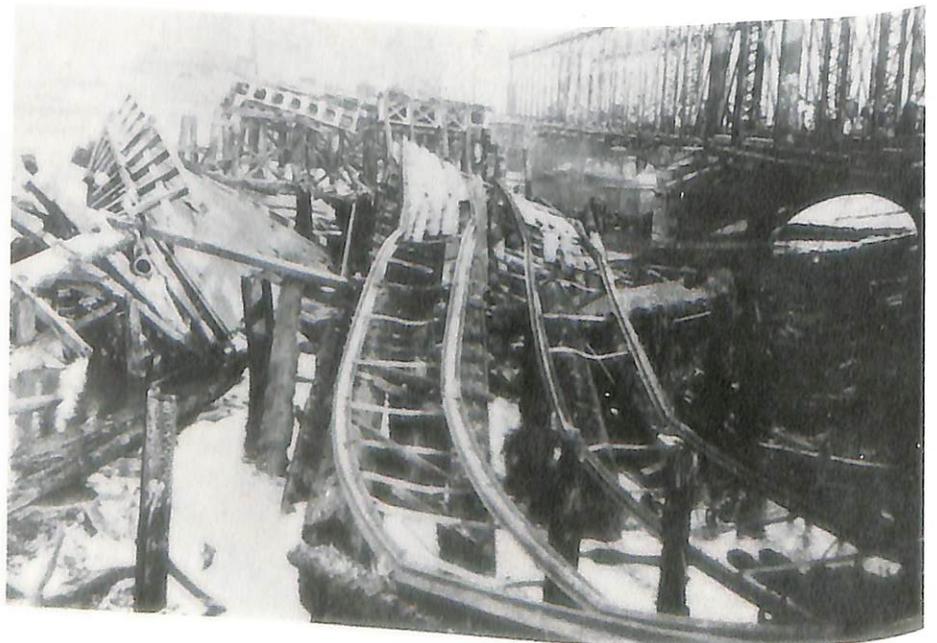
明治45年
「東京名勝図絵」より



135 関東大震災の被害にあった吾妻橋

手前の曲った路線は市電の線路で、右に見えるのが吾妻橋である。

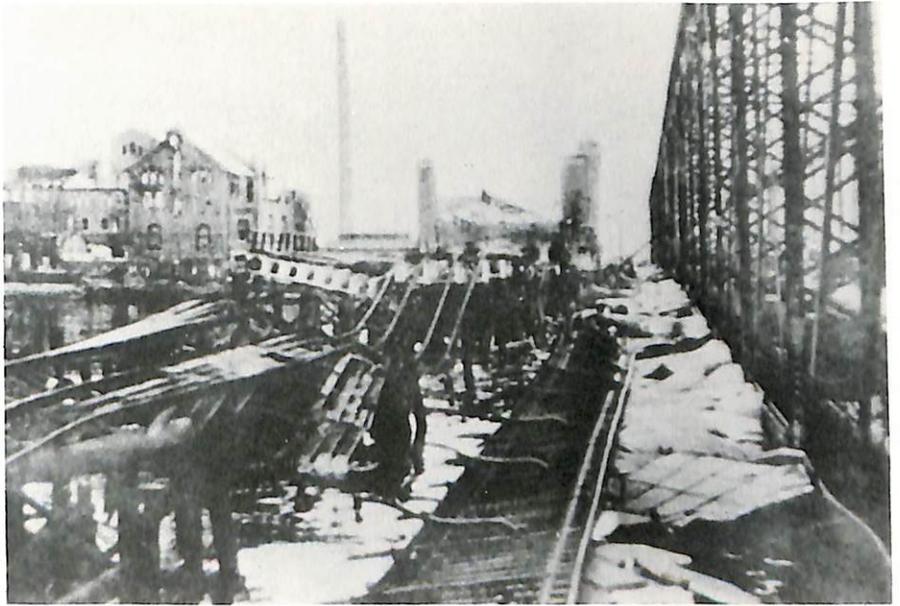
大正13年9月



136 関東大震災の被害にあった
吾妻橋

吾妻橋は歩道の部分が大破したが、一般車道部分は通行可能であった。

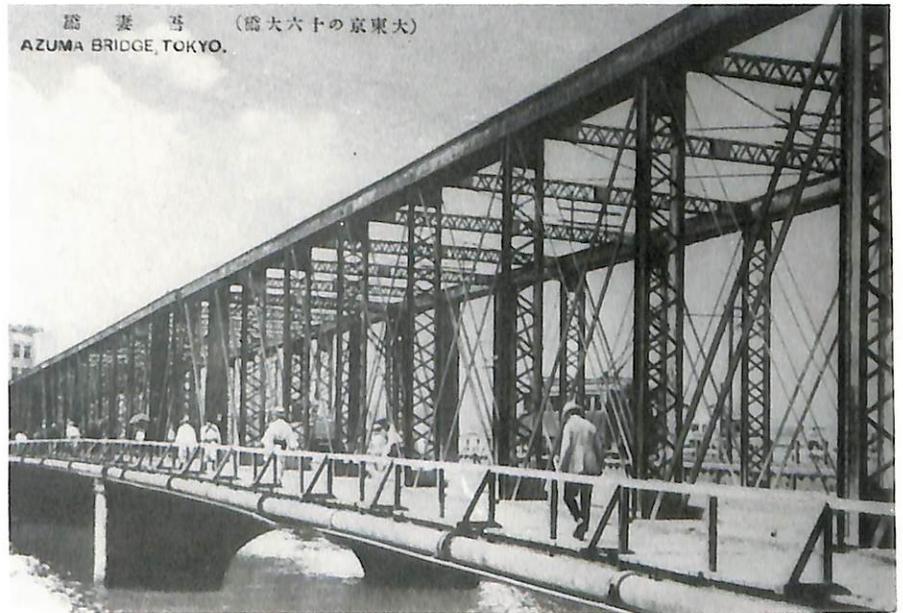
大正13年9月



137 吾妻橋

大震災後の修理をほどこした吾妻橋で、歩道の部分が板で補われている。墨田区側から浅草をみる。

大正14年頃



138 浩養園 (現 アサヒ・ビール
吾妻橋工場)

文政年間、水野忠成によって築造された名園で、幕末には佐竹家のものとなっていたが、明治33年札幌ビール東京分工場がここに設立された。

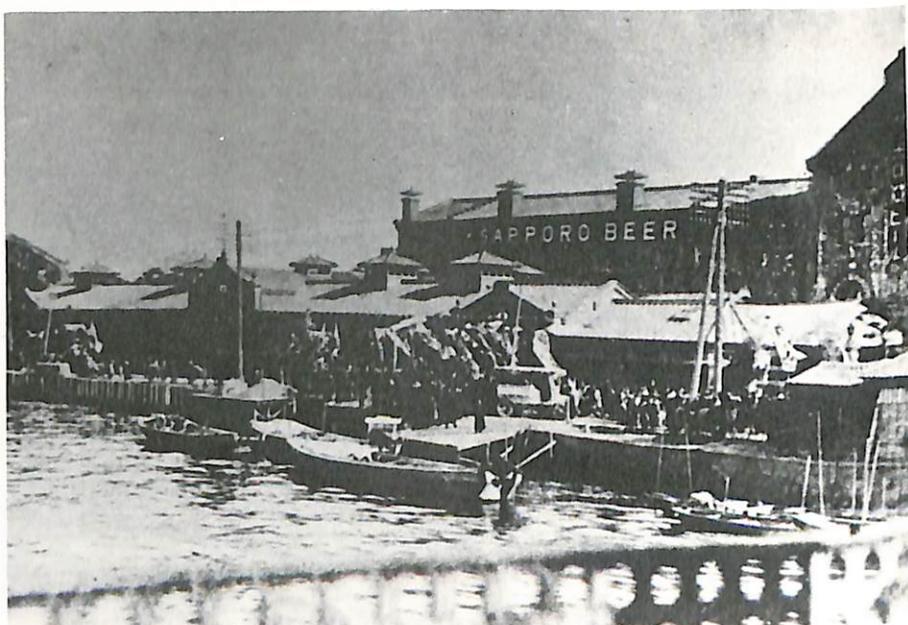
明治30年頃



139 サッポロビール本所吾妻橋
工場

明治33年に浩養園の場所に工場を建設しその後拡張を続けていった。この写真は正月の初荷風景。

明治40年頃



140 吾妻橋サッポロビール工場
附近

明治43年8月の大水の写真で、隅田川沿いの道である。

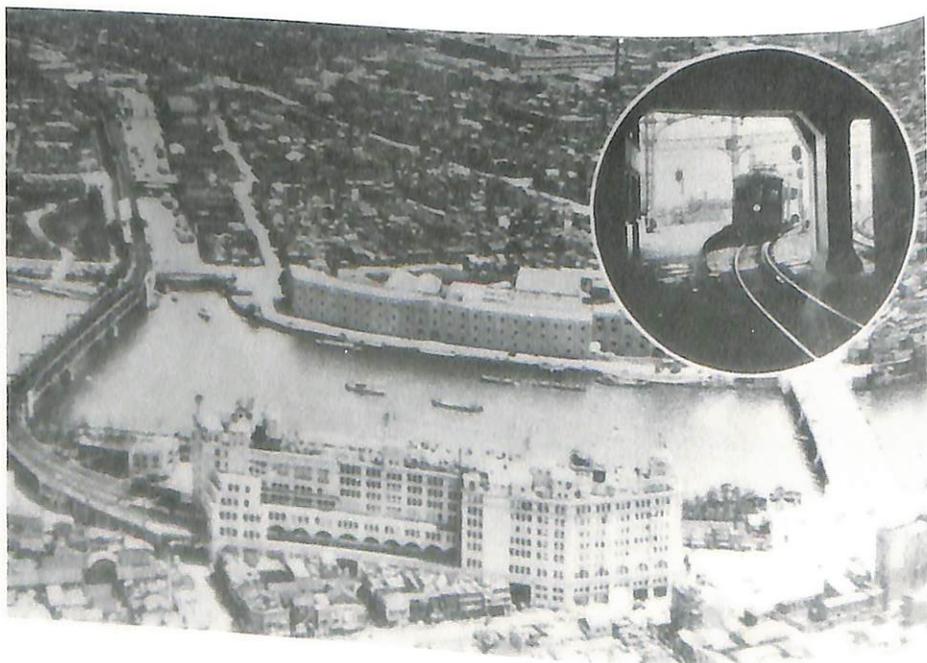
明治43年8月



141 浅草上空から墨田方面を望む

現在のアサヒビール工場がほとんど同じ規模になっている。上の方の学校のようにみえる建物は専売公社業平工場である。

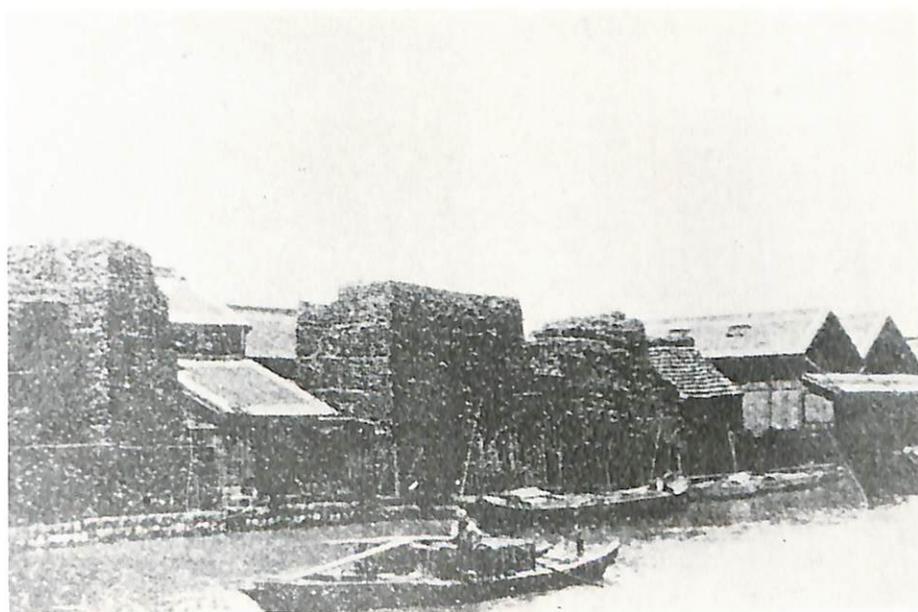
昭和7年
「大東京都市写真帖」より



142 大横川河岸

下駄の材料であろうか、小さな角材が高く積まれている。

明治41年
「東京名所図絵」より



143 法恩寺橋通り

現在の蔵前橋通りで、左に橋がみえる。震災前の本所の町並がうかがわれる。

明治40年頃



144 霊山寺

元禄元年（1688）浅草から移ったもので、浄土宗・関東十八檀林のひとつにもなっていた。法恩寺につぐ大寺であった。

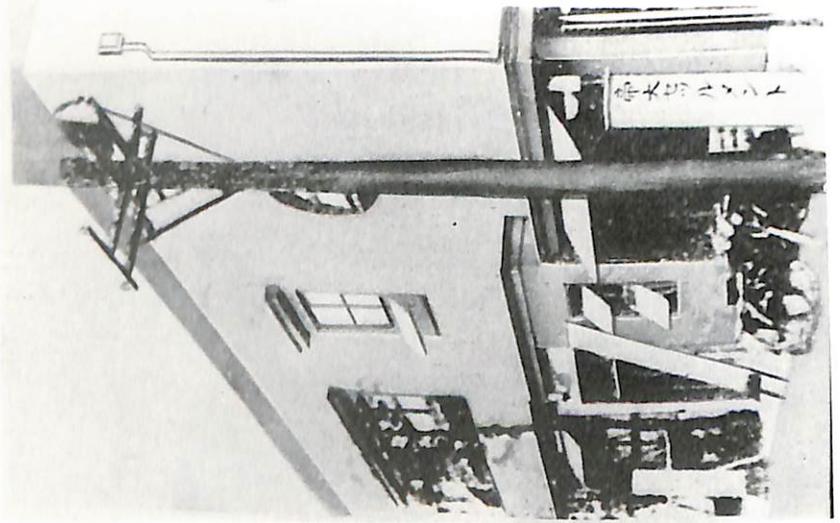
大正10年頃



145 帝国大学セツルメント

大正12年11月、旧横川橋4 - 7
(現、横川4 - 12)に、同大学救
護団が大震災に際し組織され、
恒久施設化された。昭和13年頃
まで続いた。

昭和10年頃



146 本所天神橋通り

現在の蔵前通りの太平4丁目あ
たりであろうか。明治43年8月
の大洪水。

明治43年8月



147 柳島妙見門前

横十間川に面して法性寺即ち柳
島妙見である。江戸城の鬼門よ
けとして置かれた妙見堂の信仰
が高かった。

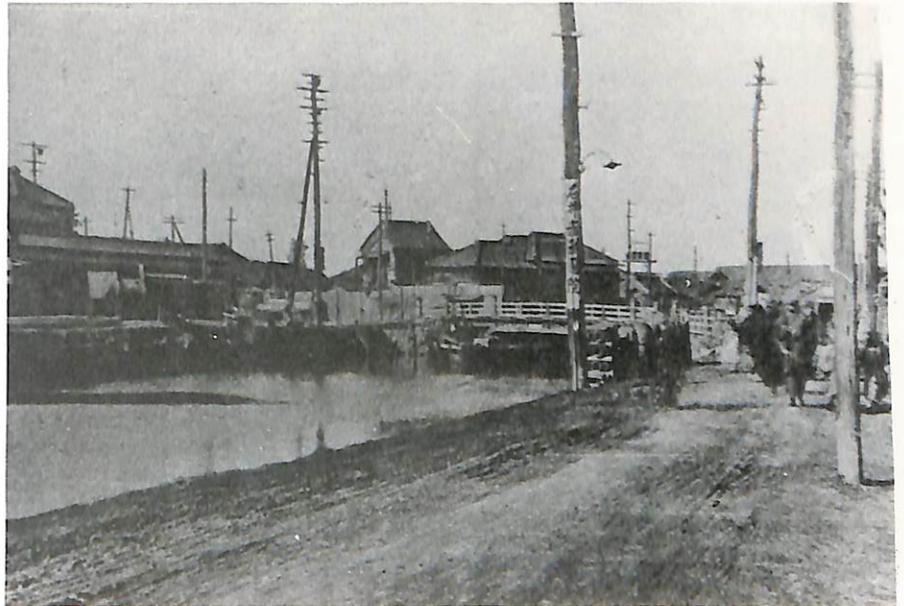
明治40年頃



148 柳島妙見社前

横十間川をはさんだ妙見堂の対岸から妙見と料亭橋本・柳島橋を望んでいる。

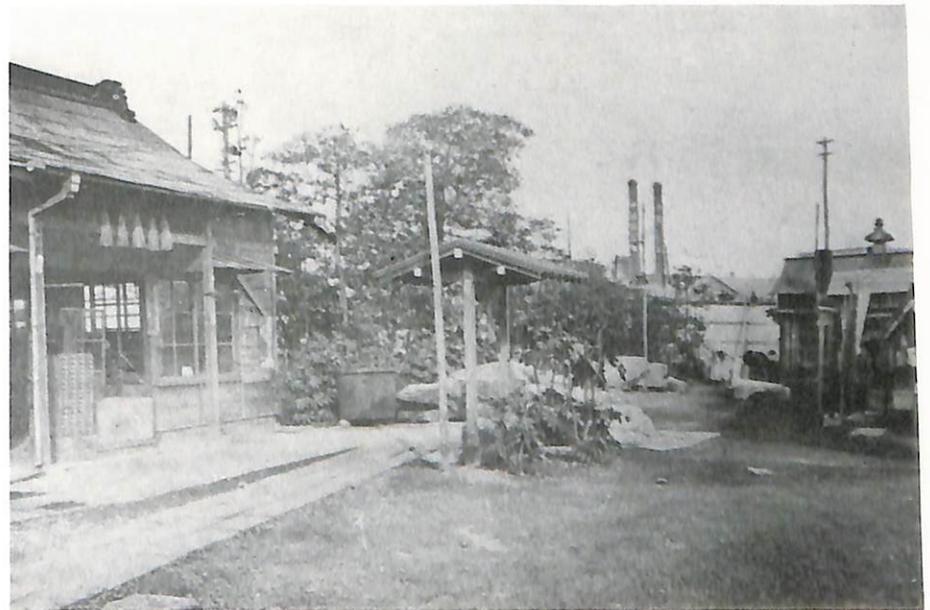
大正8年
「東京名勝図絵」より



149 震災後の柳島妙見

関東大震災によって焼失し、本格的な復興に至っていない頃の写真である。

昭和6年



150 料亭 橋本

北十間と横十間川との角にあった料理屋で、二階座敷から見る田甫ごしの筑波山の景色とあわせて、江戸名物になっていた。

明治40年頃



151 北十間川

墨田の川すじには染物屋なども多く、田園風景を残していた。川中で洗濯などするところも多かった。

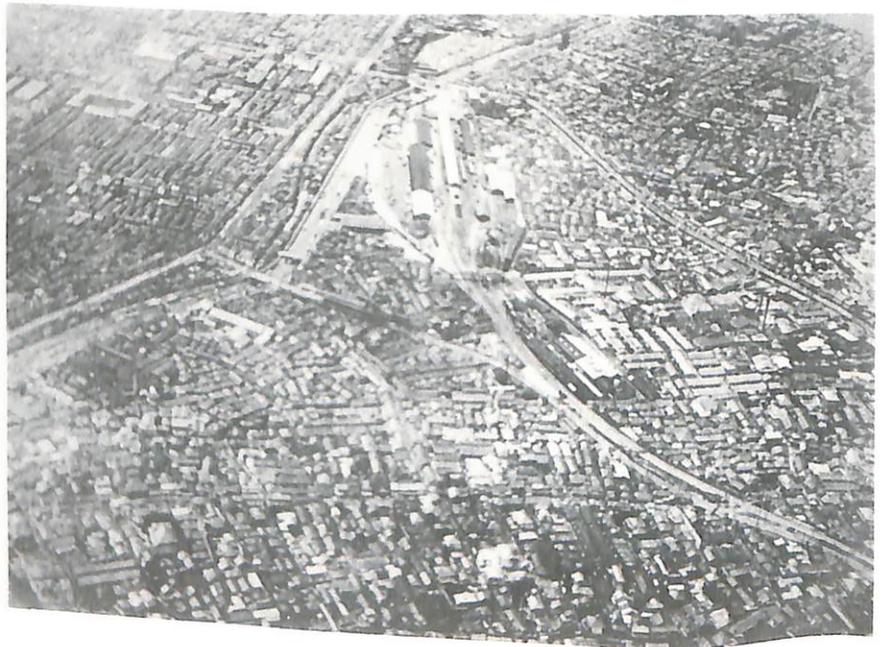
明治40年頃



152 押上・業平附近の航空写真

関東大震災前の押上界隈の写真で、京成線と現在の業平が終点であった東武線がみえる。

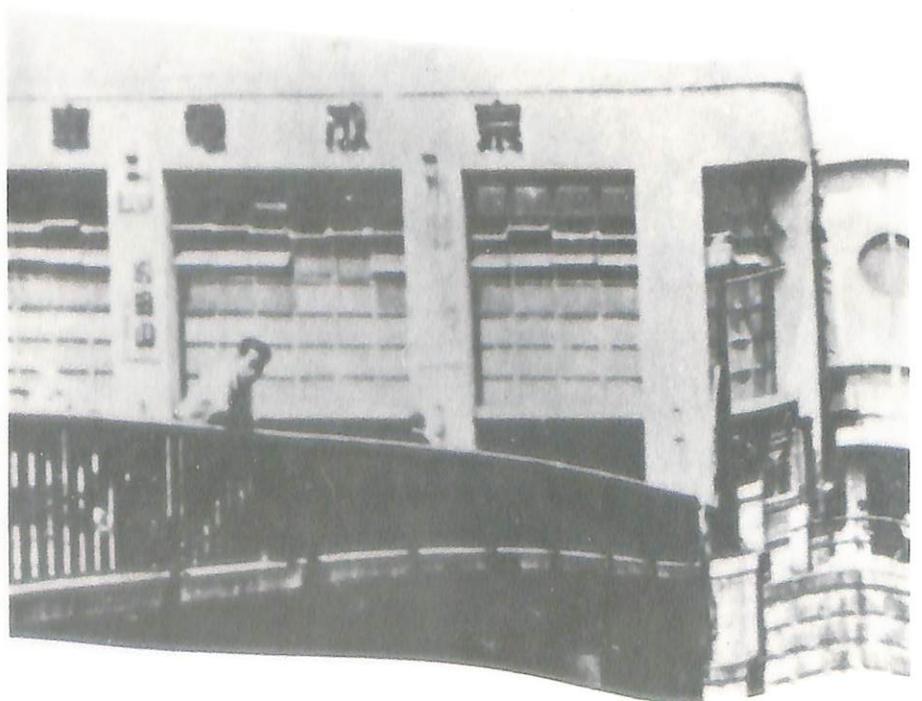
大正11年



153 京成電車本社

戦前の押上の京成電車本社

昭和18年頃



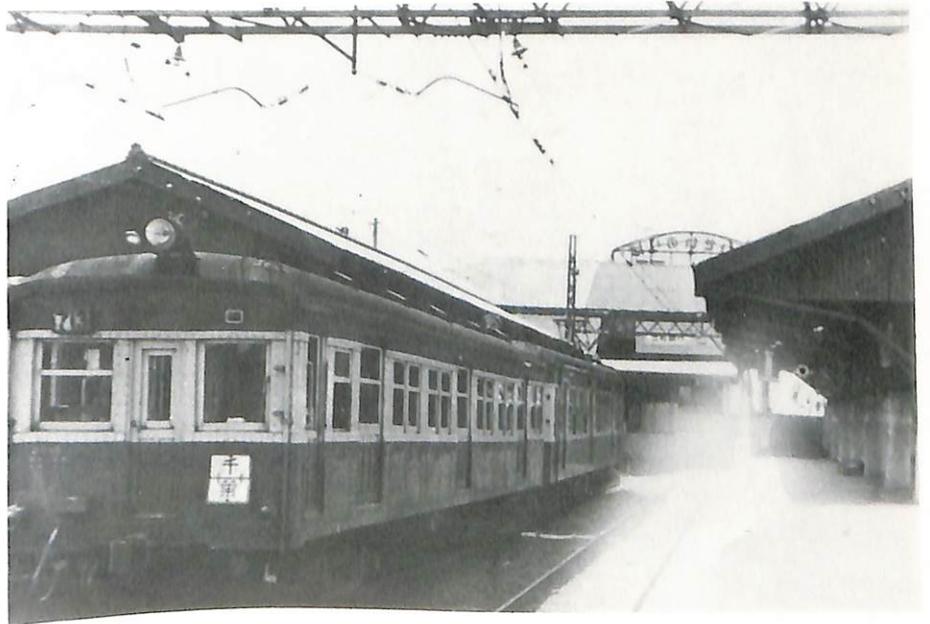
154 京成押上駅



バラック建の駅正面。

昭和32年

155 京成押上駅ホーム



昭和32年

156 京成押上駅



同じ時に、場所方向を変えて撮ったものと思われる。

昭和32年

157 押上を通るトロリーバス

都内初のトロリーバスが今井・業平・上野公園間で開通した。昭和43年10月廃止。

昭和27年



158 業平橋附近の都電とトロリーバス

昭和32年



159 小梅瓦町瓦焼場

北十間川・大横川・曳舟川沿いには瓦焼場が多く、中之郷瓦町、横川瓦町などの町名もみられた。

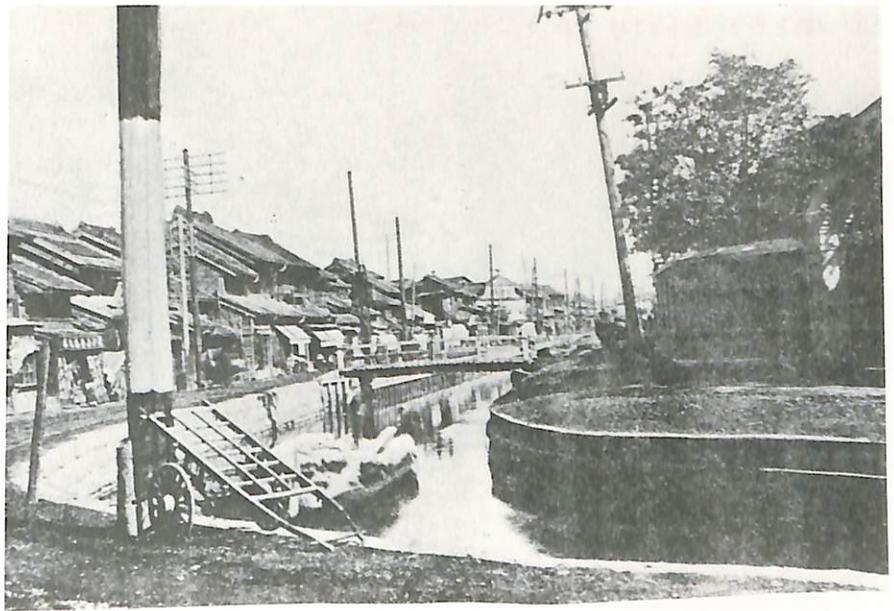
明治40年頃



160 曳舟川

本所上水として開削されたものであったが、はやく廃止となり、岸で綱を引く舟便の川となった、北十間川から少し入った、現在の言問橋に通じる八反目橋を望んでいる。

大正8年
「東京名勝図絵」より



161 曳舟川

戦後の汚れた曳舟川と丸太でつくられている八反目橋、先方は庚申塚橋である。

昭和25年頃



162 埋立てられた曳舟川

埋立工事は昭和29年11月から行われ、30年1月にはほぼ完了した。右手は旧小梅警察署で左は薬師湯で、前の写真と同位置である。

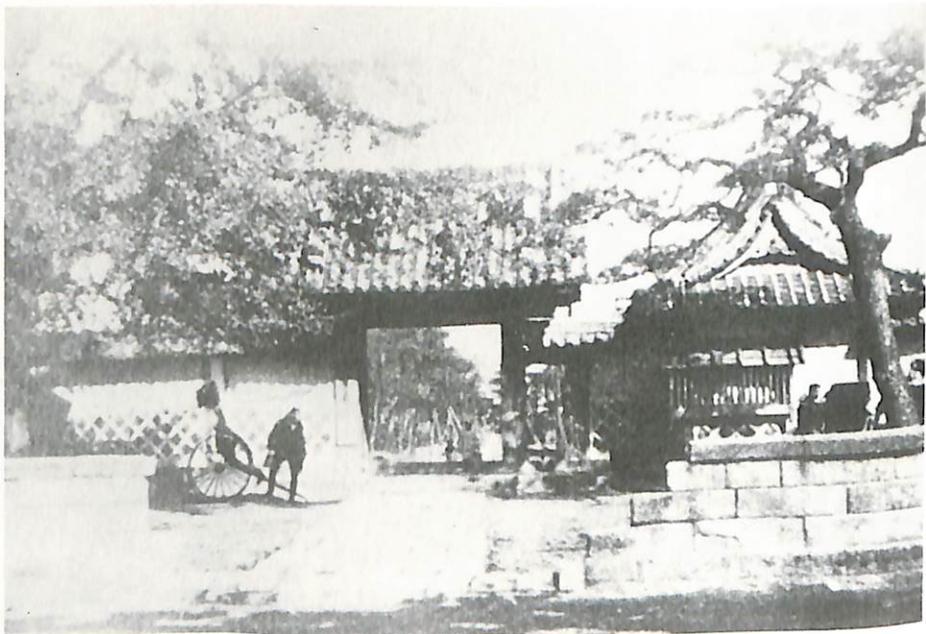
昭和30年



163 常泉寺山門

常泉寺は旧水戸邸の東隣りに寺領30石を有する徳川家ゆかりの寺院であった。

明治40年頃



164 常泉寺十返の松

地面にはうように広く拡がったこの松は、この地域の秋葉神社・柳島妙見・蓮花寺の松などと共に高名であった。碑は「漢張仲景先生碑」である。

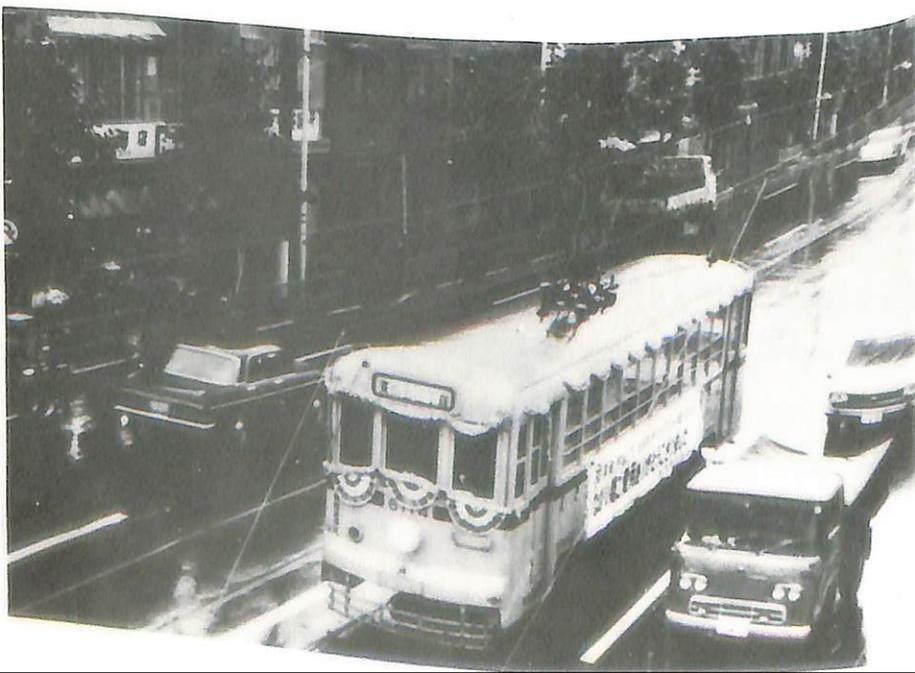
明治40年頃



165 都電向島線最後の日 (向島2丁目附近)

昭和6年3月に、現在の本所吾妻橋から向島まで延長され、更に25年12月寺島広小路まで通じたが、44年10月26日、30系統向島線は廃止された。

昭和44年10月26日



小梅附近の曳舟川といわれている写真であるが、少し田園の感が強い。

明治初年



167 曳舟通り向島3丁目附近

本所消防署小梅出張所の火の見櫓から曳舟通り同潤会アパートを望む。

昭和32年



168 牛島小学校

現在の区内では初めて、明治6年2月須崎村に、墨水学校（土手下学校）を引き継いで牛島小学校として創立した。昭和21年3月牛島国民学校として廃校となった。その後都立本所高校となる。

大正初年



169 高木神社

旧請地・新田の産神で、第六天の通称で呼ばれていた。戦災を受けなかったが、本殿を改築している。

明治40年頃



170 秋葉神社

向島の都電終点の頃は大きいちょうが目印であった秋葉神社も、現在は小じんまりとしてしまった。江戸時代は松・紅葉の名所にもなる地であった。江戸城大奥の信仰が厚かった。

明治40年頃



171 秋葉神社の松

秋葉神社の境内は広く料理屋も店を並べていた。この松は「千葉の松」（秋葉神社は旧千葉山満願寺といった）といわれていた。

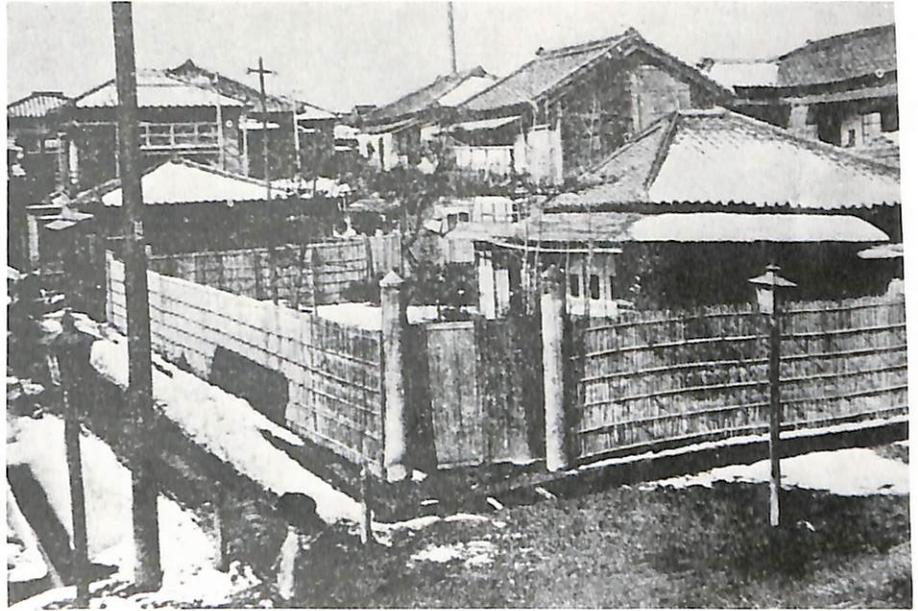
明治40年頃



172 曳舟川通り (秋葉神社裏)

大正8年頃の秋葉神社裏、曳舟川通りのたたずまい。

大正8年
「東京名勝図絵」より



173 向島市場前

左に見える向島市場は昭和4年3月、旧向島請地 179番に開設された。秋葉神社の東隣りで、現在の水戸街道に面していた。

昭和6年頃



174 東武線曳舟駅

昭和42年、高架線となり、駅舎も改築された。

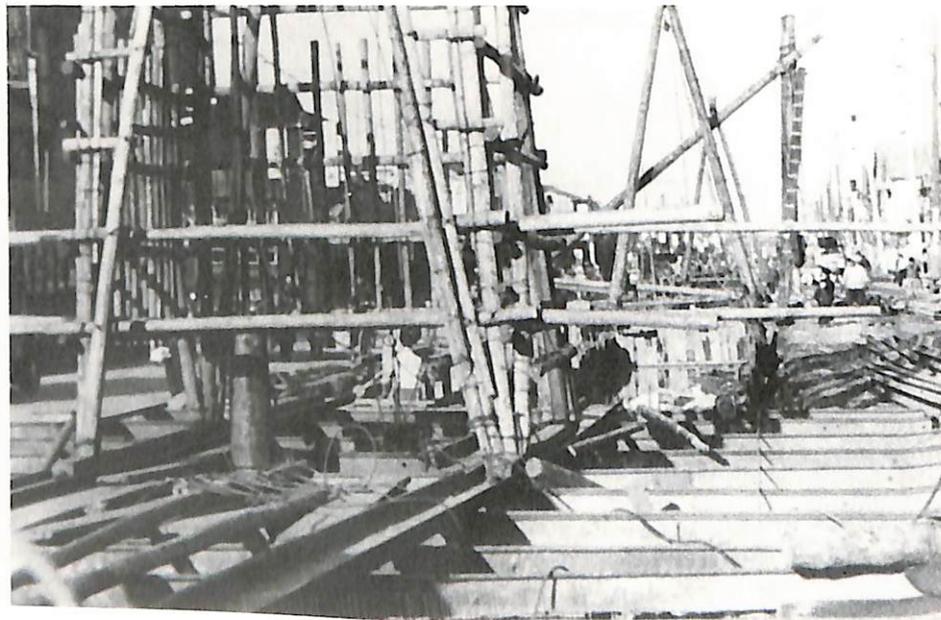
昭和32年



175 曳舟川埋立工事

東武線曳舟駅前あたり、「墨田文映」があった。

昭和29年



176 曳舟川鶴土手橋

地藏坂通りが曳舟川に架る橋を鶴土手橋と呼んでいた。かつては鶴も遊ぶ地であったのだろう。

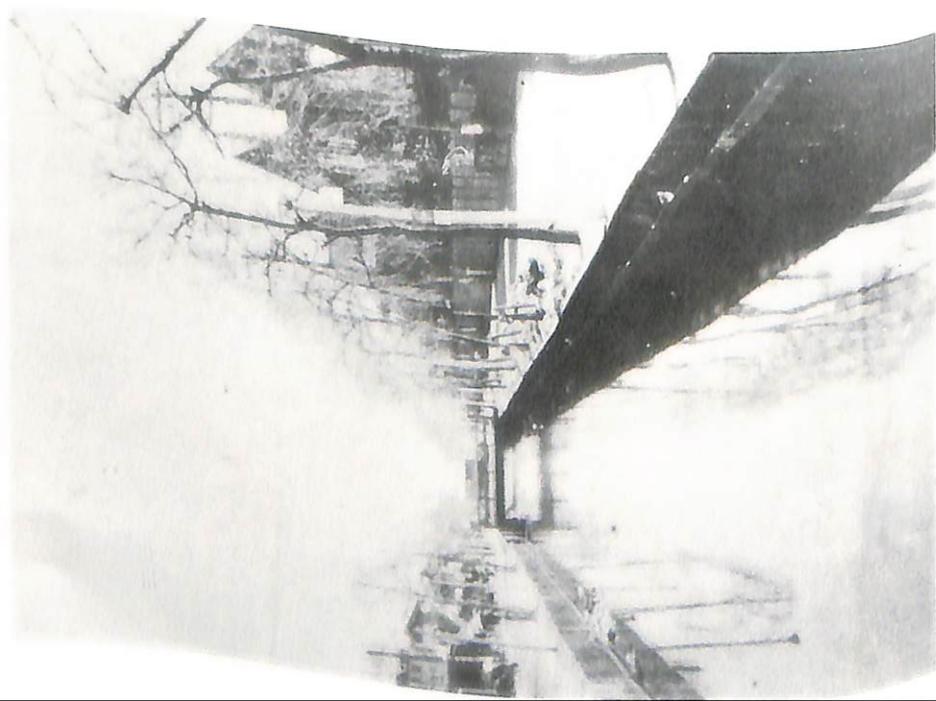
昭和32年



177 曳舟川

右手に資生堂の工場がみえ、鶴土手橋から明治通り寄りの沼関橋を望む。

昭和28年



178 鳥井陶器製造所（鳥居白レンガ）

墨堤下に製陶工場を起した鳥居京山の後をつぎ、明治40年鳥居庄衛門が、寺島村曳舟川畔（現在の明治通り角）に耐火レンガ新工場を建設した。

明治末年
提供・鳥井 匡氏



179 鳥井工場（鳥居白レンガ）

現在もタイル塀の一部と少し明治通り側に移動したタイルの家が残っている。遠くに田甫がみえる。

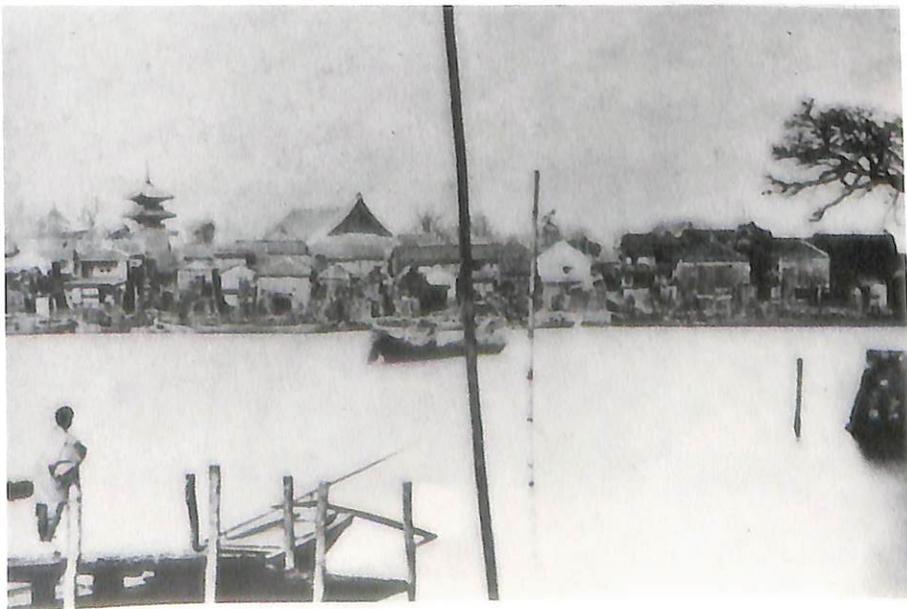
昭和初期
提供・鳥井 匡氏



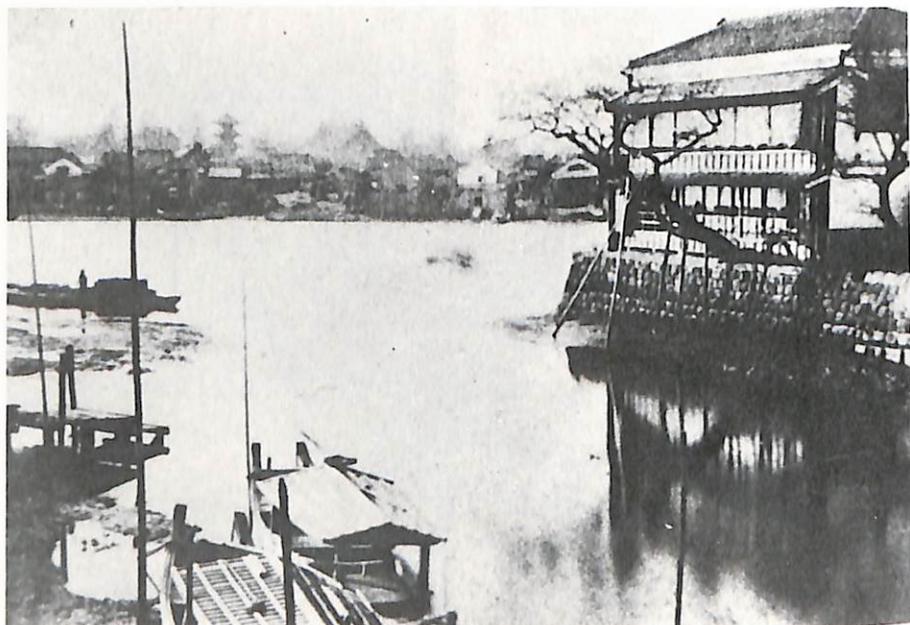
180 枕橋の渡し（山之宿の渡し）

明治になってから開設された渡しで、中之郷瓦町枕橋際より浅草山之宿を結んでいた。

明治30年頃



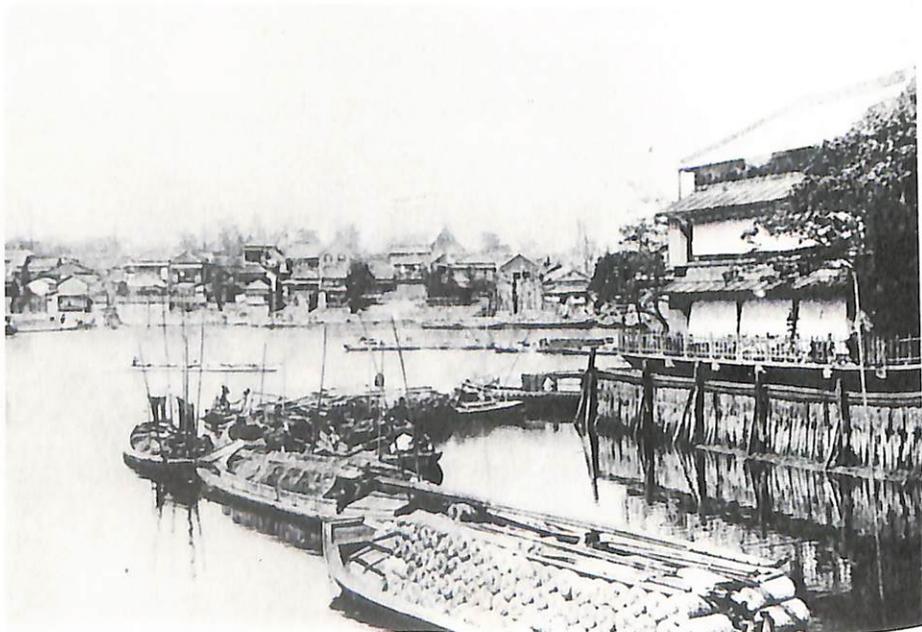
181 枕橋から料亭八百松と浅草を望む



水神の八百松の支店として明治3年新築したものと伝える。

明治30年頃

182 枕橋より料亭八百松と浅草方面を望む



手前の船の積荷はお米であろうか、浅草の観音様の本堂・五重塔・十二階などがみえる。

明治40年頃

183 枕橋から八百松・浅草を望む



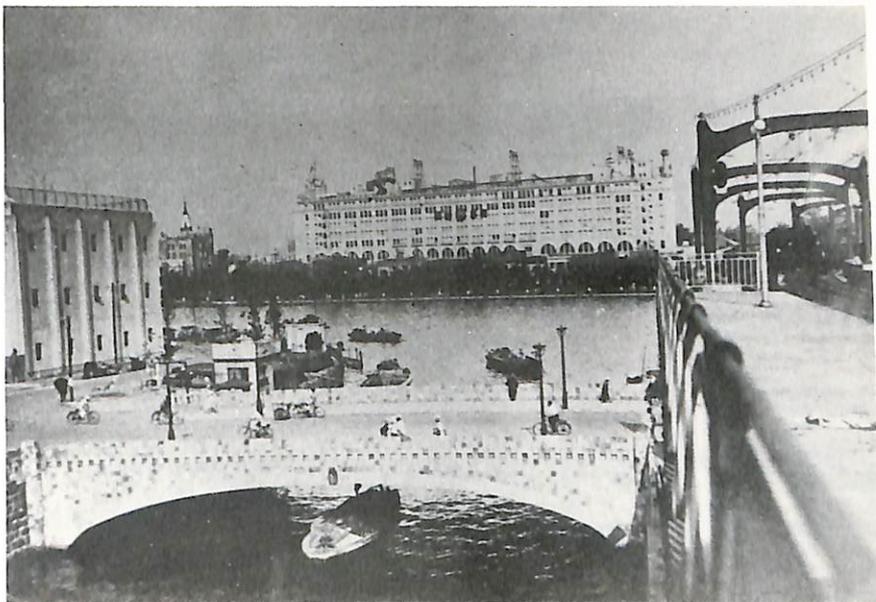
お花見の頃なので、枕橋の上も、船の上も人々でにぎわっている。

明治40年頃

184 東武線隅田公園駅（臨時）
より枕橋、松屋を望む

昭和6年に浅草駅（現 業平橋）
から雷門まで高架延長した。枕
橋も昭和4年にコンクリートと
なった。

昭和7年
「大東京都市写真帖」より



185 浅草松屋より隅田公園方向
を望む

まだ北十間川の水門も、高速道
路もなく、石炭を搬ぶ蒸気船の
煙突を橋にぶつからないように
斜にしているのがわかる。

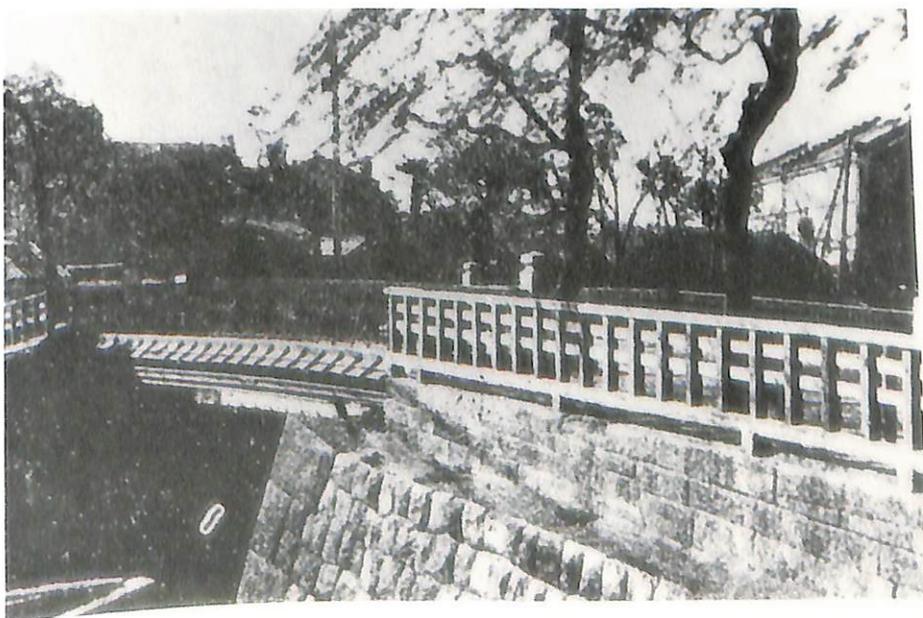
昭和28年



186 枕橋 水戸邸入口

枕橋は北十間川（源森川）に架
るものと水戸邸に入る入堀に架
る二つの橋を指して二つ並ぶ枕
にみたて、枕橋と呼んだと伝え
る。水戸邸内の洋館がみえる。

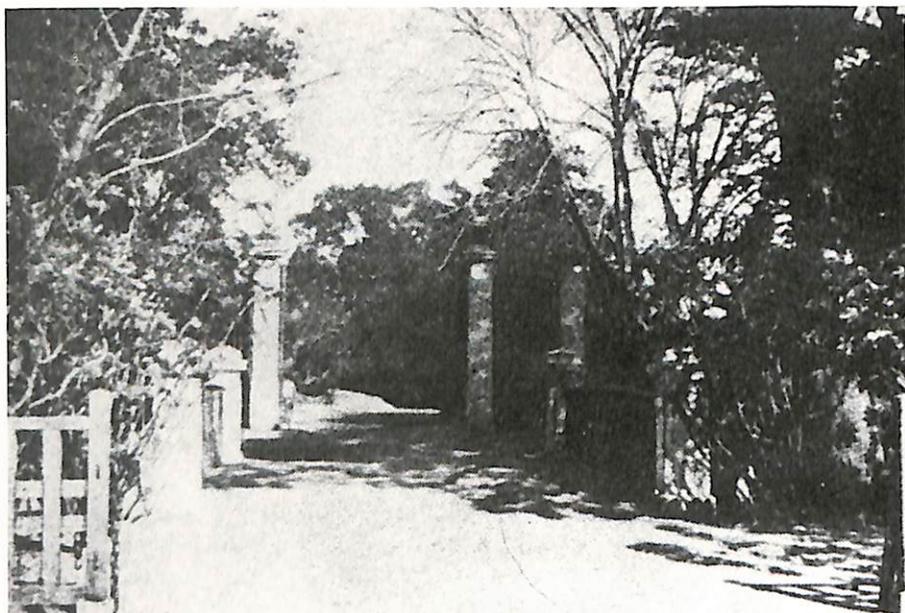
明治40年頃



187 水戸邸

元禄6年(1693)浜町から移された水戸徳川家の下屋敷で、関東大震災後、公園となった。

明治40年頃



188 水戸邸玄関に勢ぞろいした町内神輿

牛島神社か三囲神社の祭礼で神輿を水戸邸にくりこみ記念撮影したもの。

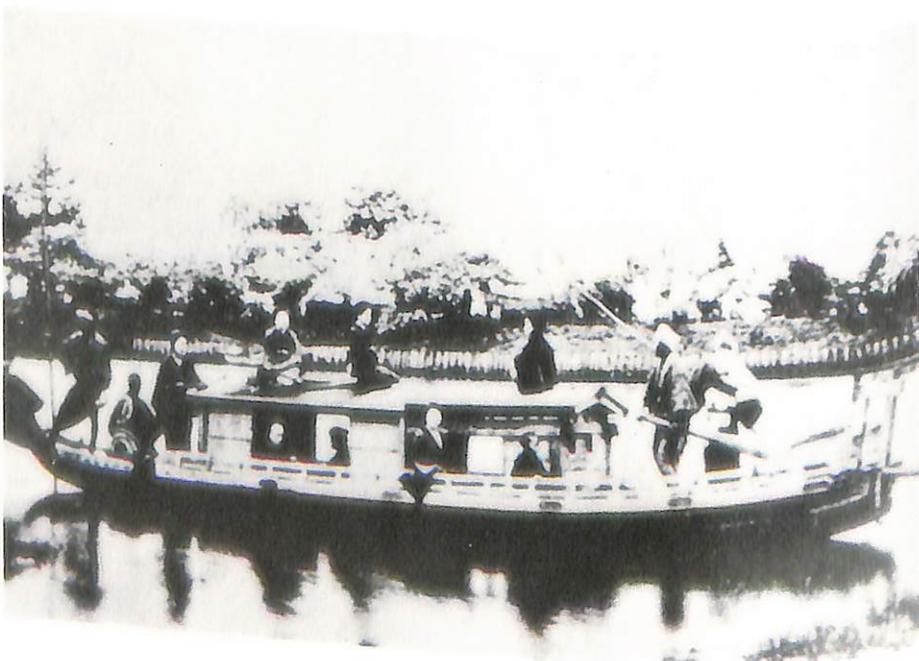
大正期
提供「魚さい」



189 隅田川舟遊び

江戸の初めの慶長頃でも、京から使者が関東に下ると、必ず隅田川の舟遊びと木母寺詣りの記録を見ることができる。対岸が墨堤であろう。

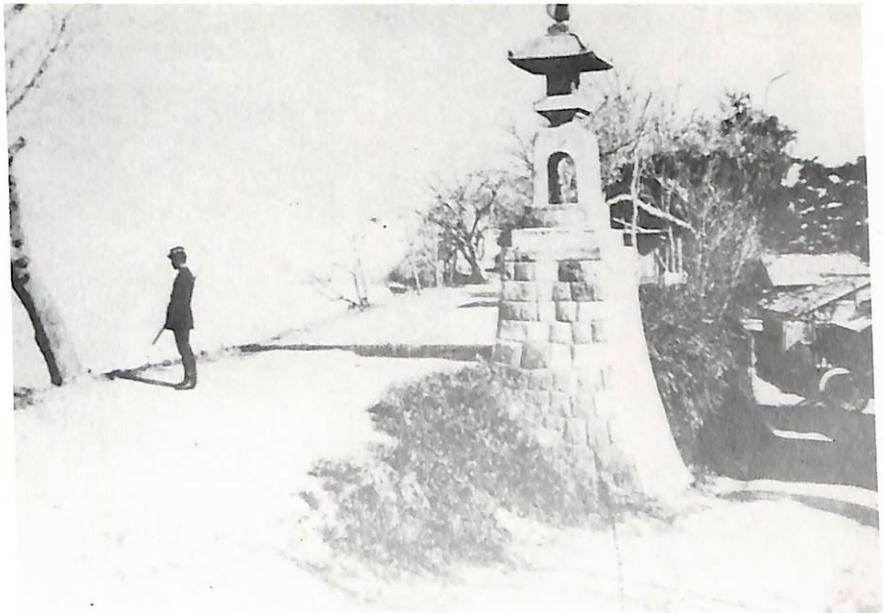
明治初年



190 墨田堤

隅田堤は太田道灌が築いたとい
い、あるいは天正2年(1574)
とも慶長年中ともいって、さだ
かでない。牛島神社の常夜燈が
みえる。

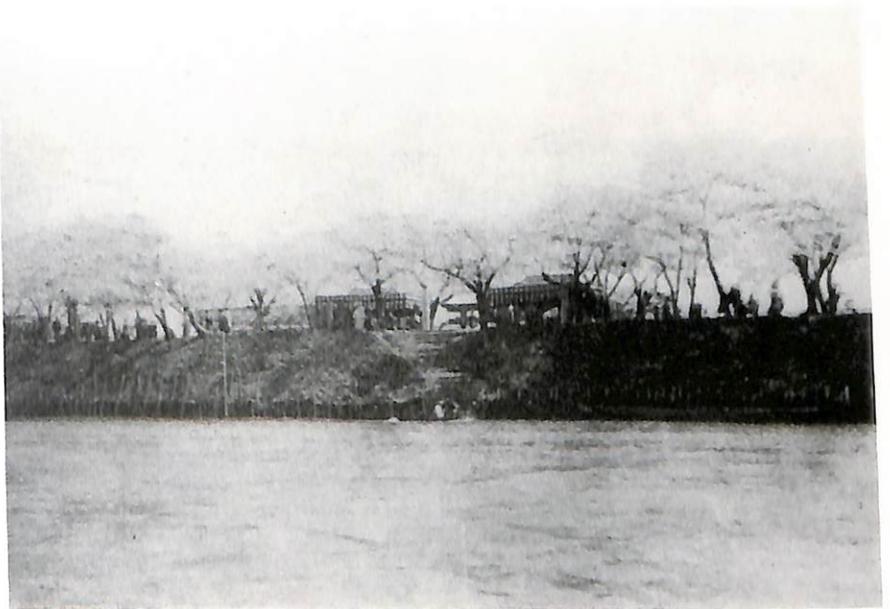
明治10年頃



191 墨田堤の桜花

墨田堤の桜は、徳川八代将軍吉
宗の時を始めとし、十一代家齊
が補植し、その後、文化年間に
朝川黙翁、佐原菊塢なども増植
している。

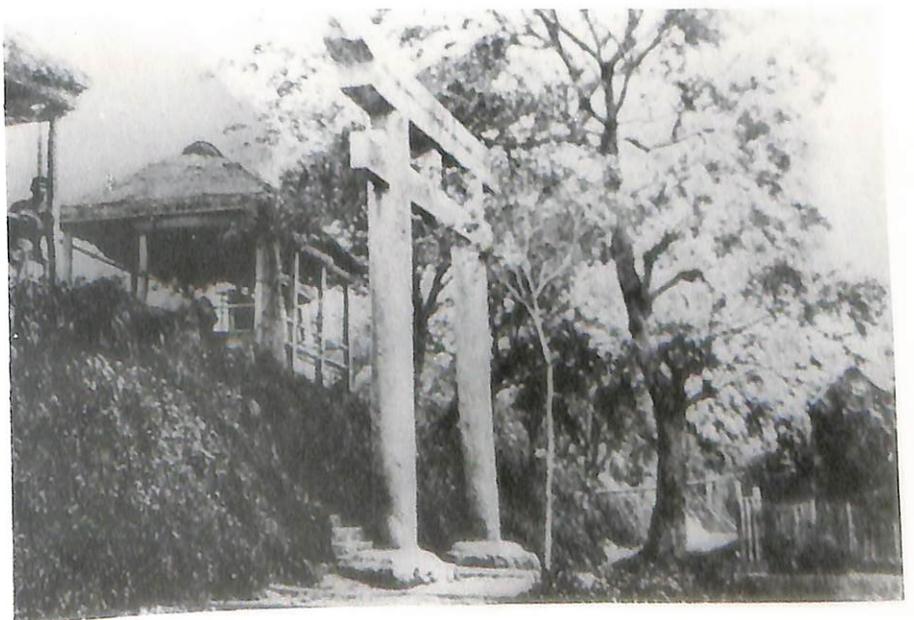
明治30年頃



192 墨田堤の茶店

三囲神社の鳥居と墨堤に並ぶ茶
店、桜の時期が終わった頃であろ
う。

明治30年頃



193 隅田川舟遊び

お花見の頃と思われ、墨田堤界限に舟がだいぶ集まっている。屋形船に、渡し舟にも人がいっぱいである。

明治30年頃



194 墨田堤竹屋の渡し

三囲神社の鳥居下と待乳山下とを結ぶ渡しで、為水春水「春色梅児誉美」にも、こんど舟頭が6人になったので、声を枯らして呼ばなくてもよくなったと述べている。

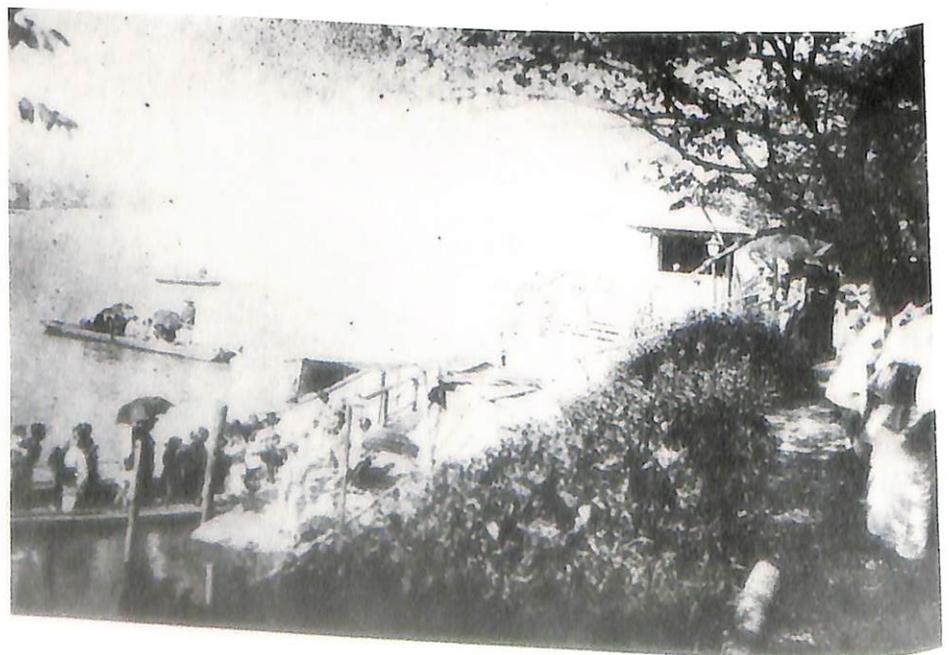
明治30年頃



195 墨田堤竹屋の渡し

墨田堤にも渡しではないが船着場は、何ヶ所かにみられている。

明治40年頃



196 墨田堤の桜と竹屋の渡し

当時、渡し賃

大人 1 銭

自転車 1 銭 5 厘

明治40年頃



197 墨田堤竹屋の渡し

江戸時代、対岸の待乳山下・山谷堀に、竹屋・沢潟屋という船宿があつて、よく向島側から呼んだことから渡しの名が起つた。

明治40年頃



198 墨田堤竹屋の渡し

花見時であろうか、小さな舟は人でいっぱい。左上の方に「東京帝国大学(東大)の艇庫」がみえる。

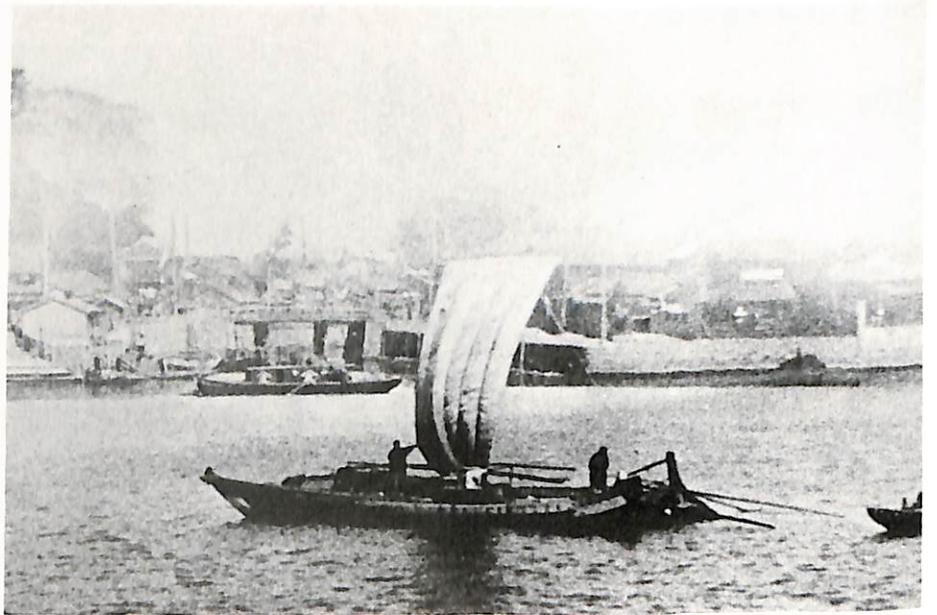
明治40年頃



199 待乳山の渡し (竹屋の渡し)

一般に「竹屋の渡し」といわれて来ていたが、明治5年の渡船場規定では「待乳山の渡し」になっていた。竹屋の渡しの浅草側といえる。

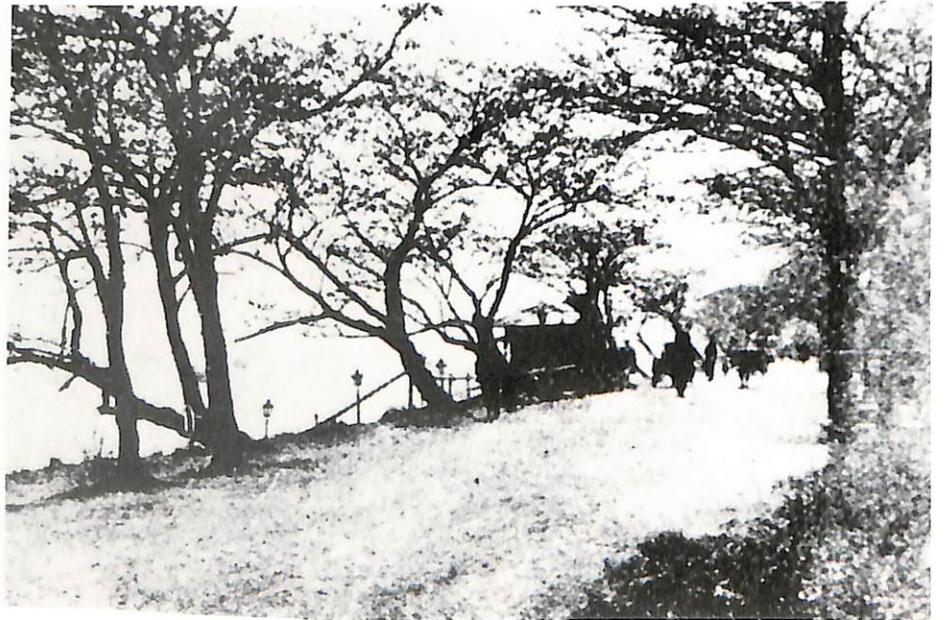
明治40年頃



200 墨田堤

竹屋の渡しを墨堤の上から見たところといえる。

明治40年頃



201 墨田堤花見のにぎわい

昔しの土手は花見客などが沢山集まって踏みかためられるように、花などを植えたともいう。

明治40年頃



202 墨田堤花見の賑い

桜の植樹は、天保・安政に坂田三七郎が、弘化に宇田川徳兵衛が、明治に入って、7年晋永機、13年水戸家、14年寺島村人、16年白鷗社の諸子がおこなっている。

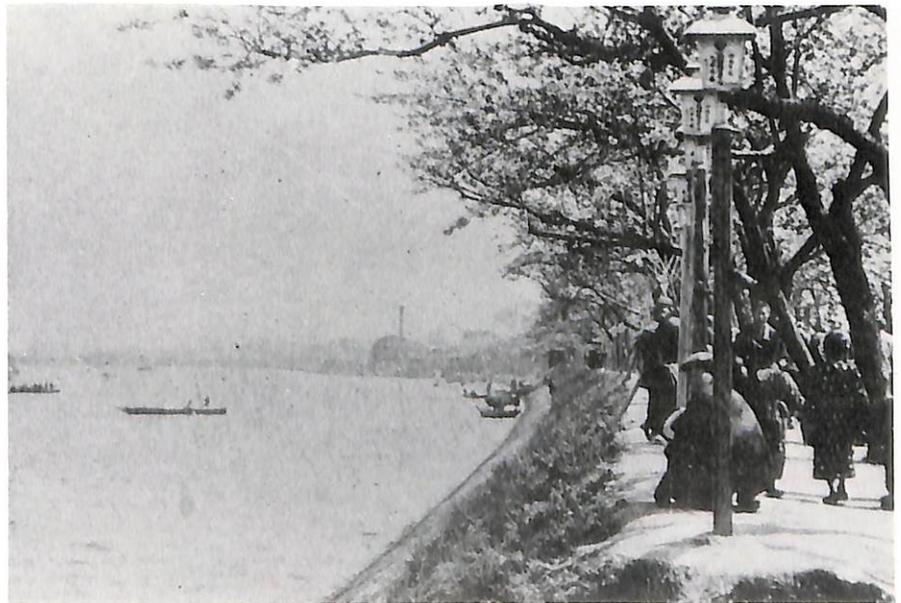
明治40年頃



203 墨田堤の桜

墨田堤の桜は、始めはいわゆる墨田堤の部分に植えられ、牛島堤（旧本所部分にあたる）は後になってからで、明治13年にはじめて枕橋から木母寺までつながったものである。

明治45年



204 隅田川絵ハガキ



大正末年か

205 新しくなった墨田堤（隅田公園）

大正の大震災のあと、堤を拡張し、公園として整備した。昭和6年3月23日完成。

昭和6年



206 新しく架橋された言問橋と隅田公園

言問橋は大正14年5月に着工し、昭和3年2月完成した。

昭和6年
「大東京写真帖」より



207 隅田公園

植えられた桜や柳も根付き、翌年のお正月頃の風景ではあるまいか。

昭和7年



208 隅田公園の花見

震災後整備された、隅田公園の桜も見頃になった。

昭和10年頃



209 隅田川蒸気船

隅田川の蒸気船は、銚子の方まで通った「通運丸」等を除けば、明治18年、八丁堀・中之橋より千住大橋まで、隅田川を往復する航路が開かれた。

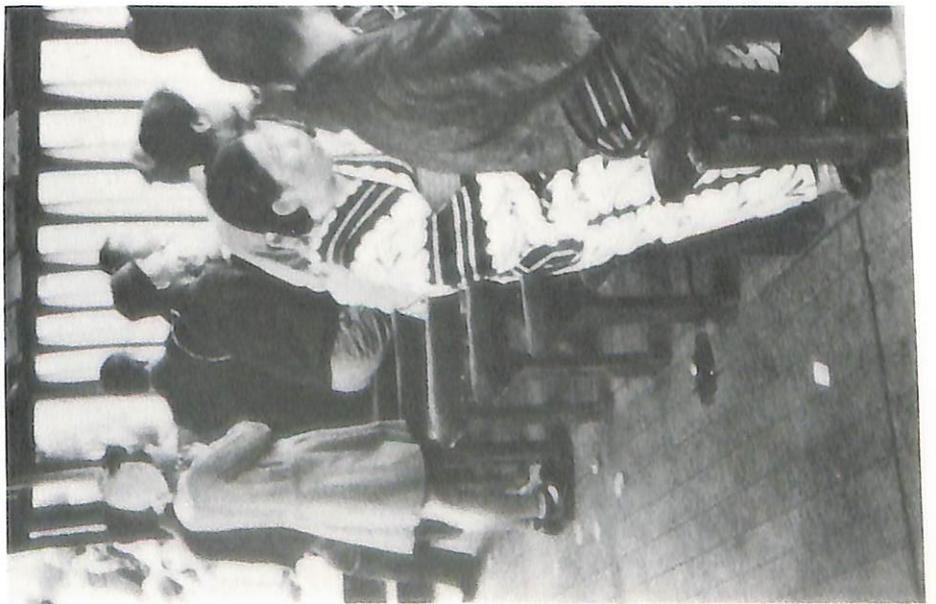
昭和10年頃



210 一銭蒸気船内

明治の末に、隅田川汽船会社が吾妻橋から永代橋の間を、千住吾妻汽船会社が吾妻橋から千住大橋間をそれぞれ往復していた。船内での物売りも名物であった。

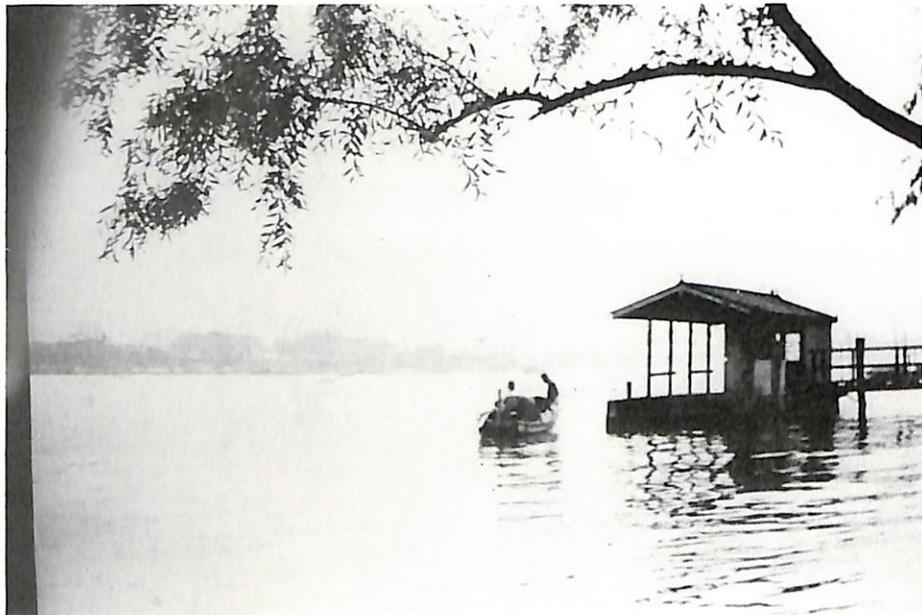
昭和10年頃
「思い出の東京」より



211 隅田川船着場

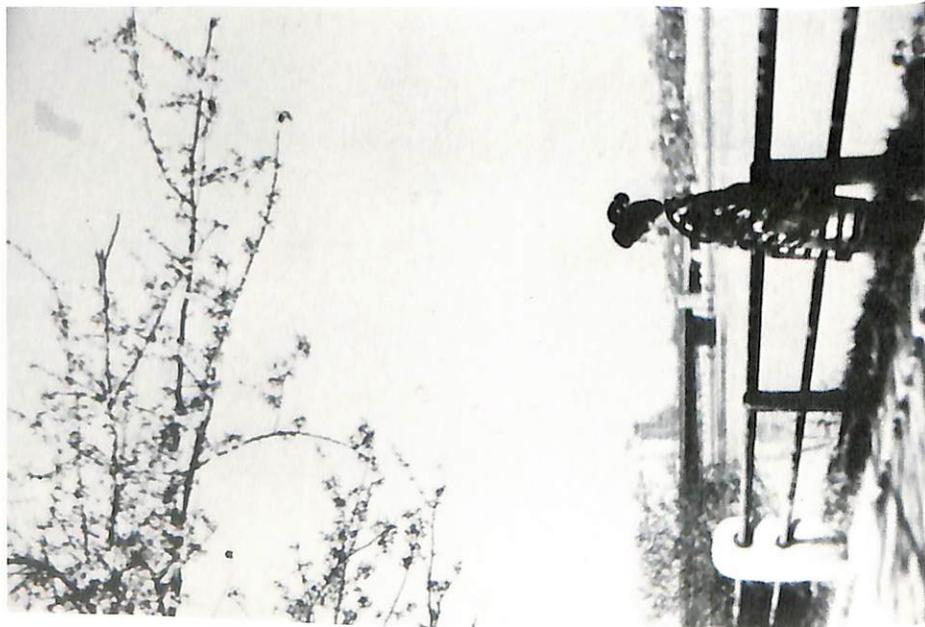
言問だんごの下あたりの船着場
と思われる。遠くにガスタンク
と白鬚橋がみえる。大正の地図
には今戸の渡しともみえる。

昭和10年頃



212 隅田公園の桜

昭和15年頃



213 雪景色の隅田公園

昭和26年



214 戦後の隅田公園

終戦の頃は隅田川は澄んで、隅田公園からも「ぶっこみ」でせいごやまるたやおぼこなどが釣れた。桜も排気ガスもなくよく咲いた。

昭和27年1月



215 向島牛島神社附近

墨田堤下で牛島神社の鳥居がみえる。明治43年の大水

明治43年8月



216 牛島神社

牛島神社は墨田区内でもっとも古い起立をもち、本所総鎮守で、社伝では、貞観2年(860)と伝えている。この写真は旧地で現在の弘福寺のうらあたりである。

明治40年頃



217 牛島神社

かつて隅田川は利根川の本流であり川口が石浜寺島と上流で、牛の臥す形に似ているところからまた、放牛（牛の牧）されていたことから牛島と呼ばれた。そこに古くから起かれた神社と思われる。

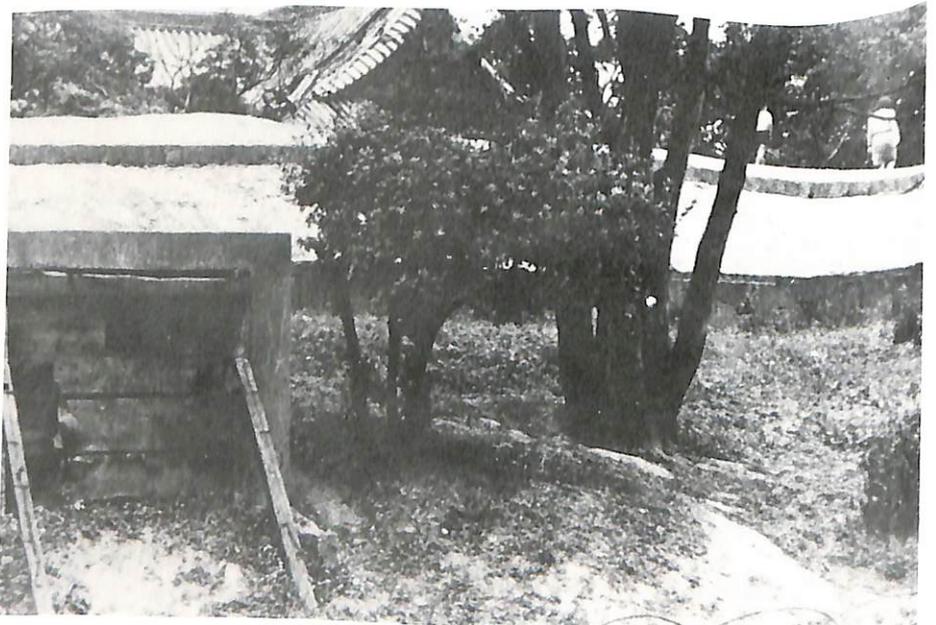
大正初年か



218 旧防空壕

震災後、水戸邸跡地に牛島神社は移転するが、戦争中、牛島神社の横、隅田公園にコンクリート造りの上に土をかぶせた大きな防空壕があった。

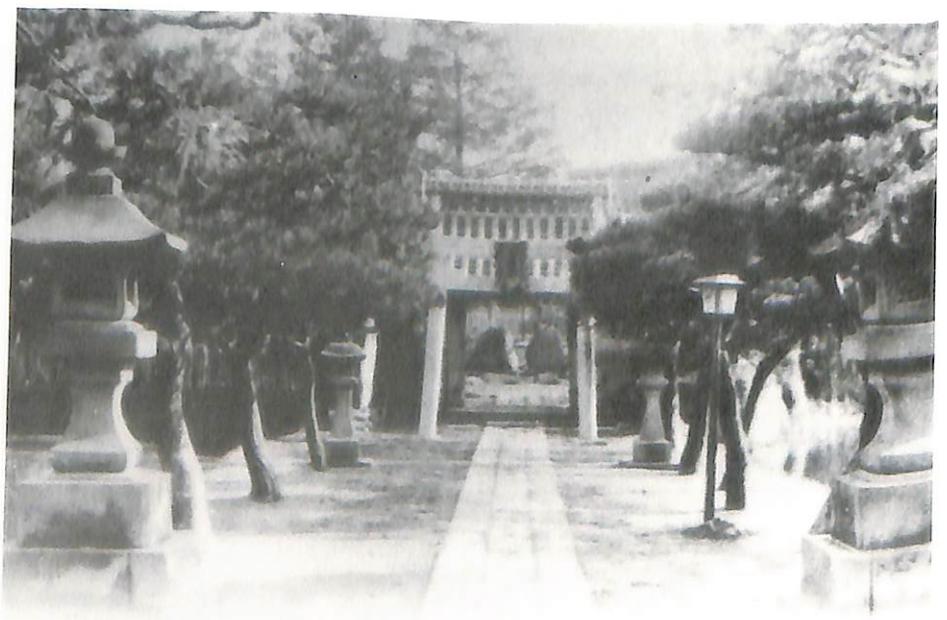
昭和40年頃



219 三囲神社

墨田堤側から本殿奥社をみたものであろうか。

明治40年頃



220 三囲神社

文和年間（1353～55）土中より白狐にまたがる神像を得、その時白狐が現われてその像を三回まわったところから三囲の名が起ったと伝える。震災・戦災をまぬがれた。

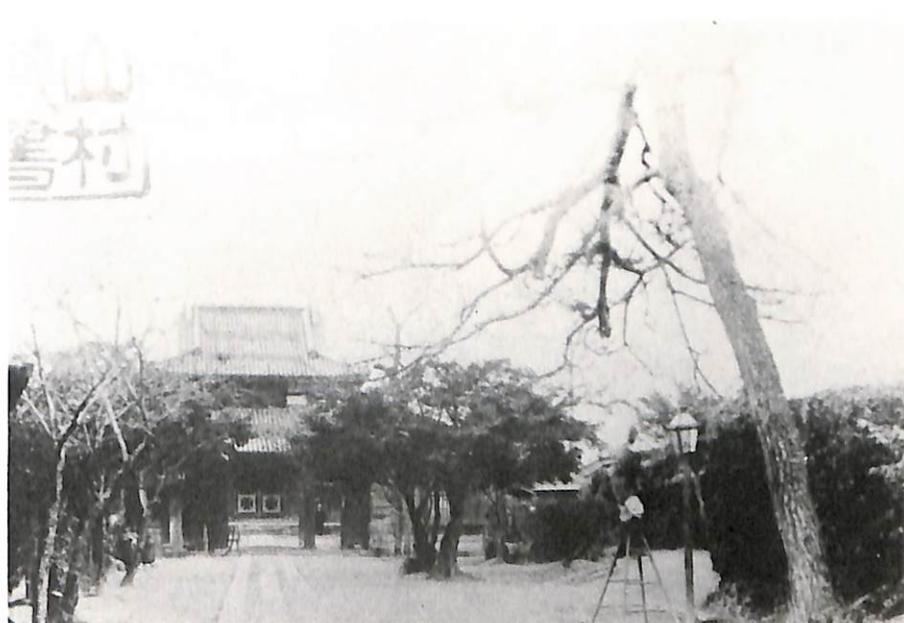
昭和6年



221 弘福寺

黄檗宗の禅寺で、もとは善左衛門村（現、墨田4）の小庵であったが、延宝2年（1674）牛島に移し、弘福寺とした。かつて森鷗外の墓もここにあった。

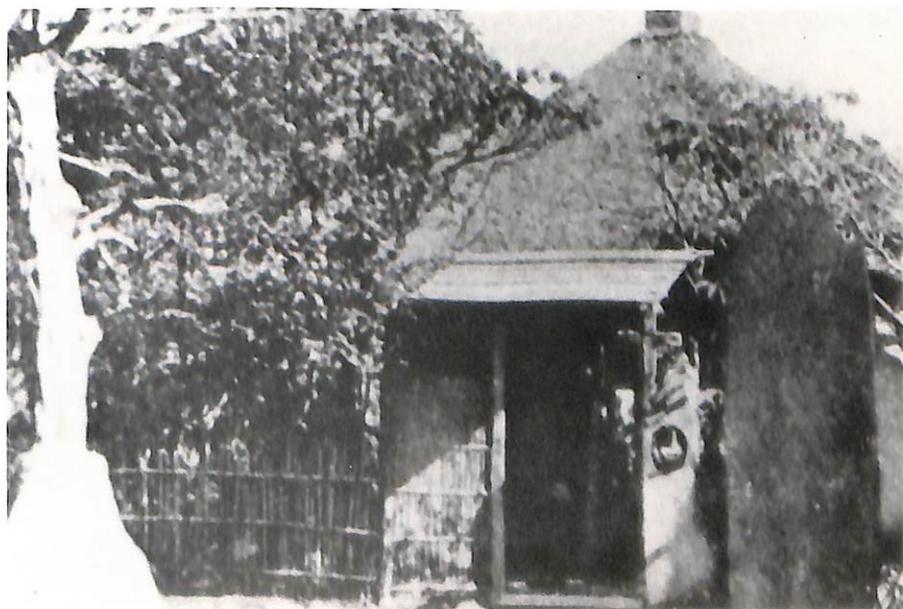
明治40年



222 長命寺 芭蕉堂

宝暦年間、俳人祇徳の創建になるが、明治初年、梅笠が再興する。明治29年花火で焼失し、さらに再建し、関東大震災で失い以後再建されなかった。

明治40年頃



223 長命寺

関東大震災で本堂、芭蕉堂共に焼失した。震災後の本堂、石碑類が目立つ。

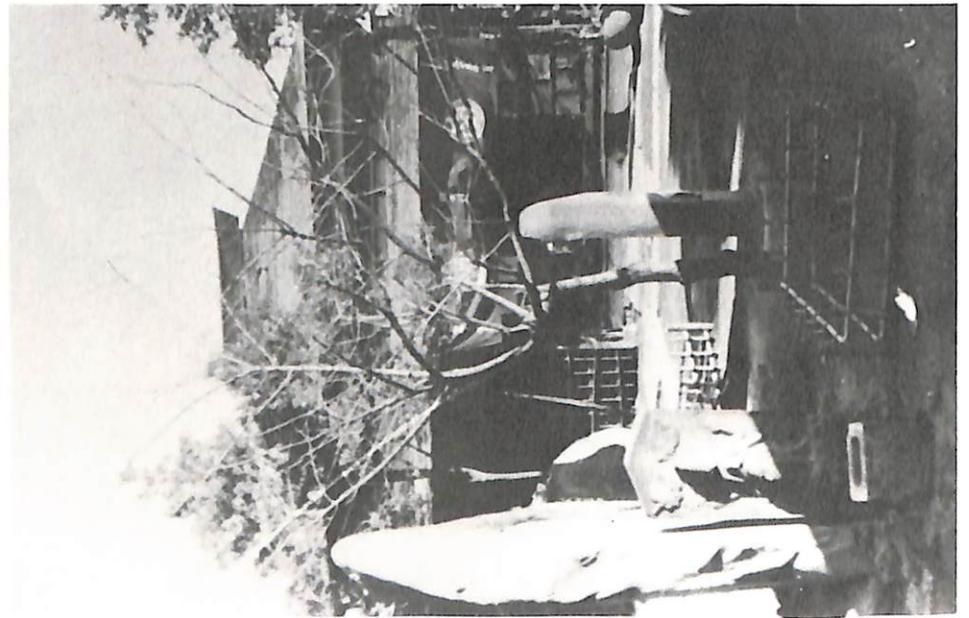
昭和6年



224 長命寺

寛永の頃、将軍家光が鷹狩にでて急病となり、この寺の水で薬を服用してたちまち快癒したので長命寺の号を賜わったと伝える。隅田川七福神弁才天を祠る。

昭和33年



225 言問団子

言問団子は明治2年の創業と伝え、現在地とほとんど変わっていない。土手下に船着場があったようである。

明治初年



226 言問団子

茅葺の家に替わって建てられた店で、中林悟竹ののれんが目立つ。横では隅田川蒸気船の切符を売っていた。百花園の立看板もみえるが。

明治30年頃



227 言問団子

明治11年、都鳥に擬して燈籠を造り、7月1日より30日間、数百の都鳥の燈籠をともして、川波に浮べ、水死者の供養とし、流燈会と称した。

明治40年頃



228 隅田川レガッタ

明治17年、帝大ボートレースが始めて隅田川で行われたという。明治20年川畔に帝大艇庫もつくられ、商科大学、学習院等も艇庫をつくっていた。

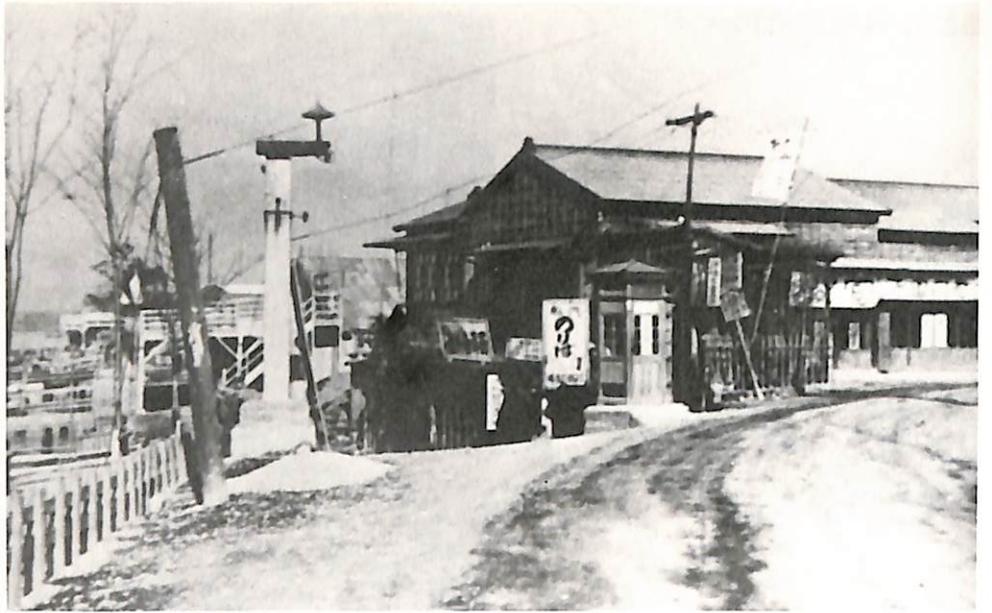
明治42年頃



229 言問団子

関東大震災で焼失し、仮建築頃の
写真といえる。汽船のりばと、
後方に大学の艇庫がみえる。

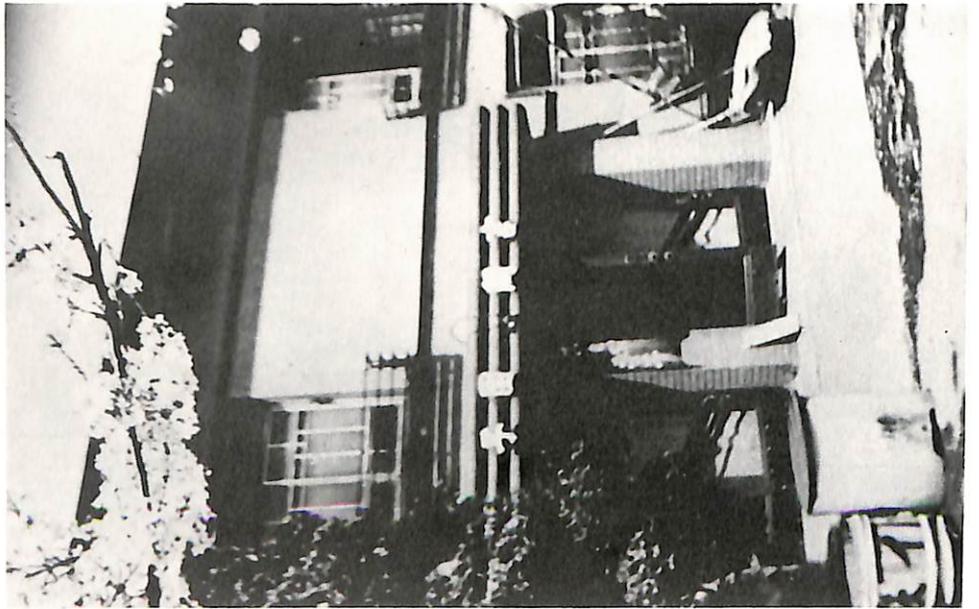
昭和5年頃



230 言問団子

震災後の仮建築のあとに建てた
建物と思われる。戦災で焼失し
たものであろうか。

昭和15年頃



231 商科大艇庫 (現 一橋大)

この商科大向島艇庫は昭和5年
に完成したもので、側面にへび
のからまる校章がレリーフにな
っていた。

昭和40年頃



232 小梅町附近の大水

墨田堤から小梅町の町並みを見
るといえる。明治43年8月の洪
水。

明治43年8月



233 向島新小梅町附近

明治43年8月の大洪水の写真で
「盆栽庭木苗木商 観樹園」など
の外燈も読める。

明治43年8月



234 向島須崎町附近

明治43年の大水

明治43年8月



235 向島和田邸海棠園

向島和田邸海棠園に於ける鷗会
と解説にみえる。

明治30年頃

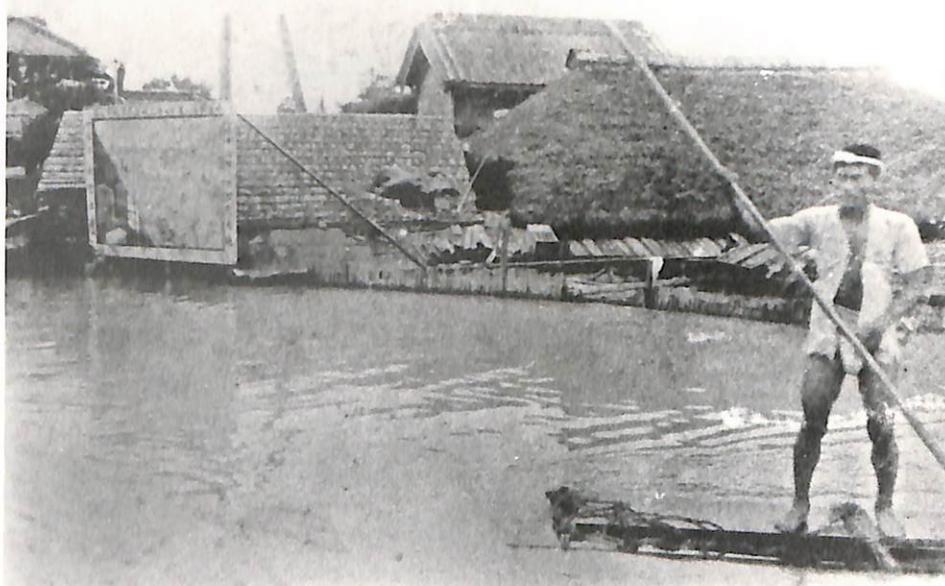


向島和田邸海棠園に於ける鷗会

236 向島須崎町附近

明治43年の大洪水の写真の一枚
で、須崎町附近となっている。
立看板に十全舎大倉本店（大倉
牛乳）向島寺島村六百拾貳番地
とみえる。

明治43年 8月



237 堤通り（旧墨堤）

現在の銅像堀高速道路入口の少
し隅田公園寄りのところである。
まだ道路の拡張がおこなわれて
いない。

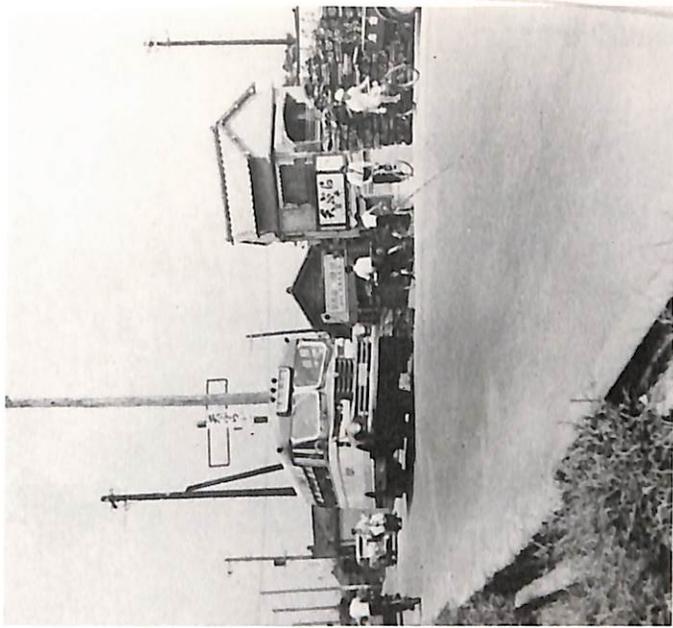
昭和32年



238 堤通り (墨堤)

皮革業の先覚者西村勝三の銅像のあった、現在の高速道路入口附近の写真である。このあたりから江戸時代は古川という流れが十間橋の方に向っていた。

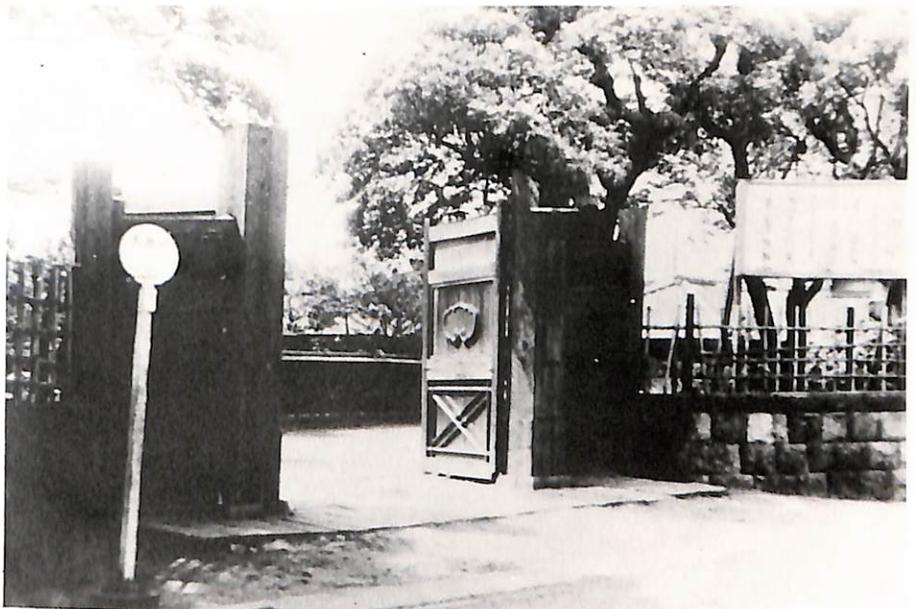
昭和32年



239 旧大倉別邸入口

中野碩翁邸跡を明治の政商といわれた大倉喜八郎氏が別邸としたもので、この写真の当時は料亭になっていた。建物は船橋ヘルスセンターへ移築されたが。

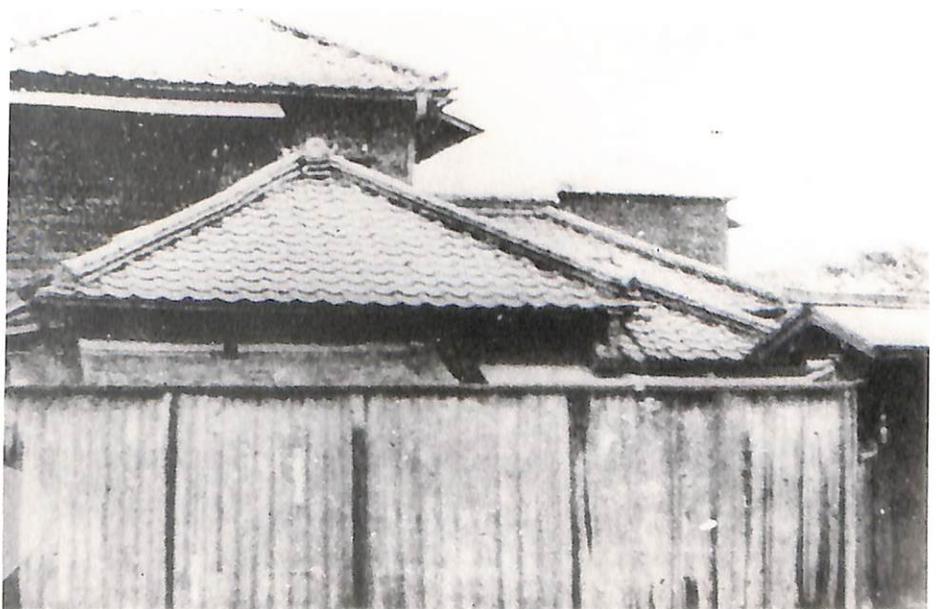
昭和32年



240 幸田露伴旧居 (蝸牛庵)

露伴は白鬚橋先の住友ベークライトの西側 (旧馬場) と、この土手下の雨宮酒店の家とヒノデワシ・ゴムの隣りの露伴公園地の三ヶ所に住んだ。この建物は明治村に移されている。

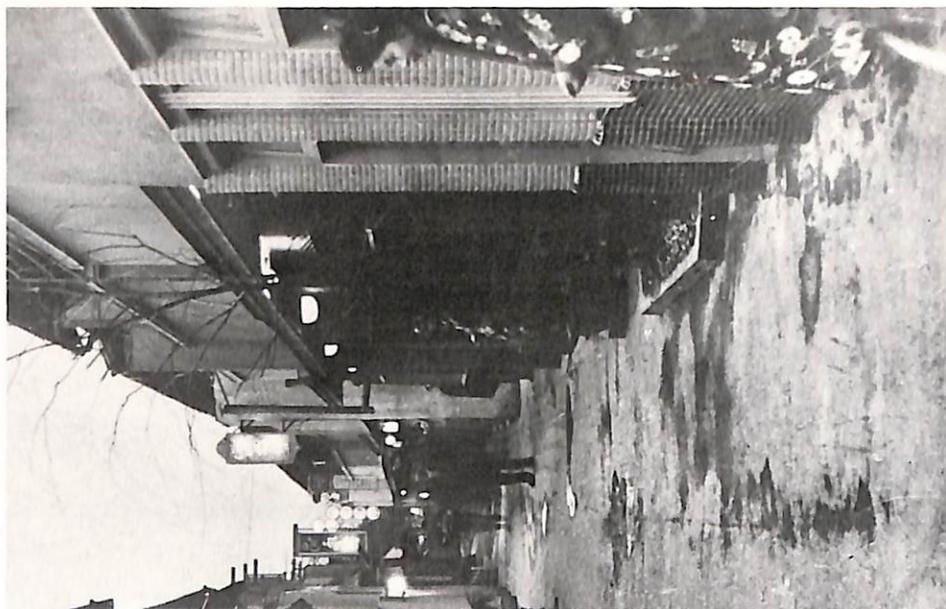
昭和32年



241 鳩の街

戦前は銘酒屋といい戦後は特飲街とよばれていたが、この鳩の街は戦後玉ノ井から別れて増えたものである。吉行淳之介の「原色の街」の舞台にもなっている。

昭和27年



242 向島授産場

一般の就労が困難な人達にその場を提供するもので、昭和25年都が東京都勤労補導協会から、55年に都から区へ移管となった。現在は鉄筋コンクリート建である。

昭和32年



243 寺島小学校運動会(現 第一寺島小学校)

村立寺島小学校は明治12年に開設された。現在の寺島図書館の地である。この写真は運動会の風景といわれている。

明治43年



244 第一寺島小学校附近

一寺の屋上から西北の方向を望んだものと思われる。左端の建物が大倉別邸ではないだろうか。

昭和10年頃か



245 墨田川高校

戦後立てられた木造建ての校舎。

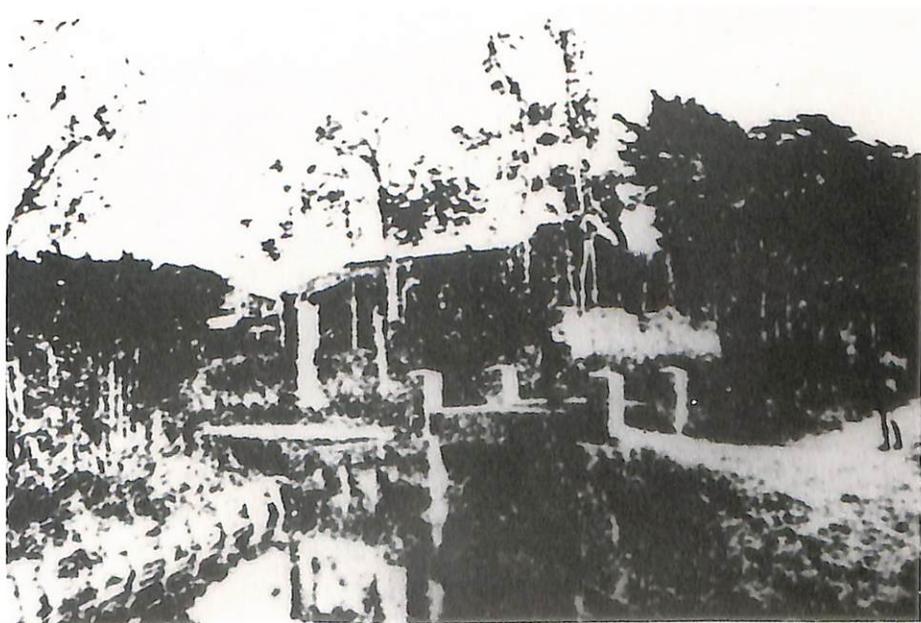
昭和32年



246 寺島大師橋

地藏坂通りから蓮花寺の方に入った所に架っていた橋で、道標らしいものも見える。

明治30年頃



247 寺島広小路附近（東向島広小路）

向島消防署の火の見から見たもので、都電寺島2丁目終点や角のおしるこ「だるま」の看板がみえる。

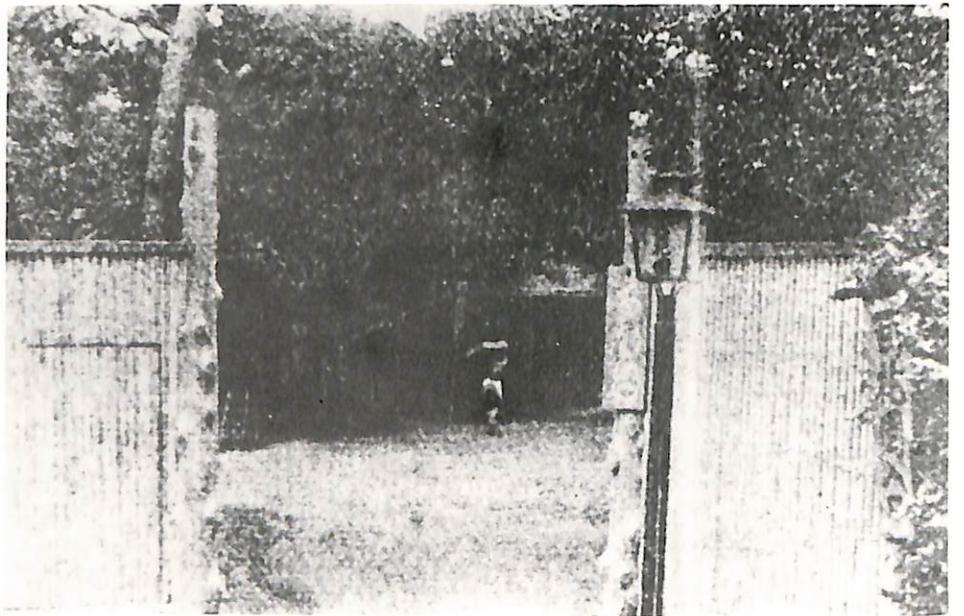
昭和32年



248 百花園

百花園の入口で、この写真は明治の末のものだが、百花園は文化元年（1804）町人佐原鞠塙によって開かれた梅園である。

明治40年頃



249 百花園

江戸の文化・文政の頃の町人文化に根ざした風流雅味を、自分たちのサロンとしてこの園につきこみ、作りあげたものといえる。国の名勝・史跡に指定されている。

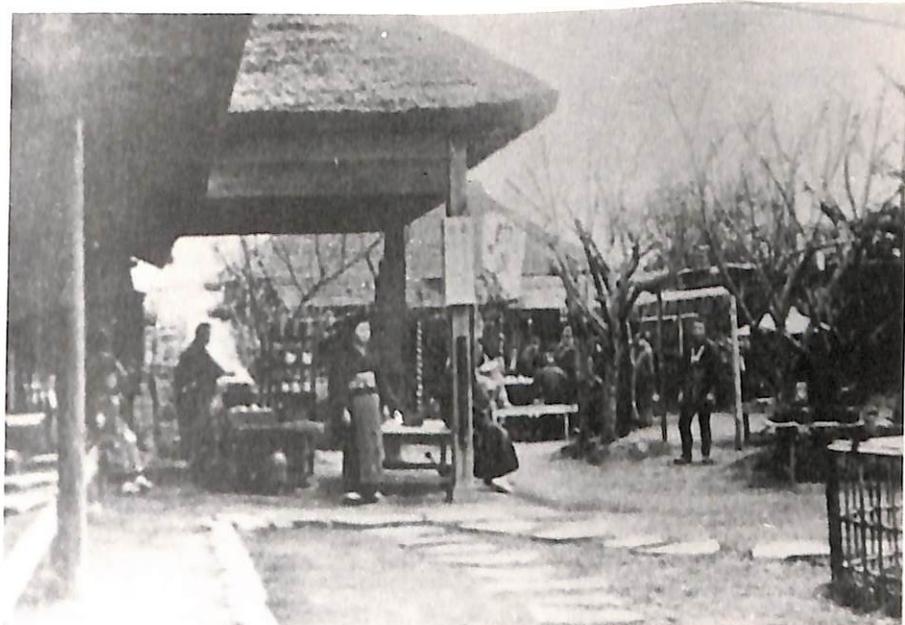
明治40年頃



250 百花園

梅を中心としていた、め亀戸の梅屋敷に対して、新梅屋敷ともよばれた。江戸・東京の近郊行楽地として杖をひく者も多かった。

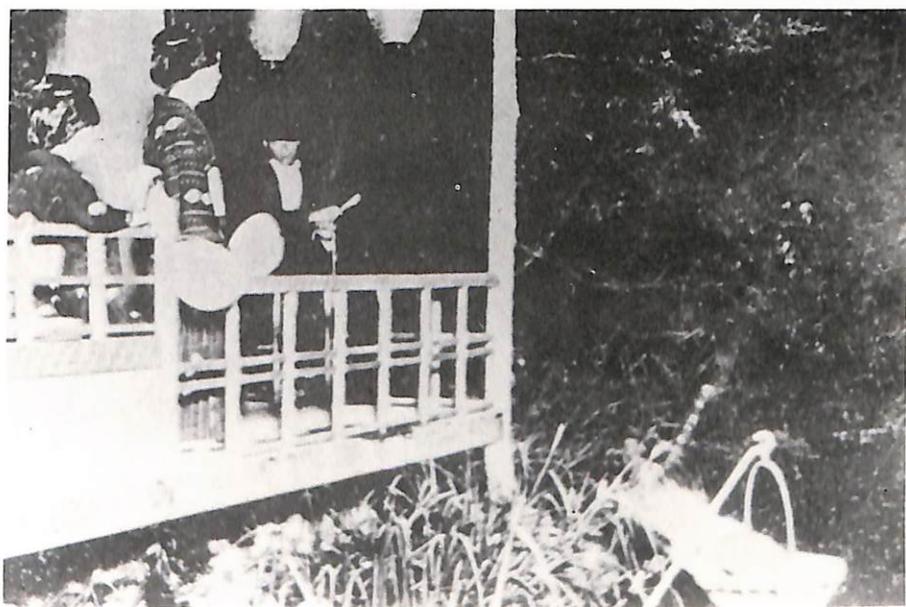
明治40年頃



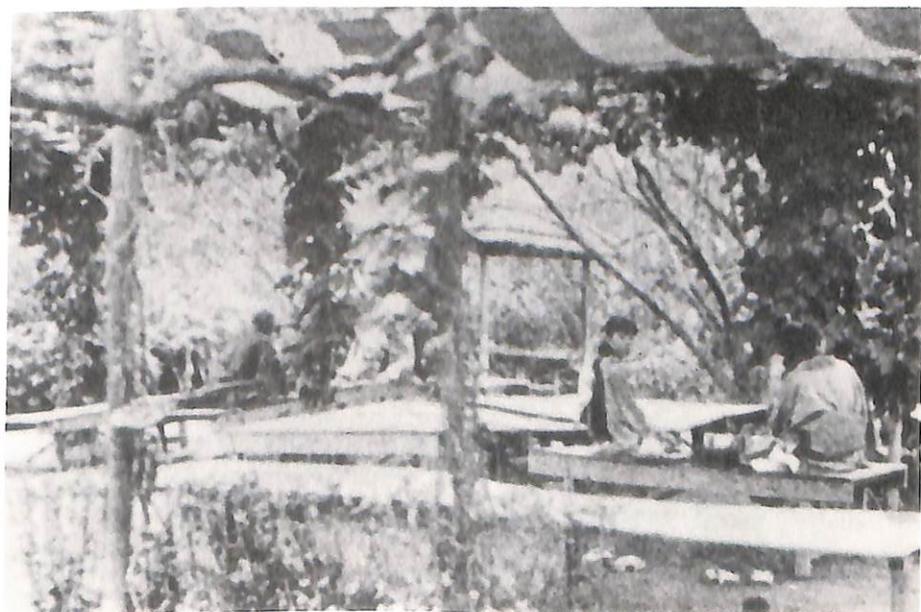
251 百花園

小松曳・七草がゆ・虫はなち会 お月見などの行事もおこなわれた。池にせりだしたあずま屋にかがり火をたき、うちわがみえるので「虫はなち会」と思われる。

明治42年



252 百花園



明治末年

253 百花園御成座敷

江戸時代、将軍ら諸大名なども来園することもあり、御成座敷と呼ばれる建物があった。昭和20年3月9日の戦災で焼失した。

昭和10年
「東京古今図史」より



254 百花園御成座敷

先の写真が冬の景色で、この写真が夏の景色と思われる。梅と草の庭なので、冬はさびしい。

昭和10年頃



255 百花園

明治40・43年と続く大水により、梅は枯れ園は荒廃した。大正4年寺島に住んでいた小倉石油社長の小倉常吉氏が経営をそのまま譲り受け補修・旧景維持につとめた。

昭和12年



256 百花園

小倉常吉氏の死に際し、未亡人のふ氏より、昭和13年10月そのまま東京市に寄付された。この写真は東京市に引継ぐための現状写真と思われる。

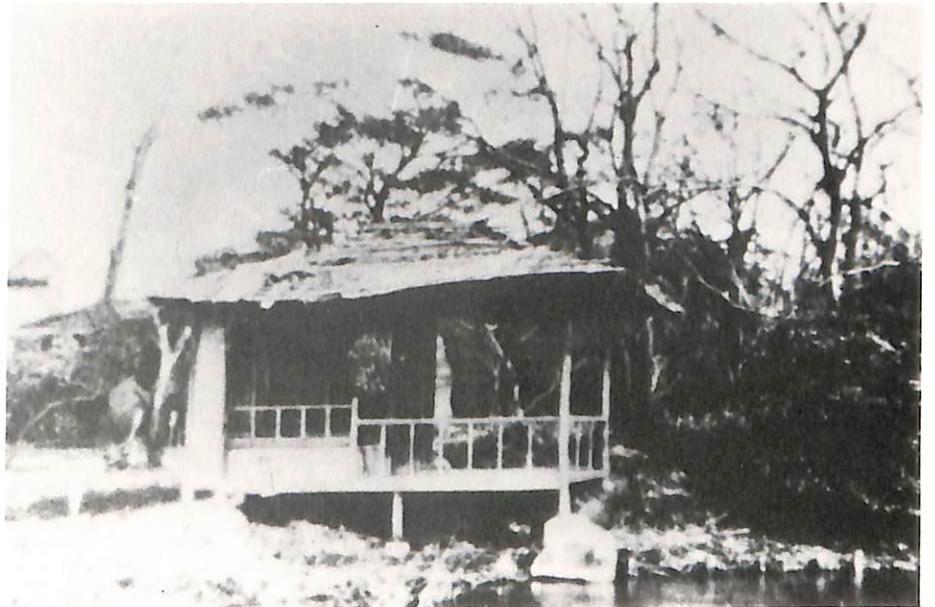
昭和12年



257 百花園

先の写真のあずまやの部分で、だいぶ荒れている。

昭和12年



258 百花園桑御殿

大正の博覧会につくられた、桑材を使って建てられた座敷で、百花園に移築されたものという。戦後とりこわした。

昭和12年



259 百花園料亭「ちとせ」

現在の南西隅の児童公園のあたりにあった。百花園が始め経営していた料亭といわれる。

昭和12年



260 百花園横通り（葬儀風景）

現在の新川屋酒店のあたりと思われる。葬儀風景であろう。向島薬局が反対側にあった。

昭和初年か
「一寺小百年写真展」より



261 寺島の渡し

現在の地藏坂上の入堀(平作堀)から橋場に通じていた渡しで、言問橋が架る頃まで営業していた。

昭和初年



262 墨田堤 (墨堤)

地蔵坂上の旧墨田堤の残っている部分あたりで「ハンド・バック五月女」などとみえる。

昭和12年
師岡宏次 「思い出の東京」より



263 白鬚附近の大水

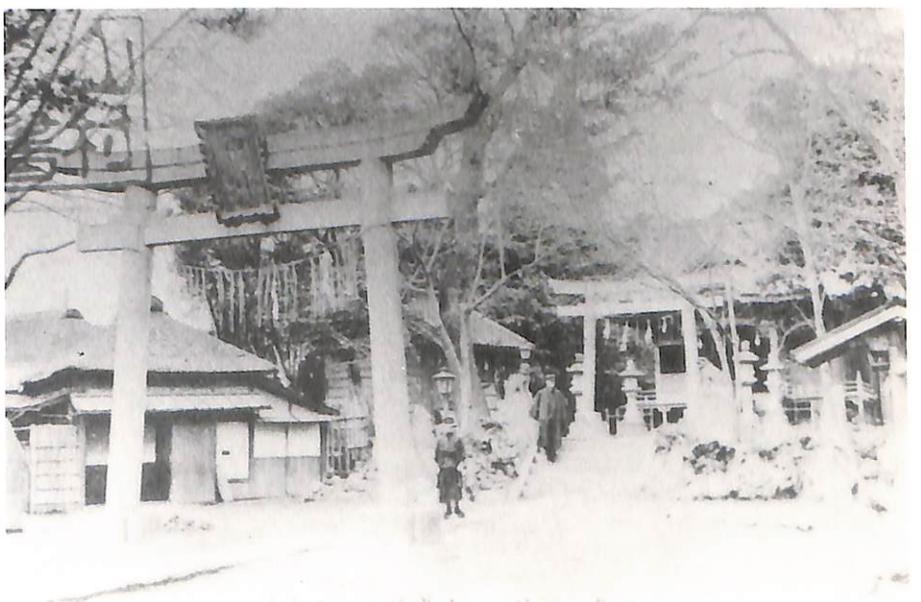
明治43年 8月



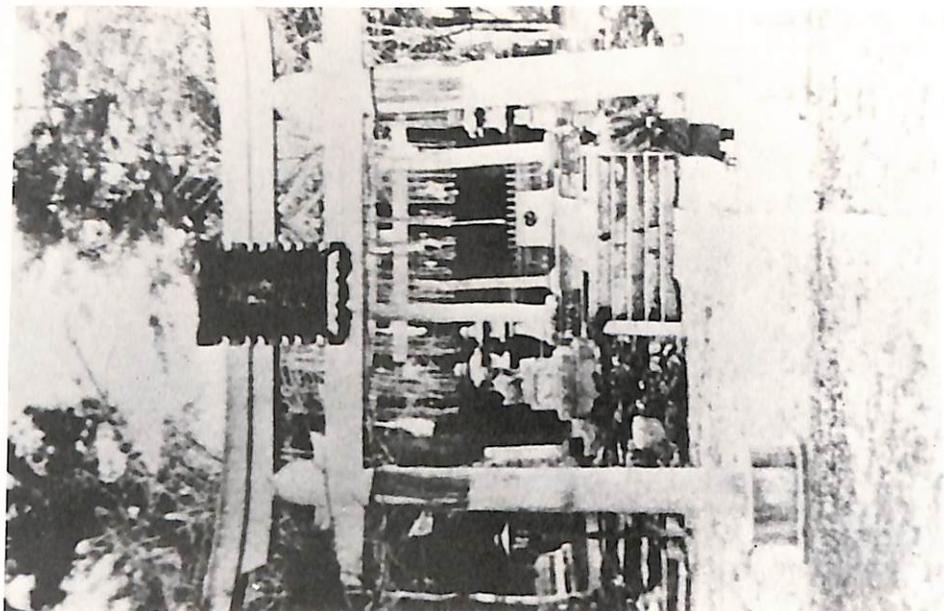
264 白鬚神社

隅田川七福遊紀念として発行された絵ハガキの一枚である。旧寺島の氏神で、橘千蔭の書になる享和2年(1802)の「白鬚神社縁起碑」などもある。

明治40年

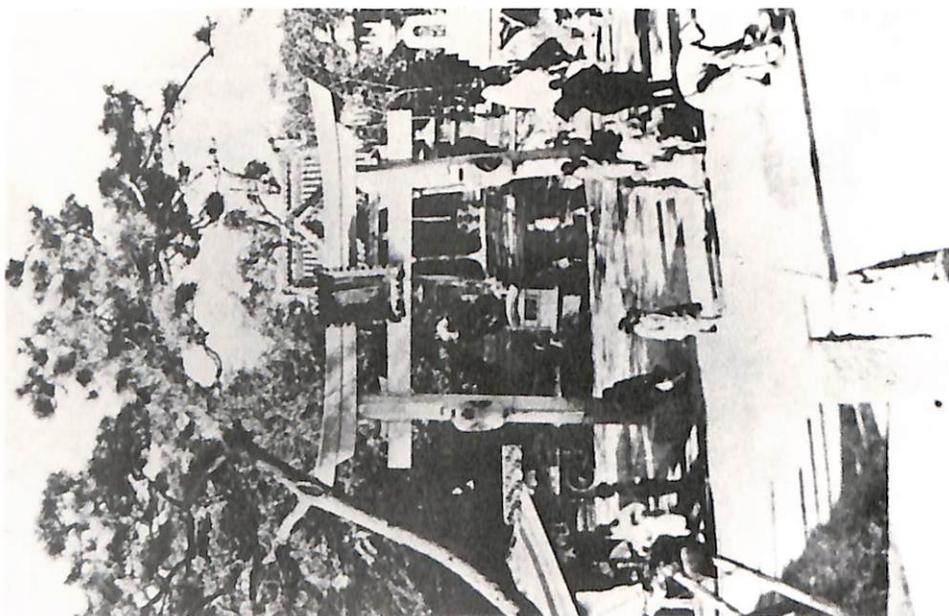


265 白鬚神社



昭和6年

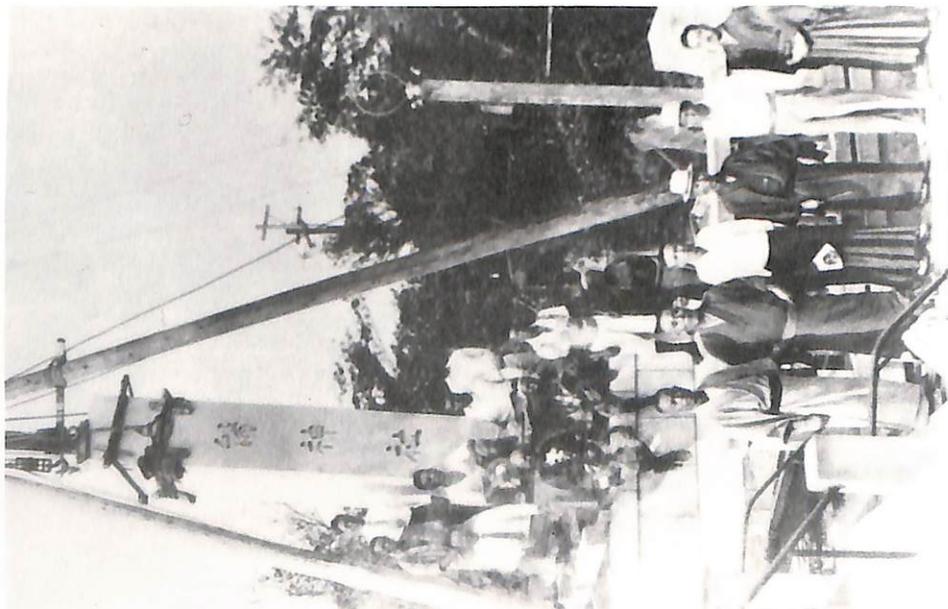
266 白鬚神社



昭和6年

267 白鬚神社

石碑に「昭和12年5月」御昇格
記念 伯爵清浦奎吾謹題八十八
翁」とみえる。



昭和12年

法泉寺の横の道を土手にあがったところ附近で、土手を横切って進むと白鬚の渡し（橋場の渡し）に出た。

明治30年頃



269 白鬚神社附近での労働者大会

明治34年4月3日、二六新報社主催のもとに白鬚神社前の土手外の野原で第一回労働者大懇親会が開催された。

明治34年



270 白鬚の渡しへの道

先の写真の墨堤を横切るとこの場面で、田甫・畑中の道を進むと渡しであった。北側に小松島遊園もある。

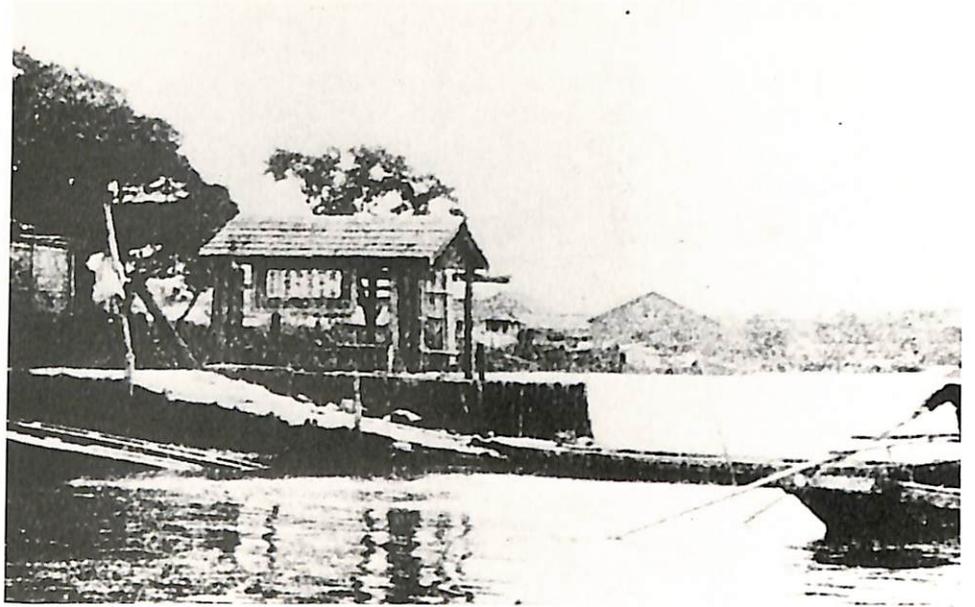
明治30年頃



271 白鬚の渡し（橋場の渡し）

舟の発着場ともいえ、蒸気船の船着場によった。小松島遊園のうらになっていた。

大正末年



272 白鬚橋

大正2年にこの地域に橋がなく不便なので株式会社組織にして、着工し、大正3年5月から有料橋として完成した。

大正3年



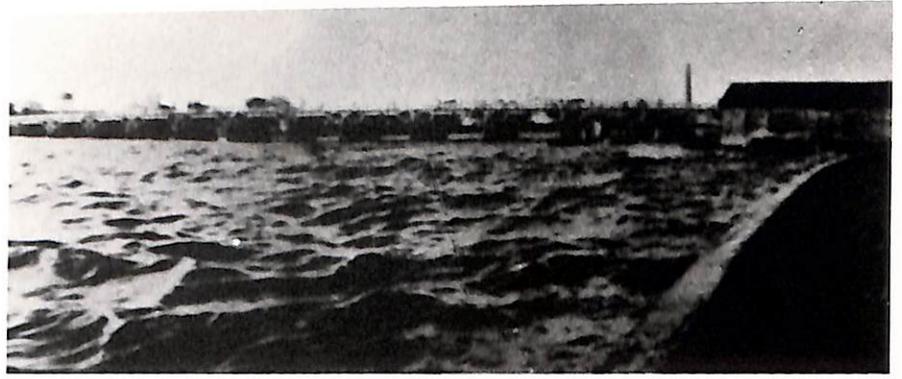
273 木造時代の白鬚橋

大正3年から、大正14年に東京府に移管されるまで有料であった。

大正10年頃



274 木造時代の白鬚橋



大正末年

275 白鬚橋を望む



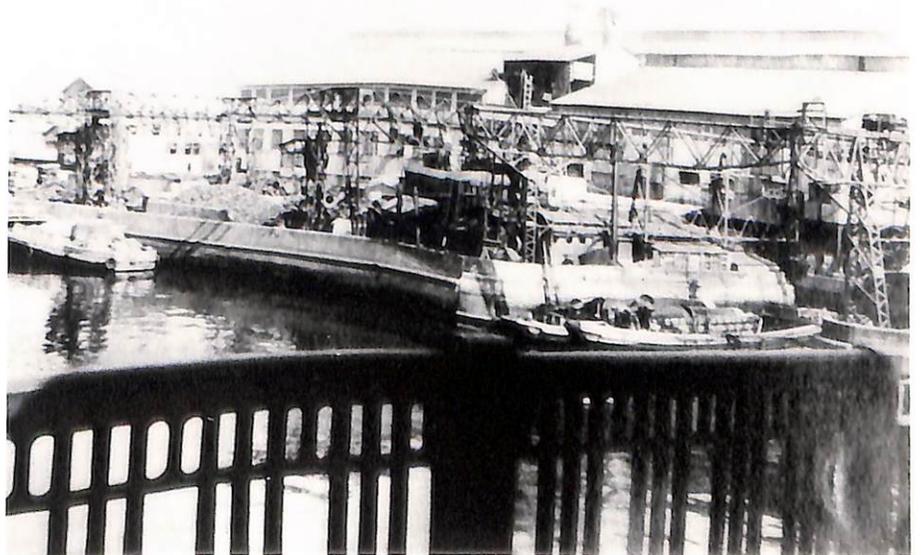
昭和3年鉄橋に架け換えられる
ことになり、同年9月着工し、
昭和6年6月完成した。

昭和6年

276 白鬚橋から久保田鉄工所を
望む

昭和2年、隅田川製鉄所を買収
し、久保田鉄工隅田川工場とし
て鉄管をつくっていた。

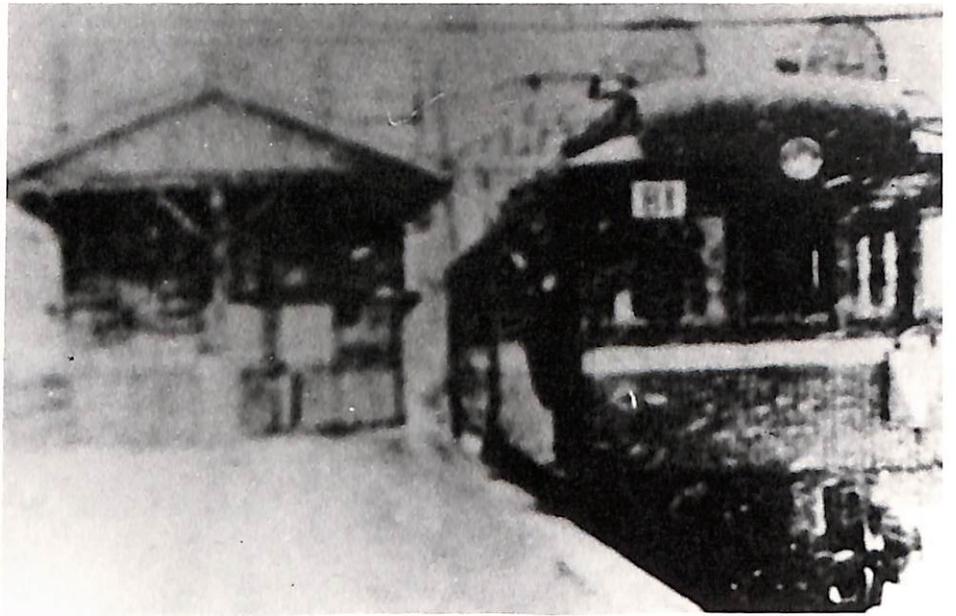
昭和32年



277 京成 白鬚駅

昭和3年、向島・長浦・玉ノ井・白鬚間の1.3kmの白鬚線が開通した。しかし営業不振で昭和11年2月で廃止となった。

昭和11年2月



278 寺島小倉別邸

明治39年旧鍋島候の下屋敷を買取り、そこに百花園の南隣りにあった旧池田候の下屋敷の建物を移築した。玉の井駅の北西で1万坪の敷地があった。

大正7年



279 寺島小倉別邸

本所・向島にも大名屋敷やその他広大な邸宅が多くあったが、洪水を受けるに及んで、そのほとんどがいわゆる山手に越していった。

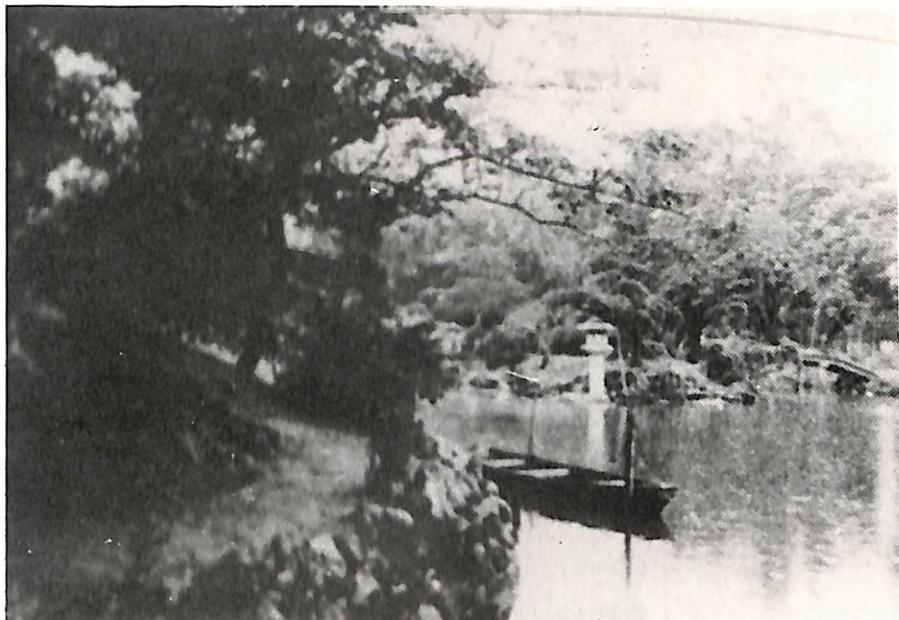
大正7年



280 寺島小倉別邸の庭

1万坪の屋敷はうっそうと樹木が繁り、築山があり、茶室があり池も1000坪に及び、冬になると数百羽のかもが群がった。最も近年まで残っていた屋敷だった。

大正7年



281 東武線玉ノ井駅

駅舎は戦災にあわなかったので趣きを残していた。高架線になる昭和42年まで利用されていた。

昭和32年



282 玉ノ井附近での紙芝居

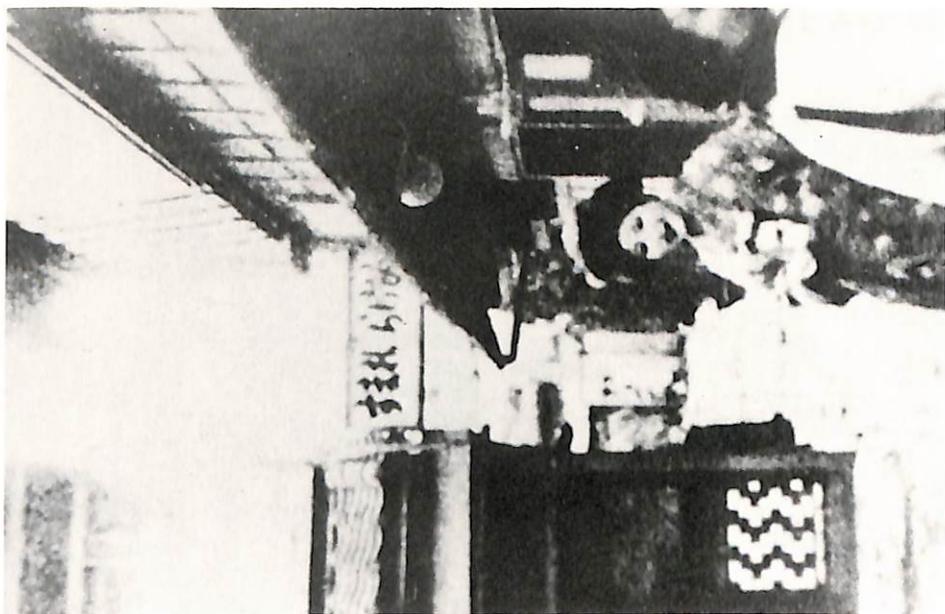
拍子木・タイコ・ラッパなどでその辺をひとまわりして、子供達を集め、あめ・こんぶ・いか等々の駄菓子売ってから昨日の続きを読みはじめる。ただ見は後であった。



283 旧玉ノ井銘酒屋街

関東大震災をさかいに、玉ノ井駅近くに出来だした酒場から、浅草12階下の私娼街が移って来て、いわゆる「玉ノ井」を形成した。永井荷風の「濃東綺譚」の舞台になる。

昭和10年頃



284 旧玉ノ井銘酒屋街

戦後は特飲街といわれ焼け残った、かつてより北部に移転したが、3尺の切土間の小さな窓から、顔をちらっとみせて声をかけていた。

昭和15年頃



285 京成バス寺島営業所

浅草から玉の井を通る隅田乗合を昭和7年買収し、玉の井に寺島営業所を設置した。

昭和7年



286 いろは通り (栄通り)

いろは通りの荒川寄りからみたところで、この当時は京成バスが通っていて、バス停の標示では「栄通り」になっている。右側が現在の墨田3丁目、左側が東向島5丁目。

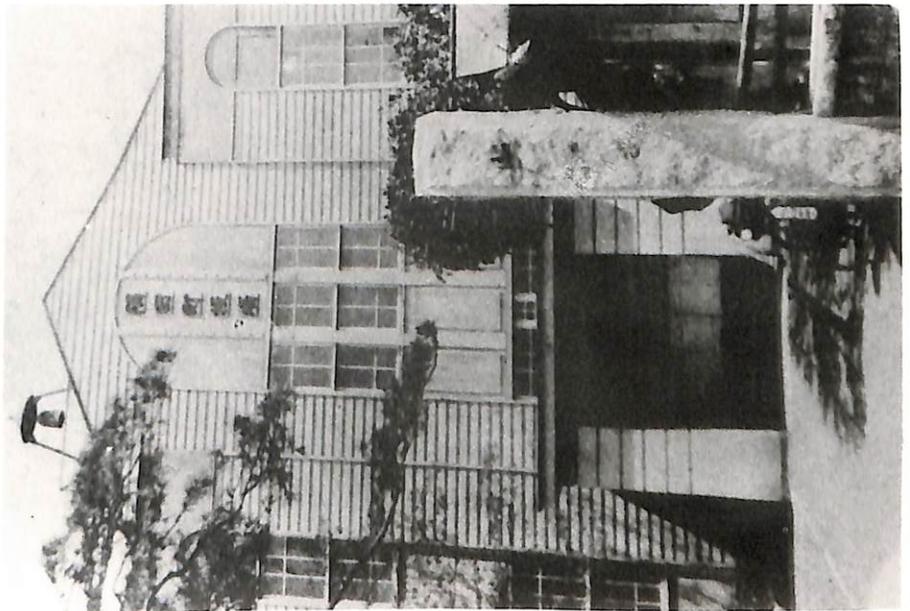
昭和32年



287 隅田町役場

明治22年若宮村・善左衛門村・三才村・隅田村が合併して隅田村となり、大正12年村から町制となった。町役場は、南葛飾郡隅田町大字隅田964番地（現墨田4-2-163）にあった。

昭和5年



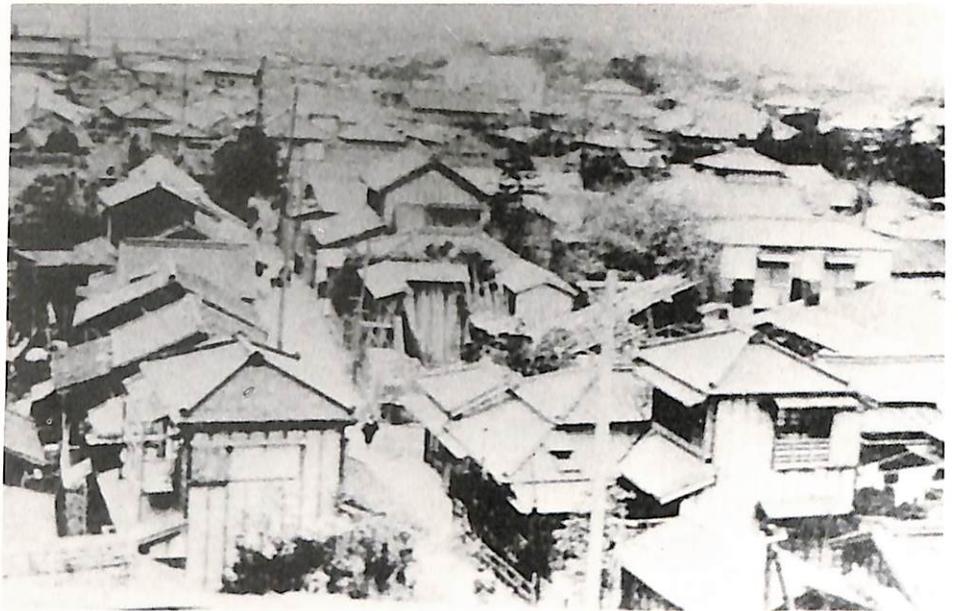
288 寄席 隅田館

隅田町3-519（現 墨田5-42）にあった、寄席で、写真のだしものは浪花節津田清美丸一門の出演のようにみえる。

昭和5年



289 隅田の町並み



昭和10年頃か

290 スミダ幼稚園



リヤカー改造の園児送迎車が人気をよんでいた。

昭和・年不明

291 梅若消防署より新四ッ木橋を望む



昭和32年

292 隅田の出水

急激な夕立で時ならぬ出水。隅田町4 - 189 (現 墨田3 - 37) 附近。

昭和35年夏



293 隅田下通り

梅若小学校前の通と思われる。

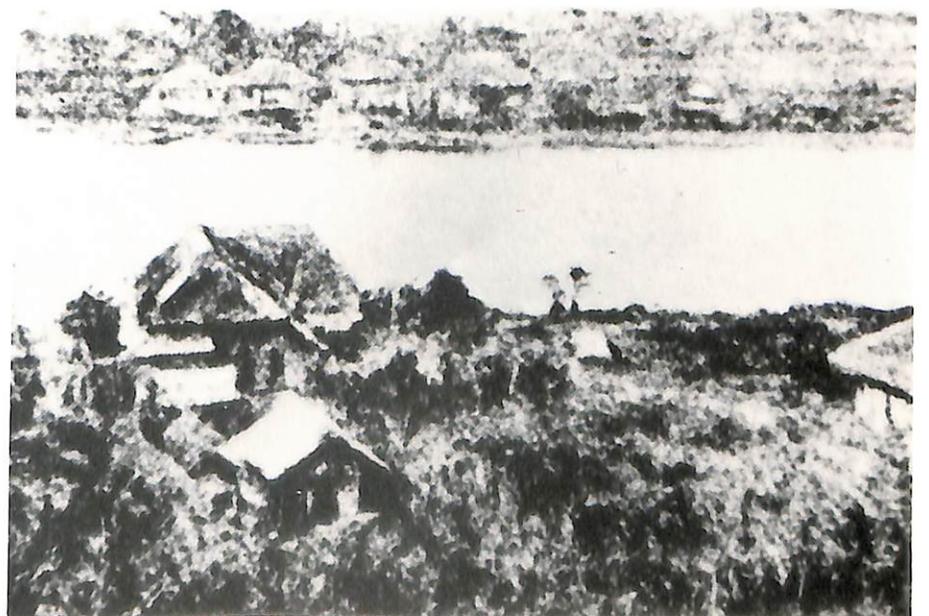
昭和42年2月



294 隅田風景

墨田堤から堤外の隅田川方向を望んだものといわれているが。

明治初年



295 隅田の農村風景

隅田村の農村風景を写したものの一枚で、特別に撮らせたものであろうか。

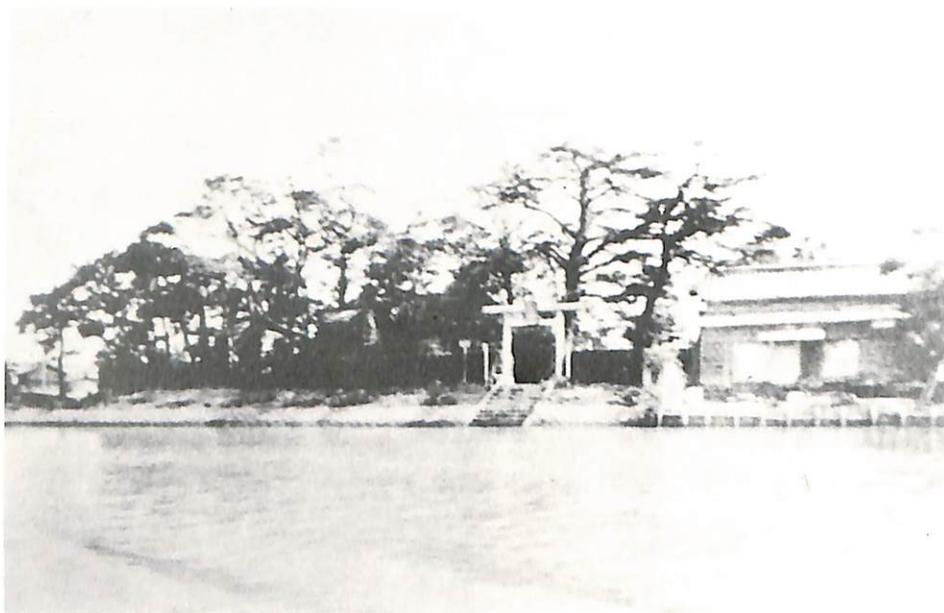
明治末年



296 隅田川神社（水神）

隅田川総鎮守として水神社または浮島神社の旧号がある。治承4年（1180）源頼朝が、この川辺を渡るに際し靈験を感じ、社殿を造営したとも伝える。目通り3尺7寸のぐみ、5尺9寸のさいかち等の珍木もあった。

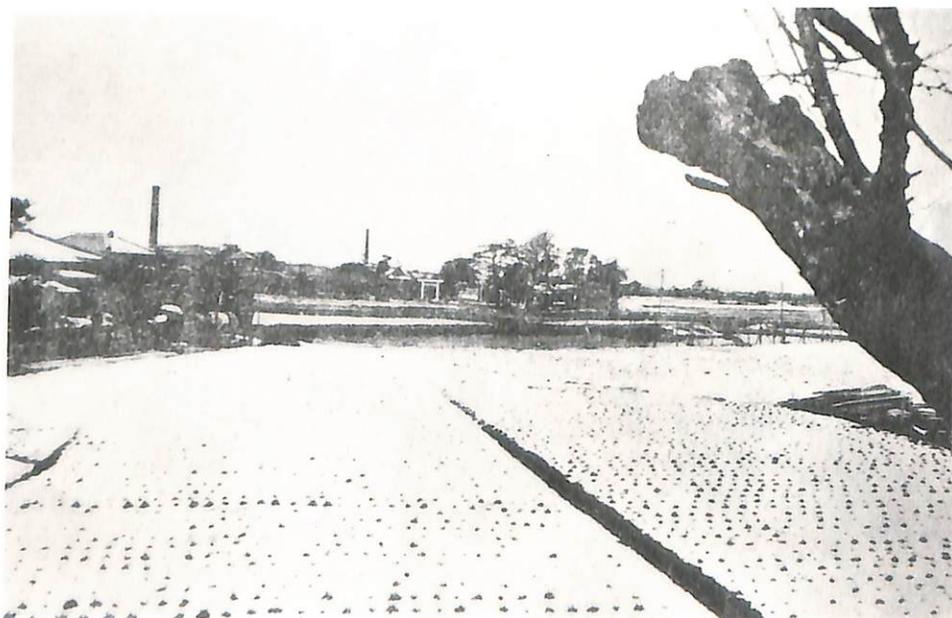
明治40年頃



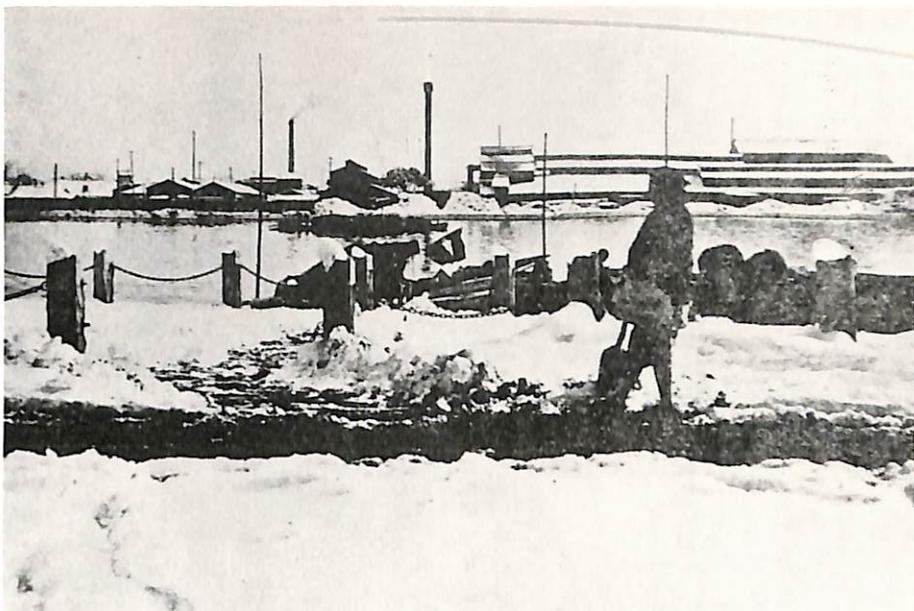
297 墨堤から水神を望む

墨堤の桜の古木越しに、田甫、蓮池の向こうに水神社（隅田川神社）をみる。

大正8年
「東都名勝図絵今昔写真集」



298 真崎稻荷辺より梅若堀を望む



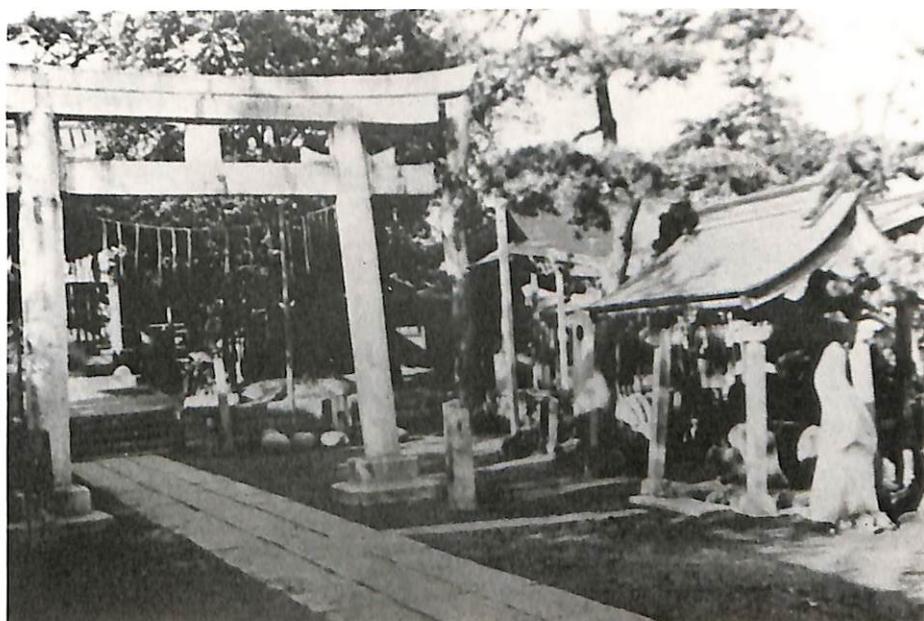
対岸の大きな工場は車輛の天野工場であろうか。

大正8年
「東都名勝図絵」より

299 隅田川神社

隅田川神社は震災・戦災にもあわなかったが、白鬚の防災地区に入ったためこの時より、少し西南に移転し南向を東向に改めている。

昭和6年



300 堤通りにあった都営住宅

現在白鬚東地区の防災拠点。再開発のため高層化して整備中といえる。

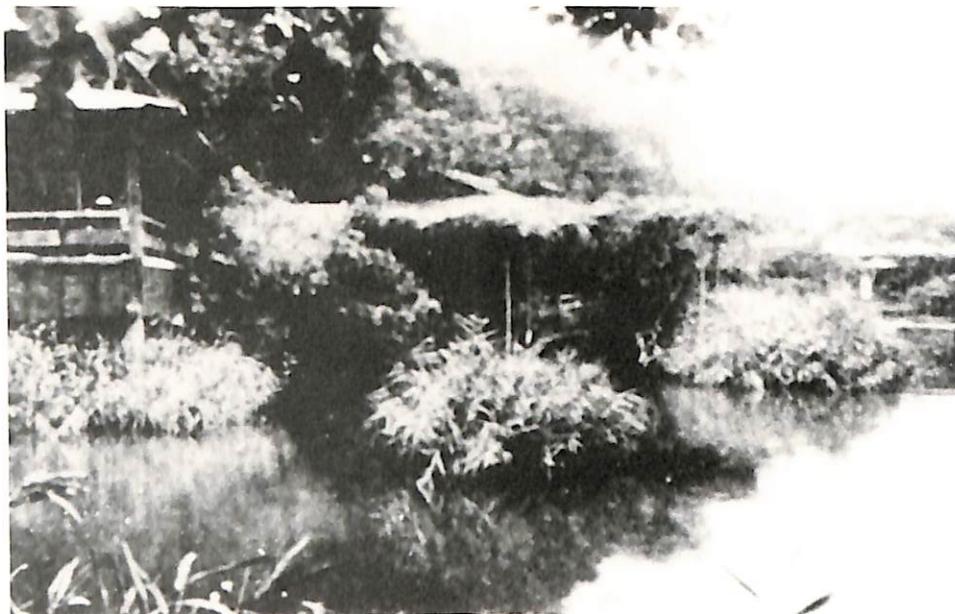
昭和40年頃



301 水神八百松

「吾妻屋と称し木母寺の傍に在りて、普通の料理店を営む。主人小山松五郎は八百善（山谷）方の料理人に住み込み……、八百松と称し、後ち水神の傍に移転……」（東京名所図絵）。小山内薫「大川端」の舞台にもなった。

明治40年頃



302 梅若塚木母寺

木母寺の起源は、梅若丸で知られる梅若塚により、平安中期貞元元年(976)、忠円阿闍梨によって創建されたと伝える。

この写真は明治に入って排仏毀釈によって、梅若神社となっていた頃と思われる。

明治初年



303 梅若塚木母寺

ふるくは隅田院梅若寺と号したが、天正18年(1590)徳川家康が梅柳山の山号を与え、慶長12年(1607)近衛信尹が梅の字を分けて木母寺としたと伝えている。

明治初年



304 梅若塚木母寺

明治18年建立された「柳北成島先生碑」は戦災で失滅してしまったが、明治22年の「三遊塚」は現在も残っている。

明治30年頃



305 木母寺附近

木母寺の裏の梅若堀の方から望んだものであろうが。現在の木母寺は、丁度梅若堀の隅田川口川の辺に移転したことになる。

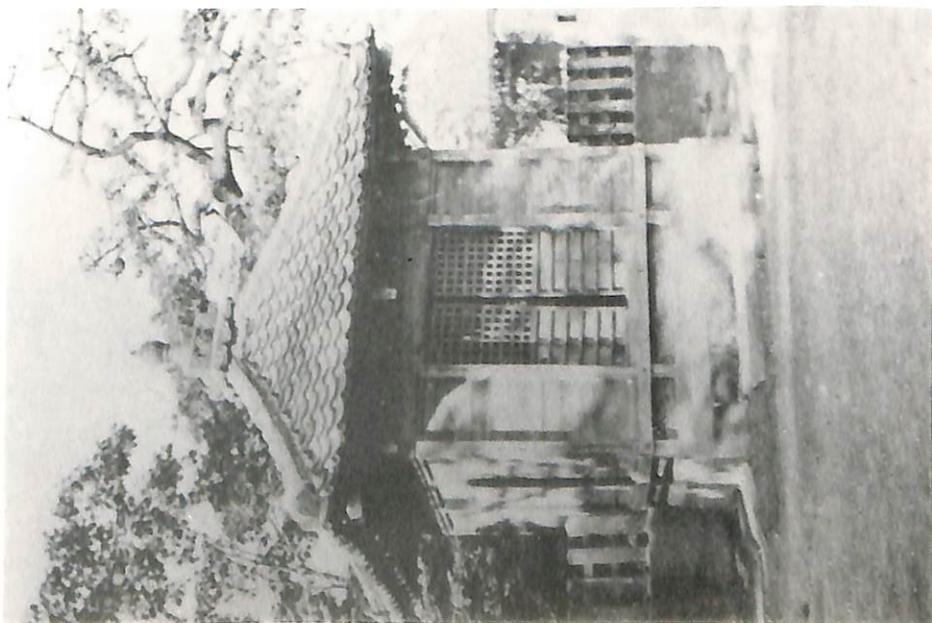
大正8年



306 梅若塚木母寺

梅若塚の前祠で、現在もこの建物はガラスで覆れた堂に納められている。念仏堂というのだろうか。

昭和6年



307 梅若塚木母寺

梅若塚の本祠と前祠がみられ、
前祠の屋根が変っている（前の
写真参照）。

昭和32年頃



308 梅若堀

木母寺の裏手にあった川で、か
っては木母寺内川とか水神森内
川とか関屋川ともいわれていた。
木母寺をはさんで御前裁畑があ
ったその後、梅若堀といわれた
が、埋立てられた。

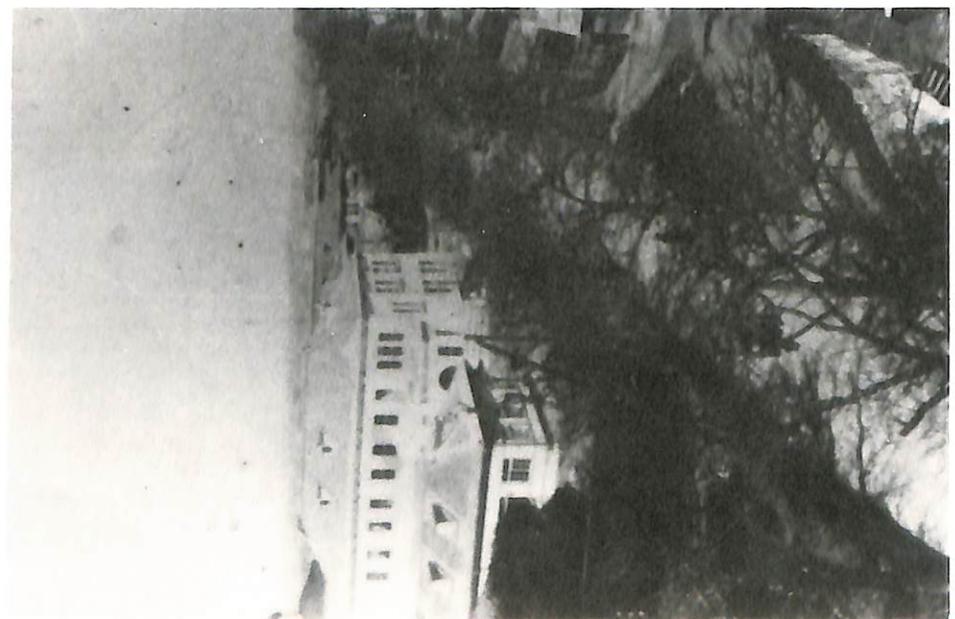
昭和32年頃



309 墨堤鐘紡附近

明治13年になって、枕橋から綾
瀬川まで、桜並木がつながるが、
墨田堤の面影を残す貴重な一枚
といえる。

大正初年



310 鐘ヶ淵紡績会社

「明治22年大堤外梅若の北、関屋川の北岸より綾瀬川の隅田川に注ぐ東岸迄字古川敷又関屋の前栽畑等の田畑を残らず埋て、宏大なる紡績工場を建設」(東京名所図絵)とみえる。

明治30年頃



311 鐘ヶ淵紡績会社

工場内棉花作業風景「男工七百人女工二千三百人余晝夜間断なく製造に従事するあり」(風俗画報)とみえる。

明治末年か



312 鐘ヶ淵紡績会社

戦事中、空襲にそなえて事務所やいろいろな建物に迷彩色をほどこしたり、ガラス窓に米印に紙テープを占ったりした。

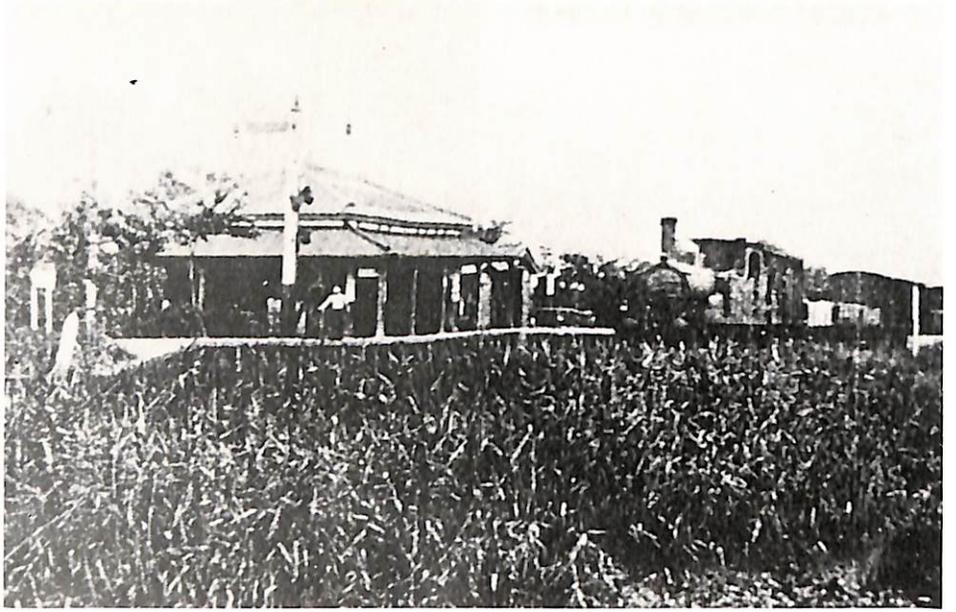
昭和26年頃



313 東武線鐘ヶ淵駅

明治32年、北千住―久喜間が開通し、明治35年4月1日に千住―吾妻橋（業平橋駅）が延長され、はじめて向島地区にも鉄道が敷設された。芦原に囲まれた田園風景。

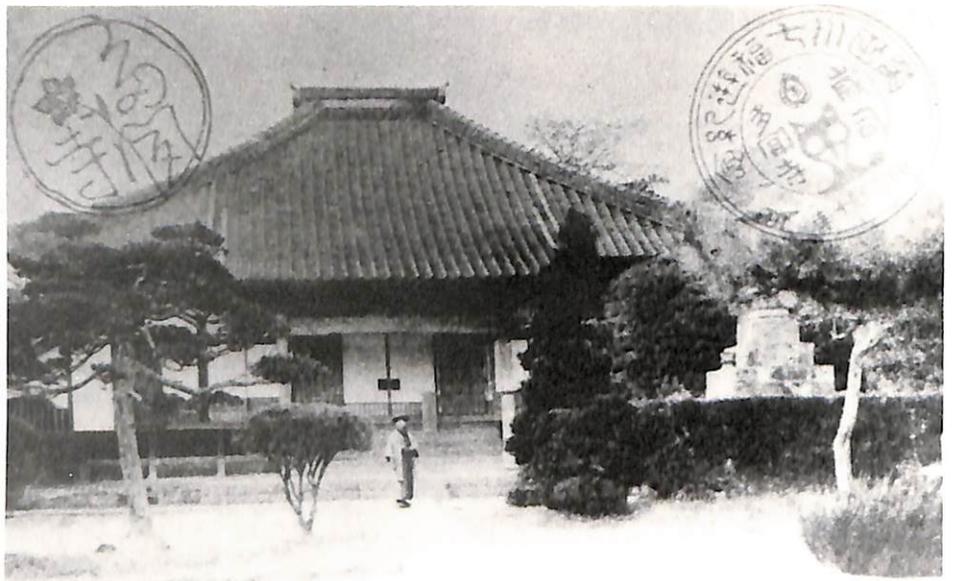
明治40年頃



314 多聞寺

多聞寺はかつて大鏡山明王院隅田寺といい、天徳年間（957）、羽芝（橋場）の津頭千軒町のほとりに創建されたといい、天正年間（1573）隅田川のほとりから現在地に移り、隅田山多聞寺となったと伝える。

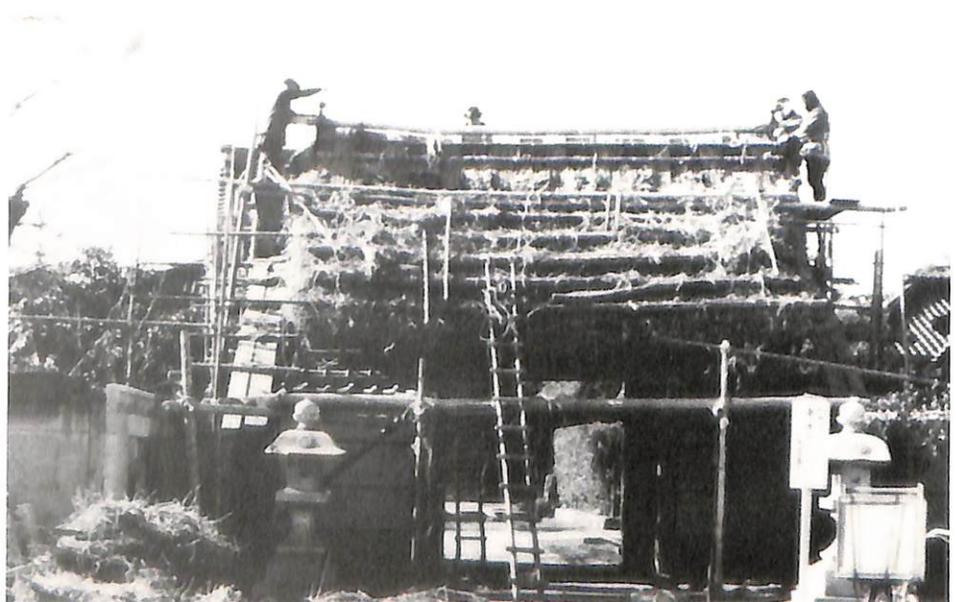
明治40年



315 多聞寺山門

江戸期の建物と伝え、享保3年（1716）の他建物の火災の時も免がれたものといわれている。屋根の茅の葺き替え。

昭和・年不明



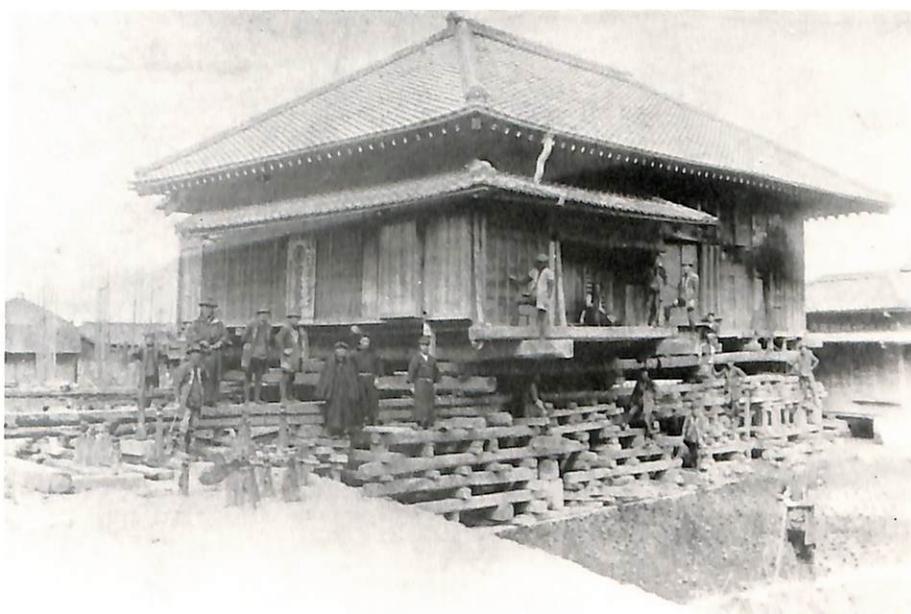
316 隅田村の東武線路上に避難



明治43年の大洪水で、東武線路上に仮住い。

明治43年8月

317 荒川放水路開削のため移転する鈴木家



明治40・43年の大水により、川口、赤羽から東京湾に至る川河開削工事が計画され、44年から20年の歳月をかけて昭和5年完成した。建物は現存。

大正初年
提供・鈴木徳雄氏

318 綾瀬川綾瀬橋



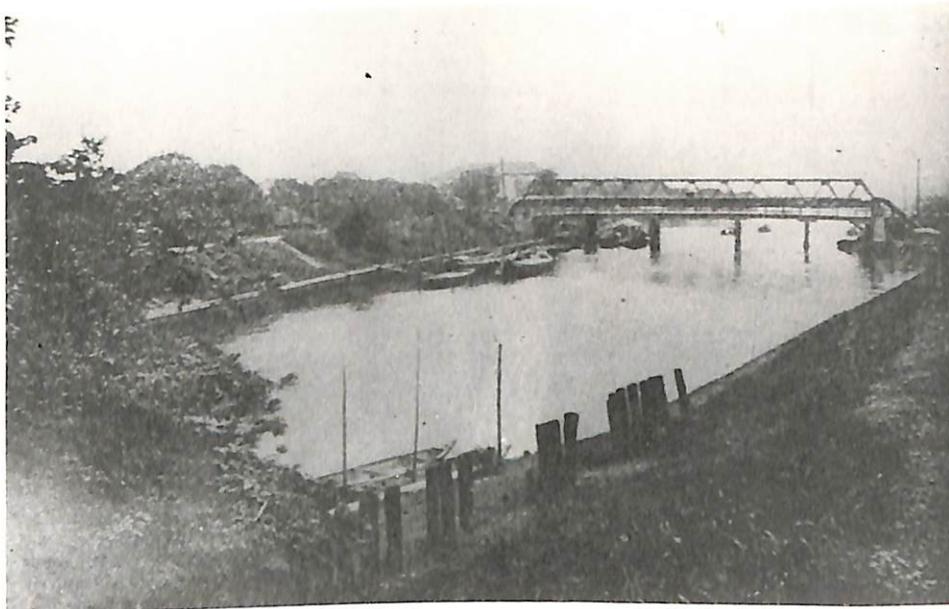
綾瀬川を現在の足立区側から荒川放水路の方向を望んだものであろう。

大正8年
「東京名勝図絵」より

319 綾瀬川

かつては利根川・荒川などの本流が現在の綾瀬川のあたりで合流しながら隅田川となって東京湾（現在の）に注いでいたともいわれる。堀切駅の方から墨田区側を望む。

昭和5年頃



320 中居堀

曳舟川（旧本所上水）の四ッ木辺で分水して、木下川、大畑・小村井方面の灌漑用水としたものであろう。昭和37年暗渠化された。

昭和15年頃



321 吾嬬神社

由来は、日本武尊東征のおり、相模から房総に渡るとき、暴風雨にみまわれ、そのいけにえと なって海を静めた、弟橘媛の流れついた遺品を葬って塚としたといわれている。右手が連理のくすであり、参道の両側が蓮池になっていた。

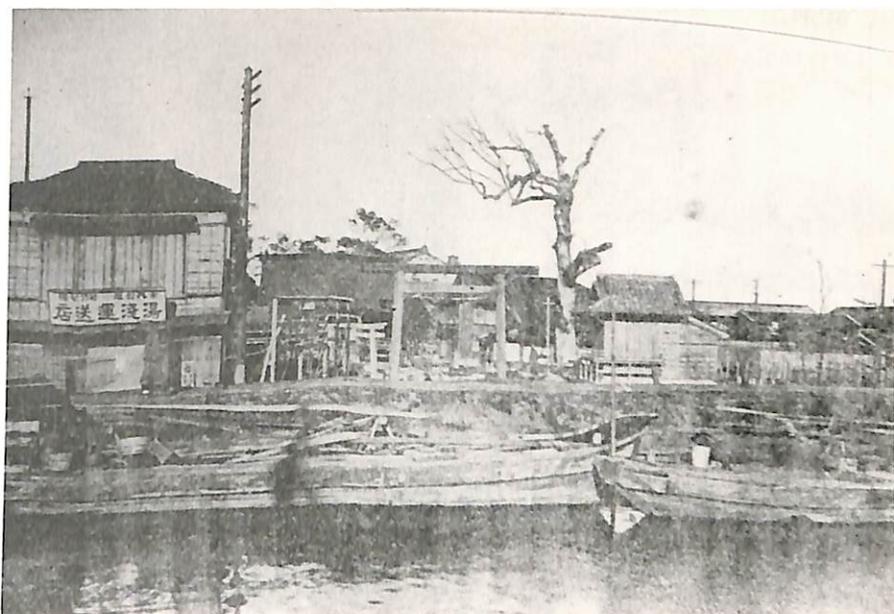
明治30年頃



322 吾孀神社

北十間川越しに望む景で、かつて江戸名所図絵にも「連理の楠」として描かれた楠の枯木がみえる。

大正8年
「東都名勝図絵」より



323 吾孀神社

蓮池も埋められ、楠も枯れて、かつては浮州の森といわれた面影はない。

昭和初年



324 吾孀神社

昭和8年に盛土をして現在のよ
うに本殿を高くするが、その前
の写真である。明治22年この地
域の各村が合併して吾孀村とな
るが、この社から命名した。

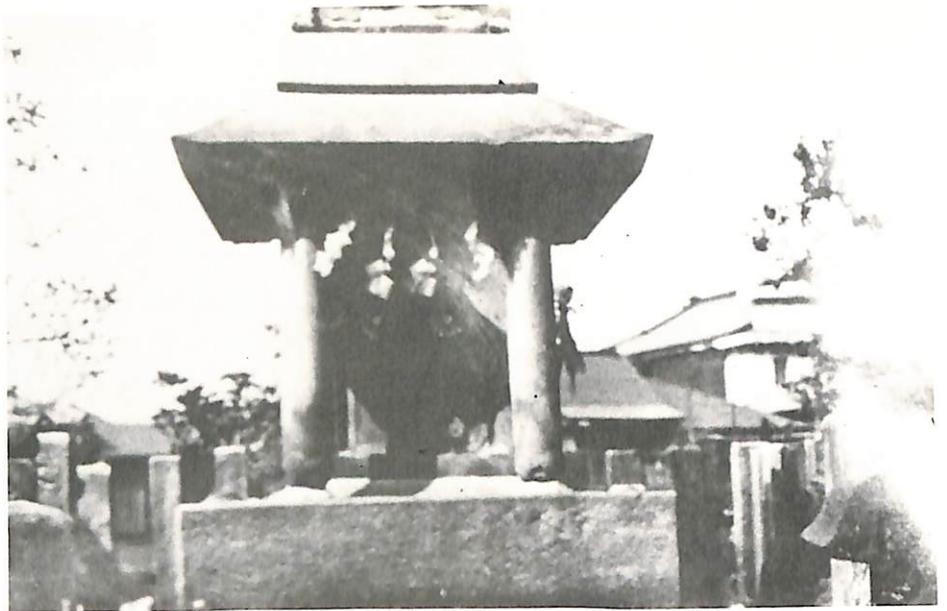
昭和5年



325 吾孀神社

昭和8年、盛土をするので本殿を改修した時の写真で、奥社のがっしりとした造りの石殿がよくわかる。

昭和8年



326 慈光院

北十間川に沿った立花団地の東隣りにあるが、永正11年(1514)葛西武胤が、その妻慈光院追福のため建立したと伝える。

昭和5年



327 国道環状線(現 明治通り)

昭和2年に建設された道路で、明治神宮の横を通り、東京駅を中心にぐるりと廻って品川までいっていた。

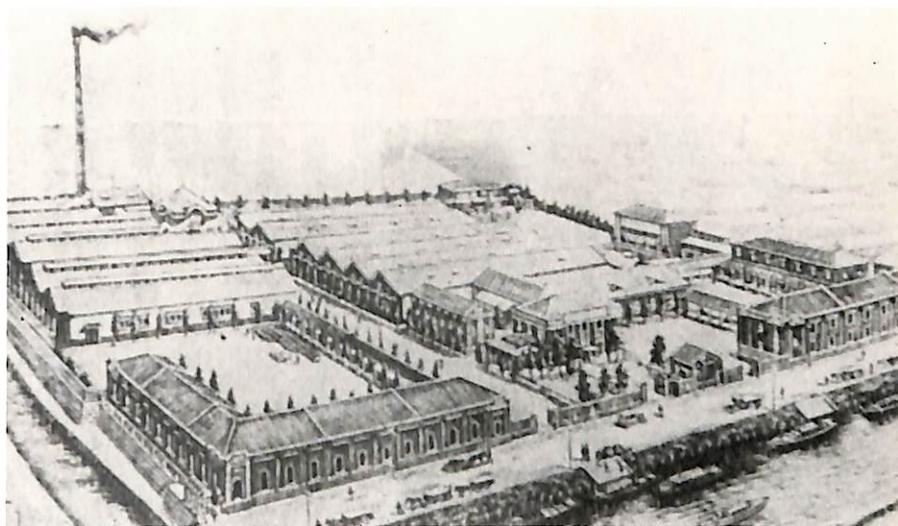
昭和5年
「吾孀町誌」より



328 長瀬商会吾孺町工場（現
花王石けん）

墨田区には多くの石けん工場があり歴史を持っているが、花王石けんも明治29年新宿から向島須崎町に工場を移転し、大正11年現在地（福神橋）に新工場を建設した。

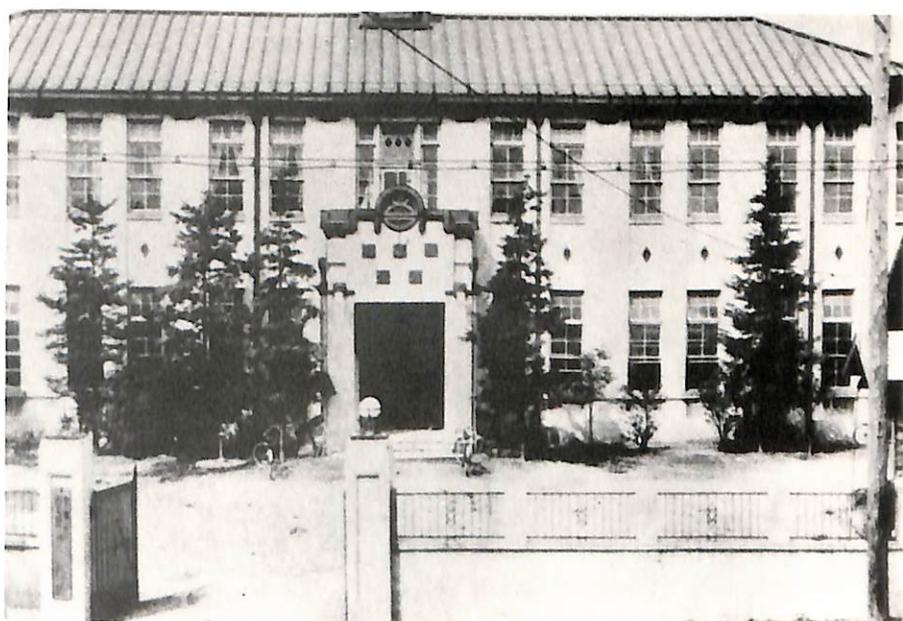
大正11年



329 吾孺町役場

現在の向島警察署のところにあったもので、大正1年村から町制になった。

昭和6年



330 小村井梅園（江東梅園）

香取神社の正面鳥居から明治通りにかけてこの梅園があった。小村井村名主小山孫左衛門の経営のもので、亀戸の臥竜梅よりも広がったと伝える。

明治30年頃



331 十間橋通り

十間橋については、いつ架橋されたか定かでない。現在の橋は昭和13年と思われる。この写真は「吾嬭町誌」(昭和5年)に掲載されているものなので、木橋があっあとと思われる。

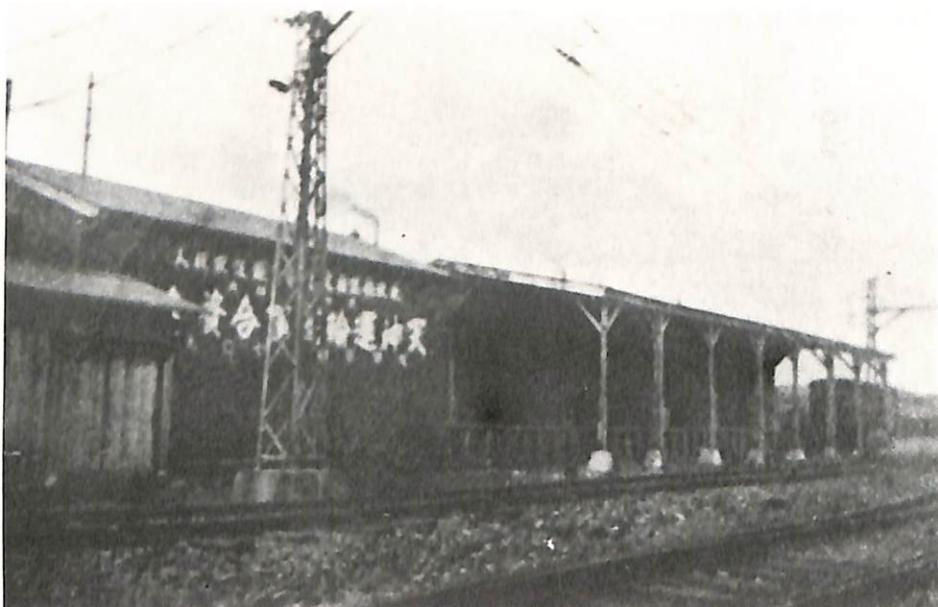
昭和5年



332 東武鉄道天神駅

亀戸線は明治37年に開通し、電化は昭和3年4月15日、四ツの停留場が設置され、同年8月貨物専用駅として開設されている。

昭和5年



333 吾嬭製鋼所

昭和3年に清岡栄之助氏が旧吾嬭町東4丁目62番地に製鉄・製鋼工場を建設し、翌年小型溶鋳炉を完成した。この写真は昭和20年3月9日の大空襲の被害を受けたものと思われる。

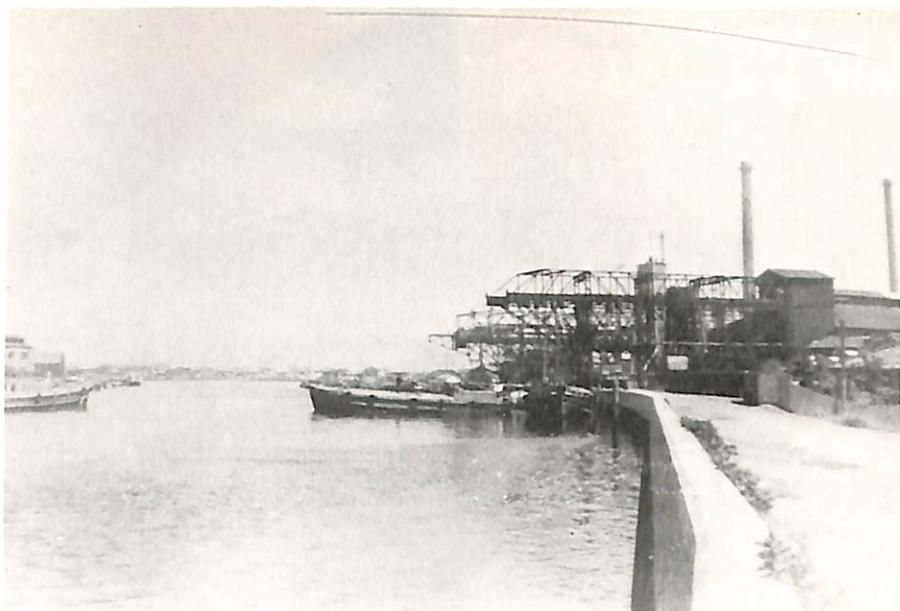
昭和20年4月



334 吾孀製鋼所

中川を利用して鋼材を運搬していた。現在工場は移転し、跡地は都営の団地となっている。

昭和32年



335 三輪里稻荷神社

慶長14年（1609）出羽湯殿山の修験が、倉稲魂命の小社を建立したのを草創とする。「こんにやく」の御符を初午の日に授与するところから、「こんにやく稲荷」と通称される。

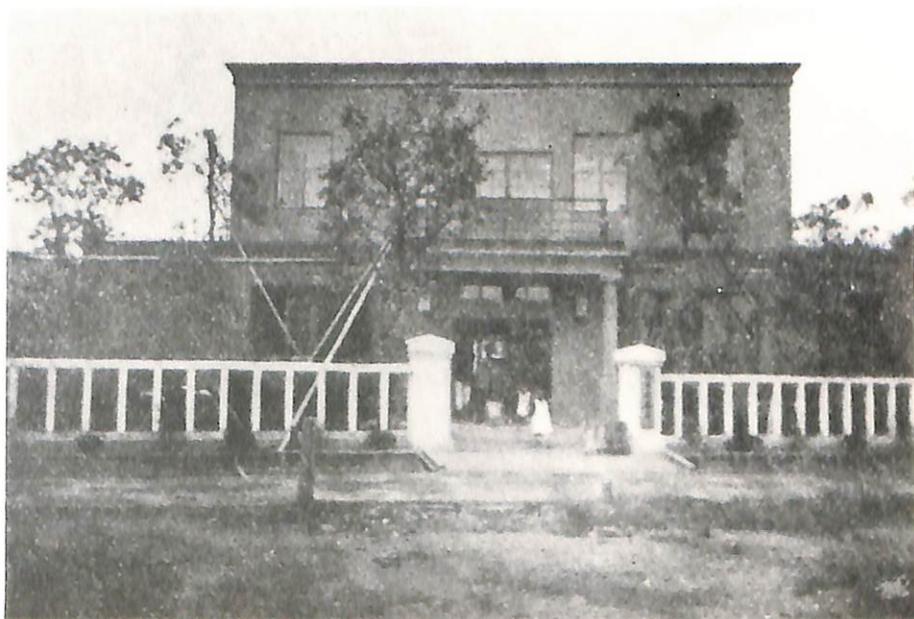
昭和5年



336 吾孀診療所

無料診療施設として、昭和6年7月に開設された。

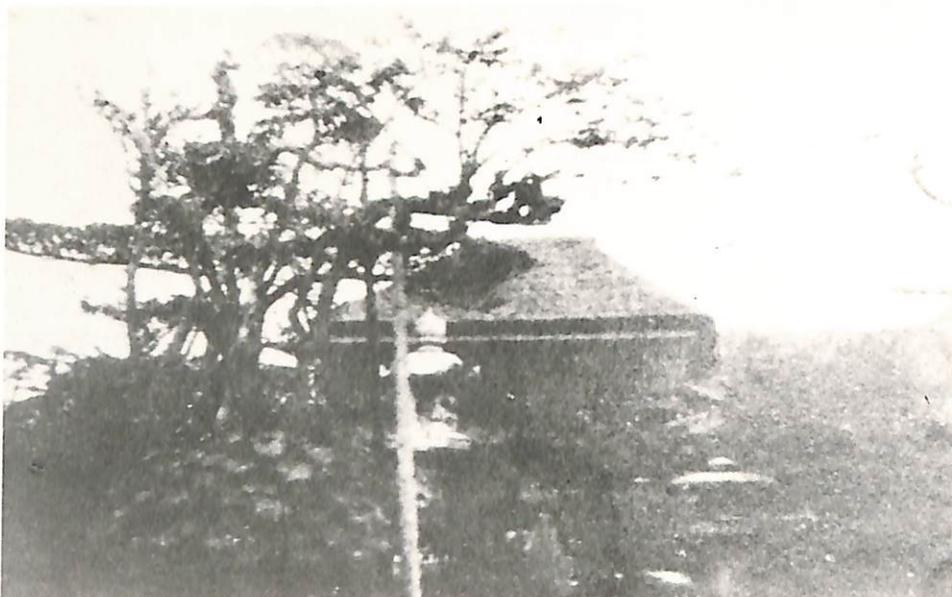
昭和6年



337 治郎兵衛梅園（木下川梅園）

木下川村名主村越治郎兵衛の梅園で、附近の梅園では一番広がった。現在の荒川放水路にほとんどがかかってしまった。

明治30年頃



338 常磐の笠松（鹿倉吉兵衛氏庭内）

墨東地域には名木が多かったが、この鹿倉吉兵衛氏庭内の広く広がった松は常磐の笠松として知られていた。

昭和5年



339 旧中川・平井橋附近

平井橋は明治33年に架設されるが、ここには、吾妻橋を経て平井聖天へ通ずる参詣道、更に行徳へ通じるため大いに用いられた。

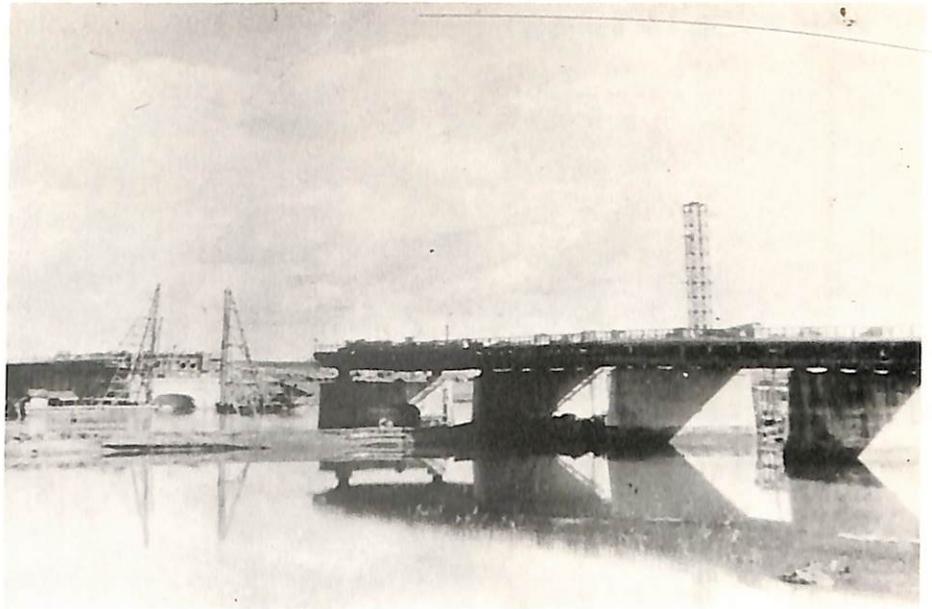
昭和10年頃か



340 新四ッ木橋

昭和14年に着工した新四ッ木橋は戦時中一時工事が中断され、26年5月に再開され、27年7月に完成した。

昭和27年



341 新四ッ木橋渡り初め

墨田区、葛飾区から二組づつ親子三代の夫婦が渡り初めをした。

昭和27年7月30日



写真を提供して下さった方々、および複写の利用をおゆるし願った方々に、お礼申し上げます。
なお、編集解説は小島惟孝が担当した。

墨田の今昔—写真カタログ—

発行・昭和56年3月31日

発行者・墨田区立緑図書館

墨田区緑2-23-3

TEL.(631)4621

印刷・有限会社一力印刷所



墨田区立あずま図書館



31 513815

墨田区立図書館叢書 2

6
区